

R025.1-0737



1200500765675

R025.1
73
)

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

始



1-13B-3

R 1
0258
073



以後
大
出版
書籍
目錄



708-55- 11 101

緒言

大阪圖書出版業組合事務所に江戸時代中葉からの古記録、開板御願書扣、享保九年二月—明治六年十二月三十四冊、裁配帳(元文四年—明治八年)八冊、差定帳(同上)九冊が整然と保存されてゐる。開板御願書扣は説明するまでもないが、後の二者は、版權侵害の紛議、調停裁斷の始末、仲間の申合せ規約等を詳細に記録したものである。

京都・江戸の記録が全く亡失したる今日、大阪だけが不思議にもこれらの文書を傳存し得たことは誠に意外の幸慶といはねばならぬ。今回大阪圖書出版業組合がまづ開板御願書扣に據つて出版書籍目錄を作り、書名索引、著者索引、絶板書目の三種を添へて搜索に便し、なほ裁配帳、差定帳等の要を摘んで組合沿革の概略を年表的に記載したものを加へて出版されたことは、獨り同業者たる書林の好参考書たるのみならず、一般讀書人に多大の恩恵を與ふるものである。

本書が享保九年から始まつてゐる譯は、同八年十二月二十三日大阪本屋仲間及びその行司制度が公認せられ、組合組織が成立して行司に新刊書の審査權が附與されたからで、爾來新刊書は書名冊數作者名を記して、

右之書行司立合相改候所、何方にも差構無之書に御座候間、板行被爲仰付被下候様に御願上可被下候以上

との書式で、行司二人と開板人との三名連署の上、年寄役(三人)へ差出して公許を得たのである。繪本とか洒落本とかいふ類の手軽な一冊物は行司だけで聞届けて板行させ、年寄の手を経なかつたものも多い。これが明治六年で終つてゐるのは、同年一般商業の株仲間を解散せしめられた結果、本屋仲間も自然消滅に歸して新制度の出版條例に據る事となつたからである。

その目録を一覽すると當時の文化相が現前に露呈していろ／＼面白い事がある。一般的にいへば京都の古典的學問的なのに對して、大阪は通俗的實用的な出版の多い事であるが、専門的に書誌學の上から觀て啓發される點が少くない。例へば刊記のない書物の出版年月がわかつたり、改版改題の時期が明かになつたり、匿名著者の本名が見つかつたり、賣行の思はしくない書物が二度三度外題替をして頻にあせつてゐる様子など相當な興味がある。

試に自分の注意を惹いた三四例を舉ぐれば、『世間妾形氣』の作者が堂島永來町島や仙次郎とあつて、上田秋成の養家の所在家號のみならず、餘齋老が若旦那時代の通稱が知れ、大阪の讀本作者伊丹椿園は『奇談唐のよし野』の願書に作者島町登丁目伊丹屋善兵衛とあり、近松門左の文藝觀を見るべき唯一の資料として重寶がられる『淨瑠璃評註難波土産』は穂積以貫の著として通つてゐるが、目録には作者備前岡山三木平右衛門と明記されてゐる。以貫が單に他人の名義を借りたものか、それとも三木某が眞正の作者で、以貫はたゞ口繪の近松像に讃詞を題したに止まるものか一疑問とすべきであらう。有名な俗謡集『山家鳥蟲歌』の編者は河州大井村の中野得信といふ者であることが始めて明瞭となり、西鶴の

『男色大鑑』が『古今武士形氣』了意の『浮世物語』が『續可笑記』と改題されてゐる。唐音學者陶山尙善が『肉蒲團』の調點者であり、蘭學者橋本宗吉が『究理源』の出版を出願してゐるのも世相時勢が見えて面白く。

俳書では『俳諧梅翁發句むかし口』安永六年二月が上田無腸(秋成)の編纂で、一般に行はれる一炊庵や月居の序をつけた『宗因發句集』の原本であることがわかり、『玄峰集』が寛政十二年七月『嵐雪句集』と改題、蕪村の『新花摘』寛政九年五月が『夜半翁蕪村遺稿』享和元年五月となり、許六の『青根ヶ峯』が『俳諧要論』寛政十二年五月となり、再び『はいかい問答』同年十二月と改められ、『俳名即鑑』天明六年十二月が森川竹窓『俳諧分類』寛政九年十一月が尾崎雅嘉の作であるなど、多少の興味を呼ぶに足る。これらは自分の趣味から氣付いた所であるが、視角を異にする人々には又それ／＼目の寄る處へ珠が現れるであらう。

昭和十一年五月

藤井乙男識

凡 例

本冊は當大阪圖書出版業組合事務所に傳存せる享保九年二月乃至明治六年十二月此間百五十年當市に於ける書籍開版御願書控三十四冊に登録せる者を以て本編とし、書名索引著者別の二編を附載し、彼是相對應して檢討に便するを以て要旨とす。

右書籍開版御願書控は一時の書留たるに過ぎずして、寫字の筆畫正しからず、讀過に苦しむ者甚だ多し。從て誤讀の少からざるを恐る。

收載の書名には讀方の難澁なる者少しとせず。依之書名索引に於ては敢て正訓を求めず、或は音讀或は普通口頭に上り易かるべき程度に於て之を叙列し、本篇に於て正訓を施したり。又假名遣ひもキをイにエをエにヲをオにクワをカに包容せしめたり。乞ふ恕せよ。

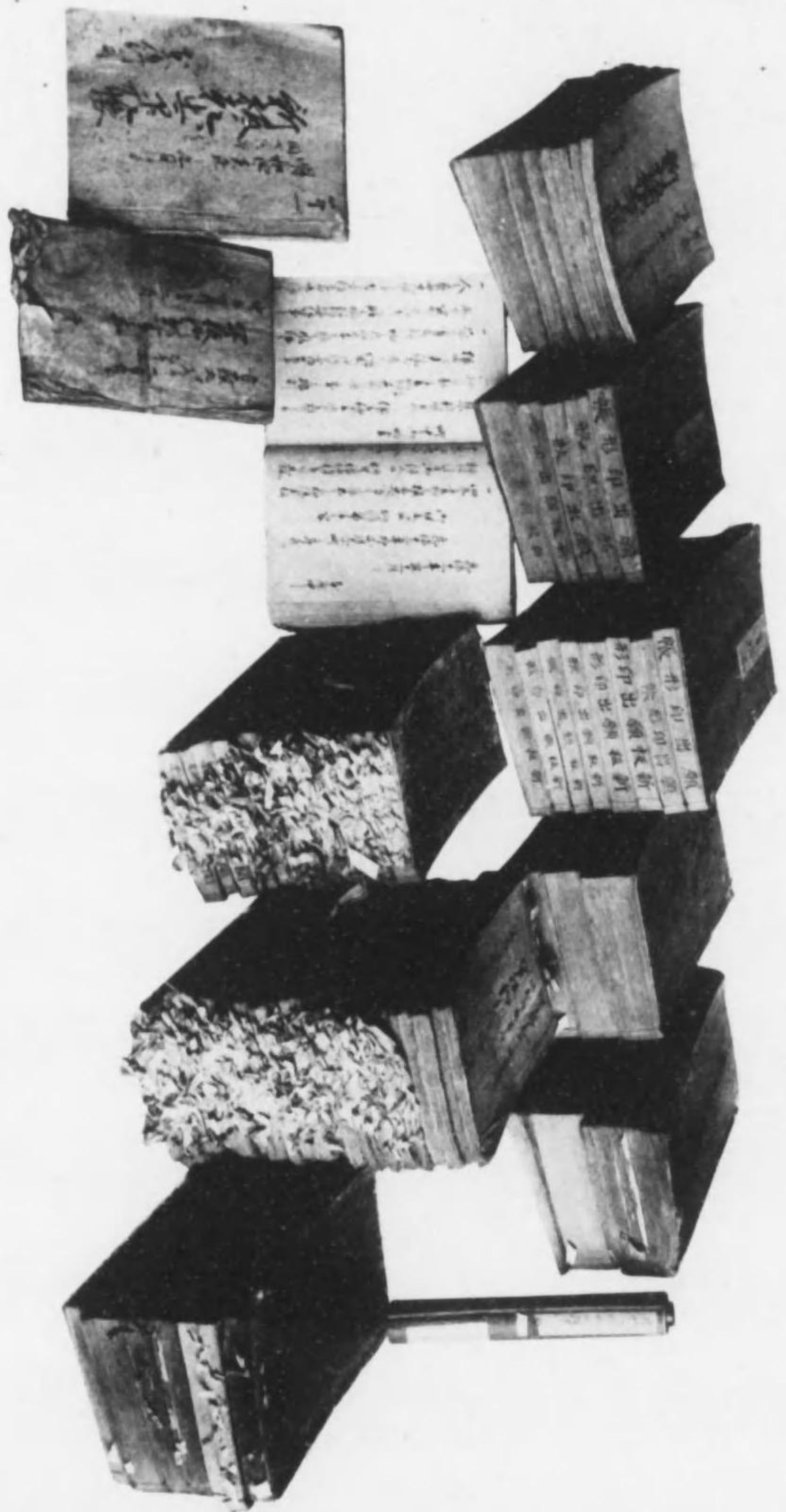
本冊の發行に就ては、藤井文學博士の尊稿併載を辱うしたることを謝す。

目次

大阪書籍商仲間沿革略	一—三
享後保 大阪出版書籍目錄	一—三六
書名索引	一—四二
著作者名別索引	一—五九
絶板書目 <small>(賣買差留 開板不免許)</small>	一—二〇

圖 版 目 次

- 第一圖 大阪本屋仲間古文獻
- 第二圖 史記板權侵害公事書類
- 第三圖 「ひらかな盛衰記」「菅原手習鑑」重板公事書類
- 第四圖 御國禁耶蘇書目（江戸時代）
- 第五圖 外題替 届出願書
- 第六圖 三木平右衛門著「淨瑠璃評註難波みやげ」開板願書
- 第七圖 上田秋成作「世間妾形氣」開板願書
- 第八圖 中野得信編「山家鳥蟲歌」開板願書



(册九) 帳定差 (册八) 帖配裁 (卷一) 提問仲屋本代古 圖一第
 (册一) 帳定鑿 (册十二) 帳形印出類板新 (册四十三) 扣書類印板開
 (藏所合組業版出書圖阪大)

史記傳史
一史記傳史記
一史記傳史記

史記傳史
一史記傳史記

史記傳史
一史記傳史記

史記傳史
一史記傳史記

史記傳史
一史記傳史記

史記傳史
一史記傳史記

五 延享二年四月廿九日(皇)太后御
感喜甚冠若未也智燈太極板書重板出入付
濟之定

一 農人楊隆所寄我全八信傳悉四年春奉儀私
不抄仕以竹竿收至四本(即)如宮儀禮(幸福
理年極乃)向之故因心重板仕付私及難奉儀
此日坂井村抄録(一)上皇

一 竹中義重(四年)一書未傳(文)在留經(一)字經
一 年極乃抄本(於)行(在)方(向)之(限)同(大)四年(春)
信(在)極(乃)在(春)未(傳)方(向)地(限)存(一)又(傳)中(出)傳

一 存(一)通(私)幕(持)極(乃)本(性)之(重)板(仕)与(一)私(義)隆
世(始)抄(成)及(賜)合(一)事(跡)未(傳)好(居)信(經)
一 上(以)年(主)未(傳)悉(重)板(悉)及(在)止(一)上(太)武
不(一)形(為)以(極)本(竹)石(乃)列(中)一(奉)坐(經)好(傳)
年(一)之(雖)在(一)可(存)如(上)

延享二年四月七日
四十九卷
右(九)卷(經)以(悉)重(板)仕(息)以(義)隆(竹)石(乃)上(太)
也(終)一(重)板(抄)板(全)一(年)雖(中)可(存)如(上)

御國禁邪雜書目

天學初函	時人
西學凡	辨學遺牒
繪圖象本	天學原本
天文畧	代疑備
三山論學記	唐景教碑略
天書彙成	職方外記
同天算指	圖書教義
勾股義	計開
十餘	交友論
七克	萬物首原
彌撒祭義	泰西水法
表度說	教業解畧
聖記百言	二十五言
靈言靈句	沈裁
渾蓋通憲門記	明量法義
簡平儀說記	滌平義記
合掌論	滌冠正記
福慶通志	紀輝
開邪集	寰有詮
以上二十八部	

右之書實宜之勿傳也。

牛竹司

行刺李慶元通

一物奉獻非物 物奉獻非物 物奉獻非物

一物奉獻非物 物奉獻非物 物奉獻非物

在國學之重書名方以與

一思定左旋

五冊

非欲於古書王積年

一深也為居

五冊

非欲於經有定化

一書也盤泉

五冊

非欲於書入河

一書也盤泉

五冊

非欲於經有定化

一書也盤泉

五冊

十冊 非欲於經有定化

大阪書籍商仲間沿革略

大阪書籍商仲間沿革略

延寶元年^{癸丑}五月^{二三三三} 新規板行の書は兩番所へ届出しむ。

新規板行致候節は兩御番所江可^ニ申上^ニ事

一此以前も板木屋共に如^レ被^ニ仰付^ニ御公議之儀者不^レ及^レ申、諸人迷惑仕候儀、其外何にても珍敷事を新板に開候は、兩御番所に其意申上、御差圖受御意次第に可^レ仕候、若隱候而新板候者於^レ有^レ之は、御穿鑿之上急度可^レ被^ニ仰付^ニ候間此段板木屋共町中の者共少も違背仕間敷候事

○右は江戸町觸なるも京阪も同様と思はれる。

元祿十一年^{戊寅}八月^{二三五八} 板權侵害取締の事につき有力なる書肆二十四名連署請願書を提出して認許を得。

書物板行之義中興迄銘々勝手に彫候に付渡世不便利候故、相互に申合も仕候得共、我々同志之事故不^ニ行届^ニ候に付、元祿十一年^寅八月七日御願奉^ニ申上^ニ候趣

一先年^方御公儀様被^ニ仰出^ニ候御法度之書物、並に作者不正新作之書板行仕間敷旨奉^レ畏、堅相守來候事

一本屋共義重板類板仕候ては相互に渡世之指支に相成、依^レ之申合も仕候得共、取^レり無^ニ御座^ニ難澁仕候、何卒於^ニ御當地^ニ重板類板御停止被^ニ仰付^ニ被^レ下候様に願上候處、保田美濃守様永見甲斐守様松平玄蕃頭様御列座にて被^レ爲^ニ開召上^ニ、同十二日兩度被^レ召出、八田伴右

衛門様仁木八郎右衛門様を以て子細御尋被爲遊、尙又追て可被召出旨被仰付候事、然ル處池田屋三郎右衛門方之辨々惑指南之板行、和泉屋喜左衛門小島勘右衛門天王寺屋源右衛門右三人之者共致重板候に付、同年十月廿六日御月番永見甲斐守様は御訴訟申上候所、同十一月九日御月番松平玄蕃頭様は右廿四人其外本屋不殘御召にて、八田伴右衛門様山中刑部右衛門様御詮議之上、御前に被爲召出被爲仰付候は、重板之者共不届に相究、依之重板は絶板并に賣余リ之本拾五部御取上被成候、自今以後重板類板堅停止申付候條、急度相守互に申分無之様に可申合旨被爲仰付候、同十八日に右重板仕候三人之者共絶板之割板并に有本持來仕、双方申分無之旨、御帳面に連印形仕候事

但し此時節當地方堺御兼帯にて三御奉行様月御番に御勤被遊候、依之此願も右御立合にて御開被遊候也

同月 町奉行松平玄蕃頭より國禁書目三十二種賣買禁止の通達あり

覺

一御當地前々より申合候書物屋二十四人之者共、元祿十一年寅八月七日 松平玄蕃様に御訴訟申上候者從先年御法度之唐本三十二色、此三十二種目錄久々紛失仕候處今度尋出、左に書付申候、但し三十八色也

一先年賣買御停止國禁耶蘇書目	天學初函	時人	西學凡	辨學遺蹟	幾何原本	天學原本	天文略	代疑篇
	三山論學記	唐景教碑附	天主實義	同文算指	職方外記	圓客較義	勾股義	計開
	十獻	交友論	萬物旨源	渾蓋通靈門記	編撮祭義	泰西水法	宸度記	滌罪正記
福建通志	二十五言	聖言彙句	況義	明量法義	教要解畧	簡平儀說記	合家論	

聖記百言 七克 圮緯 關邪集 寶有論
以上三十八部也

右之書賣買は勿論決て取扱致間敷候事

年行司

十一月 重板類板停止につき申合せをなすと共に、月行司を定め書肆二十四名を六組に分ち四人宛四ヶ月交代之に中る事となす。

本屋申合之覺

從御公儀様被爲仰出候右之趣、向後彌相守爲可申、書物屋貳拾四人月番六組に組分、二ヶ月替に相勤諸事可申合、尤同月に當り候者三ヶ月相勤可申事

一我々所持之板木重板類板は不申及、少にて構可申寫本を本屋板持中に致披露、右構筋相濟候上可致致板行事
一從外家に所持之板行重板類板候者有之ば、早速元板に爲相知達相談可申候、尤存寄之寫本有之者其寫本過半出來候節月番迄見せ置、自二月番可有披露候、□板斗は申分立間舖候、外に致出來候板行書物は賣弘相談不極内、銘、勝手賣買本替等仕間敷候事。
一家々所持之板行物は不及申、外々えにても差構候書他國え手を廻し重板類板致間舖事
右之通申合候上は互に相嗜、連中に入出入有之節は無依怙取暖可申候、尤我儘無之様に諸事可致相談候、已上

本屋申

元祿十一年寅十一月

大阪書籍商仲間沿革略

享保八年癸卯三月(二三八三) 幕府は享保七年十一月好色本讀賣心中物等の禁止令を發したるが、同十二月大岡越前守は新刊書出版につき新に町觸を出し、大阪にては八年三月に左の如き觸書を發せり。

從 御公儀様御觸之覺

町中御觸書

- 一 自今新板書物之儀儒書神書佛書醫書歌書惣て書類其筋一通之事は格別、撰成儀異説等を取交へ作出し候儀堅く可爲無用之事
- 一 只今迄有來候板行物之内好色本類は風俗之爲にも宜からざる儀に候間、段々相改絶板可仕候事
- 一 人々家筋先祖之事などを被是相違之候儀共新作之書物に書顯世上致流布候儀在之候、右之段自今御停止候、若右之類有之子孫方訴出候におゐては急度御吟味可仕之管候事

一 何書物によらず、此已後新板之物作者並板元々實名奥書に爲致可申候事

一 權現様之御儀は勿論、惣て御當家之御事板行書本自今無用可仕候、無據子細も在之候は、奉行所に訴出差圖請可申候事

右之趣を以自今新作之書物出候共違吟味可致候、若右定に背候者有之ば奉行所に訴可出候、經數年相知れ候共其板元問屋共に急度可申付候、仲間致吟味違犯無之様に可相心得候、右之通從江戶被仰下候間三郷町中可觸知者也

享保八年三月二十四日

三郷惣年寄中

八月二十四名連署して本屋仲間行司公認の請願書を提出し、町奉行審議の後之を許可し、十二月新

刊書の審査檢閲權を行司に附與する事となり、茲に本屋組合制度確立し、同業者團體としての活動を開始す。

享保八癸卯年八月七日御願申上候訴狀之扣

乍恐口上書を以御願奉申上候

御當地本屋共にて御座候

先年被爲仰付候御法度之書板行不仕儀、本屋共互に吟味仕相守申候、然ば私共商賣鉢に古來在來候板行物に重板類板仕候義前方面多有之、元板所持之者及雜義に出入罷成候に付、元禄十一年寅八月七日に重板類板仕候儀御停止被爲成下候様に奉願候處に被爲聞召上、同廿一日に御停止被爲仰付被下難有奉存候、其後我々仲間之内にて諸事相改出入無之様に相守罷有候御事

一 去る丑年閏七月十六日同卯三月廿四日御書付を以御觸御座候新板物段に板行仕儀御停止被爲仰付、本屋共相守一切板行不仕候、無據寫本御座候節は御願申上、御吟味之上板行御免可被爲仰付御儀奉畏候御事

一 頃日京都江戸表方新板物出來仕候て御當地に流布有之候に付、京江戸同商賣之者共に様子承合候處申奉候御事

一 京都本屋仲間行事之儀は古來御座候處、正徳六年書物之儀に付御用之御儀御座候得ば召出被爲仰付候旨承及候御事

一 江戸本屋仲間行事之儀は享保六年行事定り、書物吟味之儀行事に被爲仰付候由承及候御事

右兩所は去る丑年御觸渡之已後新板物之寫本板行仕候節、行事共立合吟味仕被爲仰出候趣別條無御座、又は重板類板之構無之儀相改、其上本人方御願申上御免を請板行仕候儀に御座候、尤行事共吟味仕候儀御聞召之上被爲仰付候由御座候、御當地にても恐多く奉存候得共京江戸同前に本屋仲間之行事を相定候儀御免被爲仰付被下、此已後新板物之寫本行事之者共相改、其上御願申上候様に御免被爲仰付被下候ば難有可奉存候、尤御上々様之筋書顯候書は不及申上、不憚成異説世上風儀惡敷成候様のか

なものの、諸事無益之板行出来不仕様に仕度奉存候、此外儒書醫書字書佛書哥書世間教方に成候書類此等之寫本自然に出申節は行事共相改、別條無之儀に御座候は、御訴申上御免之上板行可仕候、新敷出候寫本には古來有來候書物之内、作者之才覺を以元板之難義を不構紛敷仕間々類板有之候儀にて御座候、寺社方又は書物屋にても無之、素人方に出来候新板之寫本是又同事に行事之者共相改候様に仕度奉存候、私共渡世之儀に御座候得ば、仲間之内月替り行事相定候儀御免被爲仰付被下候様に奉願上候、御慈悲之上被爲聞召上被爲仰付被下候は、難有可奉存候、以上

享保八癸卯年八月七日

吳服町	池田屋三郎右衛門
安堂寺町五丁目	秋田屋市兵衛
鋳屋町	敦賀屋九兵衛
淨覺町	吉文字屋市兵衛
順慶町	柏原屋清右衛門
博勞町	河内屋宇兵衛
同所	譽田屋伊右衛門
傳馬町	秋田屋徳右衛門
淨覺町	本屋清三郎
日向町	大津屋與右衛門
北久太郎町五丁目	瀬戸物屋傳兵衛

御奉行様

右之願書御月番鈴木飛騨守様え奉願訴狀御留め被爲成候事

卯八月廿六日北組惣會所え願人貳拾四人被召出、川崎屋五兵衛殿野里屋四郎左衛門殿薩摩屋仁兵衛殿書付を以被仰渡候は、當七日御訴訟被申候處に以書付相尋候一返答書付、重て可罷出候旨仰渡候書付之寫

本町五丁目	本屋庄太郎
淡路町切町	本屋嘉兵衛
高麗橋壹丁目	藤屋彌兵衛
南久賣寺町	伊丹屋茂兵衛
北久太郎町五丁目	小嶋勘右衛門
高麗橋貳丁目	正本屋九右衛門
高麗橋壹丁目	藤屋長兵衛
同壹丁目	伏見屋藤三郎
心齋町	本屋傳七
	小濱屋七郎兵衛
	馬金屋庄左衛門
	油屋與兵衛
	天王寺屋長左衛門

- 一 今度貳拾四人が相願候趣、當地本屋中へ申談候上にて相願候哉、又は貳拾四人迄申談願候哉之事
- 一 新板行物出来之節書物屋仲間にて相改致様之事
- 一 新板行物書物屋并、素人方にて出来之節、書物屋仲間へ早速板元方相改候様に致様之事
- 一 於江戶、書物屋仲間にて新板物改候様致候様之事
- 一 京都におゐて右同斷
- 一 於大坂、書物屋何十軒其外板行物取捌候所何程有之候哉、人数書可出事
- 一 今度御訴申上候人数は當地本屋之内にて頭立て、相殘る書物屋中之儀をも引廻し候程之儀に候哉之事
- 一 新板物相改候儀に付仲間物入等も可有之候、其入用は新板元方差出させ候積りに候哉之事
- 一 右之八ヶ條之御返答并、京江戶之趣は別紙に認罷出候事

口上之覺

- 一 御當地本屋共之儀は只今迄仲間と申儀無御座候得ども重板類板現に御座候に付、私共貳拾四人元禄十一年寅八月七日重板類板不仕候様に奉願上候處に被爲開召上、同月廿二日御停止被爲仰付其已後私共互に申合、去る丑年迄は相應之新板物仕立板木等も所持仕者共にて御座候、尤私共頭取仕候義にては無御座候
- 一 向後新板物出来候節は相改候義は本屋仲間被爲仰付被下候様に奉願候、左候得ば本屋仲間之内月行事五六人宛定置、新板物仕度者は月行事に申出、月行事寫本にて相改可申候、月行事了簡におよび不申儀は惣本屋迄立合相改、差構無之書物に御座候は江戶表之通惣御年寄中御窺被成、板行物素人方にて出来候儀本屋仲間へ早速相知れ申様に乍恐惣町中並寺社方にも御觸被成下、新板仕候節は寫本本屋共月行事見申候様に被爲仰付被下度奉願候、勿論素人方にて出来候新板本屋共相妨申儀曾て無御座候、新板

物出来仕候儀本屋共相願申儀に御座候

- 一 貳拾四人は此度御願申上候人数にて御座候
- 一 右之外板木細工仕候者凡貳拾人餘御座候、此者共は素人方、誂次第細工仕候に付重板類板其外差構之儀をも不存細工仕立申候、右板木細工仕候者共之儀本屋行事共相改候様に仕度奉存候
- 一 新板相改候儀は月行事共宅にて立合申候、少入用等可有御座候間其入用は新板元方指出し候様に仕度奉存候、若相改候上差構申書物にて板行不仕候ば其入用本屋共仲間方差出可申候
- 一 此度本屋仲間被爲仰付被下候上にて已後本屋仲間へ相加り度と申本屋有之に相加へ可申候、尤仲間入之祝儀など、申なし禮物等取申間敷候
- 一 右之通 被仰上被下候様に奉願候、以上

享保八癸卯年九月

貳拾四人連判

- 川崎屋五兵衛殿
- 野里屋四郎兵衛殿
- 薩摩屋仁兵衛殿

江戶京本屋仲間之申上候覺

- 一 江戶本屋仲間之儀は去る丑七月御觸御座候節、町年寄奈良屋市右衛門殿本屋共四拾七軒被呼寄、古來有來候書物は格別、無用之新作板行仲間御旨仲間月替りに行事相極相改候様に被申渡、其已後於江戶、新板物御座候得ば行事共寄合相改、差構無之書物は行事

方奈良屋市右衛門殿に相違差圖を受板行仕候、京都にて板行出来仕候新板物を江戸へ差下し候新板物行事方にて入念相改、差構無之
物候得ば賣弘め申様に被_レ仰渡候由に御座候、京都にて出来仕候新板物は京都本屋行事方致_レ添狀_レ差下し申候

一京都本屋仲間は貳百軒餘御座候、從_レ古來_レ仲間相極候故年數相知れ不_レ申候、正徳六年申年方御奉行様え書物屋仲間方年頭八朔御禮行
事相勤申候、尤新規に本屋仕候者共は仲間え相加り申候、右仲間之内にて拾貳人宛月行事相定、致_レ新板_レ候者方板下寫本行事え持出し、
行事共吟味之上差構無_レ之物に御座候得ば本人方直_レ御奉行様え申上候、其上にて本屋行事共被_レ爲_レ召出_レ指構無_レ之書物之旨申上、板
行被_レ爲_レ仰付_レ候、右新板物之儀申出行事共立合相改候節之入用は板元方仕候、若相改候上指構有_レ之板行不_レ仕候節は行事寄合候入用
之内七歩は本屋仲間方指出申候

但し京都には惣御年寄無_レ御座_レ候に付本屋共方直_レ御奉行様え御願奉_レ申上_レ候

右之通御座候以上

卯九月十四日

貳拾四人連判

右之願書差上候後同卯十二月廿三日願之通本屋仲間被_レ仰付_レ候事

仲間被_レ爲_レ仰付_レ候て町中御觸之御書出し之寫

一新作之書物商賣之儀に付當三月書付を以相觸候處、當地にて新作之書物板行致候節本屋共仲間を定、行事立合置、作者方下書を指出さ
せ相改、御法度之趣粉敷義有_レ之は本屋共方惣年寄に相違、奉行所え相何候様仕度、板木屋も板行誂有_レ之は本屋行事え相觸候様致、新板
物板行並商賣方等御法度之趣相守候様仕度候旨、本屋共願之儀に付吟味之上此度願之通申付候條、本屋仲間板木屋共え此旨可_レ申渡_レ
候、尤新作之書物下書等改候節作者方入用之出銀此度本屋共書出し候通、彌多く出させ申間敷候、勿論向後本屋仲間え加り候者は可_レ

爲_レ勝手次第事

右之通本屋共え申付候條、向後新板之書物板行いたし候は、本屋行事え下書差出候様三郷町中可_レ相觸_レ者也

飛騨
安房

享保八年卯十二月廿三日

三郷惣年寄中

右同日北組惣會所え本屋共貳拾四人に板木屋不_レ殘召連可_レ罷出_レ旨御呼出、川崎屋又兵衛殿野里屋四郎左衛門殿薩摩屋仁兵衛殿御口上にて
今度本屋仲間之儀願之通 北條安房守様鈴木飛騨守様御立合にて御開届被_レ遊仲間被_レ爲_レ仰付_レ候、依_レ之町中則右之趣御觸被_レ遊候旨
且亦板木屋之儀書物之板行何方誂に來り候共、本屋行事え相違差圖を受、細工可_レ仕候旨被_レ仰渡_レ候

右之通本屋仲間相立候様被_レ仰付_レ候に付申合相定候事如_レ左

一此度仲間を立行事相定候儀被_レ爲_レ仰付_レ銘々難_レ有_レ奉_レ存候、惣仲間中從_レ御公儀様_レ被_レ仰渡_レ候法度之趣堅相守可_レ申候事
但御法度之御條目既_レ前條記_レ之

兼向人々承知致し置可_レ申候事

一仲間相定り候上は此已後出来仕候新板物、當地は勿論京都江戸等板元之差構に不_レ成様にて御當地同前に相改、指支無_レ之物に候は、行
事より御覽申上、奉_レ受_レ御免_レ板行出来候様可_レ致候、就_レ中右板行物等改候事行事え御免に被_レ仰付_レ、素人直願等不_レ相成_レ候事、諸仲間
一通り之行事と違、本屋中規模之義に候間銘々心筋に致_レ會得_レ役義大切に仕、風儀相慣萬端念入勤行可_レ仕候事
一惣て新板物行事添狀出不_レ申前並に京江戸新板類當地行事添狀出不_レ申前に堅賣買被_レ致間敷候事

一行事當役之内常例勤方之外用或は新法之儀_レ有_レ之は惣行事組合え相違し、一致に承届_レ置候様可_レ仕候、外々_レ御相談無_レ之、當役限
内證にて濟し置候儀堅無用之事

一 仲間不_レ入賣子之儀は親賣方 御公儀様御法度之書物等之義其外申合等とくと申聞、承知之上本賣買可_レ被_レ致候、賣子にもならず仲間えも不_レ入候仁は右鉢之義に付心得違も可_レ有_レ之に付仲間申取引被_レ成間敷候

一手代小者と馴合其主人え隠し、内證にて賣買堅致間敷候事

一 主人方暇遣し候手代小者え賣買被_レ致候儀は其主人え相届賣買可_レ被_レ致候、主人聞届不_レ申儀を内證にて賣買堅被_レ致間敷事
右之通申合永々相守可_レ申者也、依而印形仕候、以上

享保九年甲辰正月十三日

吳服町	池田屋三郎右衛門
安堂寺町五丁目	秋田屋市兵衛
鋳屋町	敦賀屋九兵衛
淨覺町	吉文字屋市兵衛
順慶町	柏原屋清右衛門
博勞町	譽田屋伊右衛門
同所	河内屋宇兵衛
傳馬町	秋田屋徳右衛門
淨覺町	本屋清三郎
日向町	大津屋與右衛門
北久太郎町五丁目	瀬戸物屋傳兵衛

本町五丁目	本屋庄太郎
淡路町切町	本屋嘉兵衛
高麗橋壹丁目	藤屋彌兵衛
南久寶寺町	伊丹屋茂兵衛
北久太郎町五丁目	小島勘右衛門
心齋町	本屋傳七
高麗橋貳丁目	正本屋九右衛門
同壹丁目	藤屋長兵衛
高麗橋壹丁目	伏見屋藤三郎

右貳拾四人之連中にて御届候、但し小濱屋七郎兵衛屬金屋庄左衛門油屋與兵衛天王寺屋七郎兵衛以上四人は本商賣相止め申候に付貳拾人也

一 右廿四人之外に仲間え加り候人數

安堂寺町五丁目	村上伊兵衛
淨覺町	本屋伊兵衛
錦町貳丁目	菊屋勘四郎
高麗橋壹丁目	吉野屋重郎兵衛
綿袋町	本屋又兵衛

曾根崎村	鷹金屋清助
淡路町切町	印判屋太兵衛
順慶町五丁目	敦賀屋四郎兵衛
道修町三丁目	絆屋平右衛門
南久寶寺町五丁目	丹波屋利兵衛
南久太郎町六丁目	伊丹屋新七
中船場町	大塚屋惣兵衛

享保九年^{甲辰}正月十三日(二三八四)本屋仲間届出惣人数三十二名

享保十一年^{丙午}五月十七日(二三八六)本屋仲間届出惣人数八十九名

享保十九年^{甲寅}二月(二三九四)繪草紙屋の出板物は本屋仲間行司にて審査する事とす。

三月 好色本の掃蕩を行ふ。

一好色本賣買之儀御停止之御旨先年被^三仰付^一彌仲間其御旨相守罷在候、依^レ之好色本板木共右御觸之節行司立會封印付本主え預け置候得共、彌獵に無^レ之様に今度相改不^レ殘取集封印付、當分大塚屋宗兵衛方へ預け置候事

享保十九寅年三月

一好色ひみつばこ

伊丹屋源七

一同友ちどり	藤屋伊兵衛
一色千鳥 千話枕	大津屋與左衛門
一花のまく	鷹金屋清七 絆屋平右衛門
一玉つばき	毛馬屋八郎右衛門
一思ひのたね	伊丹屋新七 藤屋伊兵衛

ノ拾からけ外に小一枚

右之通板木を改不^レ殘封印を付惣兵衛方え預け置候事

享保二十年^{乙卯}正月(二三九五)官憲の力を借り未加入者との取引を嚴禁し仲間株を定む。この頃月行司を本屋行司と改稱す。二十四名制は舊の如し。
元文五年^{庚申}正月(二四〇〇)好色本賣買に關する仲間の制裁を定む。

一御停止之書物枕繪之類賣買仕候人御座候は、不^レ恐^二御公議^一働言語同斷之儀候、已後見付次第本もぎ取、過料銀五枚並に誤證文取可^レ申候

寶曆七年^{丁丑}七月(二四一七)三都(江戸、京都、大阪書林)組合設立なる。

寶曆九年^{己卯}五月十一日(二四一九)本屋仲間届出惣人数百〇二名。

此頃より行司は一ケ年に正、五、九月各二十日六人宛交代の事に定む。

明和三年^{丙戌}五月(二四二六) 此頃本屋仲間を慎組、審組、博組、明組、篤組の五組に分つ。この区分は地域の關係か或は他の理由によるか明かならず、且その創始の時日も詳かならず。

天明三年^{癸卯}五月(二四四三) 本屋仲間届惣人數百六十六名。

寛政二年^{庚戌}五月(二四五〇) 幕府は異學禁令と共に書籍出版に關する法令を發し、九月には書物行事の改めを用ひざる者又は改め方不行届の者につき戒飭をなす。

寛政七年^{乙卯}七月(二四五五) 本屋仲間届出總人數百二十五名。

享和二年^{壬戌}五月(二四六二) 本屋行司を年行司と改稱し、十二名となし、二組より六人宛選出す。

文化三年^{丙寅}七月廿四日(二四六六) 本屋仲間届出惣人數百四十五名。

文化四年^{丁卯}九月(二四六七) 地本問屋出板書類(繪本、讀本)につき出板手續改正令發布せらる。

文化五年^{戊辰}七月七日(二四六八) 本屋仲間未加入者の件につき大阪奉行所より年行司へ尋問あり、無株にて本屋渡世の者は官憲の力をかりて殆ど強制的に加入せしむ。

當時仲間人數百三十八名に減す。(七月十六日)

文化八年^{辛未}四月三日(二四七二) 本屋仲間増加により仲間統一上本屋年行司の職權擴張の請願書を奉行所に提出し「御検側差許」を希望す。即ち白洲法庭着座を昇格し、検側に於て陪審をなすことを請願せり。

當時本屋仲間は一面官憲の出板及び言論の取締に間接の關係ありて、一般他の諸商諸職仲間とは一種異色ある機關たりしに因る。

六月三日 東町奉行より「御検側差許」の許可あり、繼上下、帶刀御免となる。

文化九年^{壬申}正月(二四七二) 當年より名實共に年行司となり、任期を一ケ年に改む。

文化十年^{癸酉}閏十一月十七日(二四七三) 本屋仲間届出惣人數三百四十三名。

文化十二年^{乙亥}七月十三日(二四七五) 本屋仲間届出惣人數三百三十九名。

文化十三年^{丙子}四月四日(二四七六) 本屋仲間届出惣人數三百三十七名。

文政三年^{庚辰}九月二十九日(二四八〇) 本屋仲間届出惣人數二百九十四名。

文政十二年^{己丑}三月九日(二四八九) 本屋仲間届出惣人數三百十三名。

天保八年^{丁酉}五月(二四九七) 當時本屋仲間は先年、安堂寺町五丁目播磨屋嘉藏代判宗助かしやを依屋安兵衛の名前を以てかりうけ、之を仲間會所とせり。

天保十二年^{辛丑}十二月(二五〇二) 水野越前守の天保改革施政方針により諸問屋株式^{組合}組織廢止せられ、本

屋仲間^{組合}も解體す。

天保十三年^{壬寅}六月(二五〇二) 書籍出板令布達せられ、爾來出板は必ず官許の必要あることに改めらる。

七月 醫書出板令發布せらる。

九月 活字板出版令發布せらる。
 十月 曆出版令發布せらる。
 弘化元年^{甲辰}七月(二五〇四) 出版手續法令發布せらる。
 弘化三年^{丙午}閏五月(二五〇六) 出版手續法令發布せらる。
 嘉永四年^{亥辛}三月(二五一二) 諸問屋株式再興令發布せられ、假株札の下附あり、本屋仲間再興す。
 天保十二年問屋及び株式の廢止により本屋仲間も解體せしが、當年再興に由りて復た合して一つの組合となれり當時尙組合と云はザ仲間と云へり。依而年行司なるもの再び興り、爾來天保十二年問屋株式廢止前の本屋仲間を古組と云ひ、再興後の加入者を新組と云ふ。
 四月十日 本屋仲間届出惣人數二百五十九名。
 安政五年^{戊午}十二月(二五一八) 本屋仲間解體中の整理大體完成したるにより、株札を改正し、嘉永四年下附の段株札を回收す。
 萬延元年^{庚申}閏正月(二五二〇) 蘭書出版手續改正法令發布せらる。
 慶應四年^{辰戌}正月(二五二八) 本屋仲間届出惣人數二百十八名。
 三月 當局より從來通り成置かるべき旨(仲間制度公認)諭達あり。
 四月 官制改革、町奉行所廢止につき同管轄事務の内町方一切の事は大阪府裁判所に移し、商業を營む者は必ず各業毎に團結して仲間(組合)を組織し、之を届出づべき旨布達あり。

六月 大阪本屋仲間名前帳組合員名簿を新調し當局へ提出す。
 同月 商法會議所新設せられ、各諸商仲間より代表者を選出し、一般商業上の諮問機關とせられたるにより、本屋仲間より肝煮役(代表者)二名を選出す。
 七月 大阪府裁判所の管轄の下に新に本屋年行司制度を承認せられ、更に仲間株札を下附せらる。
 九月八日 明治元年と改元せらる。
 明治二年四月(二五二九) 出版條例發布により本屋年行司は官選に改めらる。
 八月十二日 出版條例下附、本屋年行司仰付らる。
 明治五年正月(二五三二) 出版條例明治二年四月月發布令、文部省の所轄となる。
 同月 文部省發布出版條例により三都書林中の人を選び年行司を置きて互に視察せしめらるることとに改む。
 正月 一般商業仲間廢止せらる。依て從來の書林行司は總て廢滅となり、前項による入札人選により更に府下書林行司を相勤むべきことを大阪府より通達あり。
 七月八日 從來の行司を廢止し更に書林行司を仲間中より入札射選投票により取りきむることに改む。
 明治六年(二五三三) 一般商業の株仲間を解散せしめられたる結果、本屋仲間も自滅せるが、出版條例によつて任命せられたる年行司は依然存続せらる。

明治七年五月(二五三〇) 書林組合取締人名義を以て大阪書籍商組合設立願書(本屋仲間の化身)提出、組合加入連署名三百二十五名大阪府の許可を得。

當時大阪府廳より組合員に營業鑑札を下附し、上中下等の三級に分たる。

明治八年九月(二五三五) 版權條例發布せられ、出版物取締の所轄は總て内務省に移さる。

明治九年(二五三六) 書林行司を取締と改稱す。

明治十年(二五三七) 取締を書林取締と改稱す。

明治十一年(二五三八) 大阪商工業の諮問機關たる大阪商法會議所の設立に鑑み、大阪書林組合も亦合議制度に變革す。

六月 古物取扱業者取締上、三商取締規則發布せらる。

後年大阪古書組合設立の動機となり、又本屋仲間を新本、古本商に區別せらるゝ端緒ともなれり。

明治十二年一月(二五三九) 大阪商法會議所委員として代表者選出には全組合員の委任狀を取ること、に改められ、本屋組合より書籍商取締として代表せしむることゝす。

一月 本商取締事務所を東區北久寶寺町井池東入質會所を借受け同所に移轉す。

二月 本商取締事務所を書籍商集會所と改め、新古本屋、道具屋、反古屋、新聞雜誌屋を綜合加入せしめ取締を選舉せしむ。

同月 質會所家屋入用につき東區北久太郎町梅檀ノ木橋筋西入吉岡氏隱居座敷を借入れ事務所とす。

す。

三月 集會所設立の件を決定す。

七月八日 東區北久寶寺町泰徳寺に於て定式議會を開き、仲間集會並に議會所として安土町四丁目

四番地元柳原活版所を借入るゝことに決定す。

七月二十六日 安土町四丁目四番地に集會所を引移し事務取扱を始め、大阪府下書籍商集會所と稱す。

明治十四年一月(二五四一) 取締集會を毎月六ノ日午前八時出頭
午後三時退席議會を毎月八日午後六時より參集のことに改む。

二月八日 書籍商同盟仲間規則を作成し、組合員三百三十七名連署大阪商法會議所總務理事兩名の證明を得て、大阪府知事に提出許可を得、從來の會議制を改め公議制に變更す。

明治十五年一月(二五四二) 本屋組合加入區域東、西、南、北四區以外更に西成、東成兩郡に擴張す。

九月十三日 大阪府令甲第二百二十二號の布達に基き書籍仲間規約を改正し、公議制を更め代議制を採用許可せらる組合員連名二百七十二名

十一月 住吉郡を組合員加入區域とす。

同月 從來定議員二十名の處規約改正につき議員三十名を選舉す。但し惣仲間人員(組合員)三百名以上たるにより一番より三十番迄を書籍商仲間議員とし、書籍商取締の名を以て組合員に當選者

氏名を傳達す。

明治十六年四月八日(二五四三) 東區安土町四丁目三、四番地宅地を買収、書籍商集會所(組合事務所)を設
定す。

明治十八年二月(二五四五) 住吉郡廢止のため組合區域改正せらる。

明治二十二年一月(二五四九) 安土町四丁目三十九番地大阪書籍商集會所と稱す。

明治二十三年七月(二五五〇) 大阪商業會議所新設につき大阪書籍商組合よりも發起人一名参加す。

明治二十四年二月(二五五二) 書籍商、新聞雜誌賣捌商取締を統一せられたるにより、大阪府書籍商事務
所と改稱す。

明治二十六年二月(二五五三) 書籍及古本商新聞雜誌賣捌商取締を統一せられ、大阪府下
書籍及古本商新聞雜誌賣捌所
取締事務所と改稱す。

九月二十五日 臨時定式議會を開き集會所家屋改築の件を付議可決し委員付託とす。

明治二十七年六月(二五五四) 集會所改築工事落成す。

明治二十八年二月(二五五五) 大阪市及接近二郡書籍及古本商新聞雜誌賣捌商取締事務所と改稱す。

當時組合員四百餘名。

明治三十年九月(二五五七) 同業組合法の制定により従來の仲間組合を解散し新に書籍商者のみの加
入を募り、書籍卸賣業者の新加入を勧誘し、純書林同業者五十名餘を以て組合を組織し、大阪書籍商組

合と稱す。

明治三十九年一月(二五六六) 頭取名義を改め組長と稱す。

明治四十年五月十九日(二五六七) 集會所を従來仲間經營の書籍大雜市會に合併し、大阪書籍商集會所

共同財團を解散の上、大阪書籍雜市株式會社を創立し同社に買收す。

大正五年三月十一日(二五七六) 大阪書籍雜市株式會社を株式會社書林俱樂部と改稱し、商事會社に變
更す。

三月十六日 書籍仲間の出版業者有志相謀り、大阪圖書出版協會を創立す。

従來大阪書籍雜市株式會社の經營にかゝる雜市會の事業は之を大阪圖書出版協會に於て繼承す。

三月

大正九年三月 日(二五八〇) 大阪書籍商組合と大阪雜誌販賣業組合とを合併し、大阪書籍雜誌商組

合を成立す。

大正九年四月十日(二五八〇) 大阪圖書出版協會の組織を變更し、大阪圖書出版業組合と改稱す。

享保
以後

大阪
出版
書籍
目錄

享保以後
大阪出版書籍目録

<p>三楠實録 二十二冊 作者 三楠山泰全 板元 河内原守兵衛 出願 享保九年二月三日 <small>(伏見大森第二ノ邊) (南久太學町六丁目)</small></p>	<p>歸鞍吟艸 二冊 作者 神屋彌三左衛門 板元 伊丹屋茂兵衛 出願 享保九年三月</p>	<p>香軒略集 一冊 作者 板元 印刷屋太兵衛 出願 享保九年三月 <small>(淡路町切レ丁)</small></p>		
<p>紺屋ひなかつ鶴の聲 一冊 板元 柏原屋清右衛門 出願 享保九年八月八日</p>	<p>天道冥加訓 四冊 作者 武田幸助 板元 印刷屋太兵衛 出願 享保九年八月八日 <small>(淡路町切レ丁)</small></p>	<p>戒女小學 一冊 板元 敦賀屋九兵衛 出願 享保九年八月十四日 <small>(船場町五丁目)</small></p>		
<p>日和鷹 一冊 板元 能登屋長右衛門 出願 享保九年十月 <small>(蒲田東之町)</small></p>	<p>諸神本記 四冊 藏板人 寺島良安 支配人 池田屋三郎右衛門 出願 享保九年十月二十九日 <small>(南瓦町) (與原町)</small></p>	<p>星經 上下二卷 作者 唐石申 板元 秋田屋市兵衛 出願 享保九年十一月十一日 <small>(安堂寺町五丁目)</small></p>		
<p>鳥羽繪筆拍子 三冊 筆者 長谷川庄藏 板元 正本屋九左衛門 出願 享保九年十一月十一日 <small>(木挽南町)</small></p>	<p>萬福百人一首 (改板) 板元 柏原屋清右衛門 出願 享保九年十二月六日 <small>(船場町五丁目)</small></p>	<p>當流碁經大全 四冊 作者 秋山仙朴 板元 紀伊國屋卯兵衛 出願 享保九年十二月六日 <small>(天滿九丁目)</small></p>		
<p>板元 大津屋與右衛門 出願 享保九年七月二十五日</p>	<p>服忌令 折本一冊</p>	<p>類姓草畫 一冊 板元 秋田屋市兵衛 出願 享保九年十月二十九日 <small>(安堂寺町五丁目)</small></p>	<p>中土宮殿記 三卷 作者 辰巳屋茂兵衛</p>	<p>寶來百人一首 一冊 作者 伊丹屋忠兵衛 板元 伊丹屋茂兵衛 出願 享保九年十二月十八日 <small>(廣津町)</small></p>

享保九

一

續 鑛 粟 四冊

作者 地藏寺本淨 (河内郡郡清水村)
板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)
出願 享保十年二月八日 (北久太郎町五丁目)

女筆色縁 三冊

作者 百姓小三郎娘さま (播州住用郡新宿村)
板元 吉文字屋市兵衛 (福慶町五丁目)
出願 享保十年二月八日 (福慶町五丁目)

盡海水一滴 五冊

作者 天 桂 (天王寺小橋村)
板元 具足屋八右衛門 (東高津村)
出願 享保十年三月十二日 (東高津村)

針灸經驗方 一冊

(原本は朝鮮本)
板元 池田屋三郎右衛門 (泉屋町)
出願 享保十年六月八日 (泉屋町)

字海便覽 七冊

作者 岡島冠山 (京本町松原上ル丁)

板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 享保十年九月四日 (安堂寺町五丁目)

梵網經講抄引據

作者 蓮光寺通玄 (河内郡丹波郡東野村)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 享保十年十月 (高麗橋一丁目)

醫方集解 五冊

作者 大清汪詔庵 (高麗橋一丁目)
板元 吉野屋重郎兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 享保十年十月 (高麗橋一丁目)

舊錦工夫囊 三冊

作者 桃井青錢 (京二條通東(入ル町))
板元 具足屋八右衛門 (白軒町)
出願 享保十一年五月廿八日 (白軒町)

秘事指南車 三冊

作者 和田伊平 (河渡橋島)
板元 印判屋太兵衛 (河渡橋島)

出願 享保十一年五月廿八日 (淡路町切丁)

作者 松下平左衛門 (南堀江一丁目)
板元 池田屋三郎右衛門 (泉屋町)
出願 享保十一年六月十三日 (泉屋町)

古曆便覽 二冊

作者 伊丹屋茂兵衛 (淡路町切丁)
板元 伊丹屋茂兵衛 (淡路町切丁)
出願 享保十一年六月 (淡路町切丁)

古曆便覽備考 四冊

作者 須田源作 (瓦町二丁目)
板元 須田源作 (瓦町二丁目)
出願 享保十一年五月廿八日 (瓦町二丁目)

日用算法記 一冊

作者 藤井見隆 (福前山榮町)
板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目)
出願 享保十一年五月廿八日 (高麗橋一丁目)

試驗切要秘方 一冊

作者 藤井見隆 (福前山榮町)
板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目)
出願 享保十一年五月廿八日 (高麗橋一丁目)

彈三種淨戒論

作者 行圓寺慧麟 (和州阿田)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 享保十一年六月十三日 (高麗橋一丁目)

雲崑略集 五冊

作者 山名重藏 (龜州廣島)
板元 印判屋太兵衛 (淡路町切丁)
出願 享保十一年六月廿四日 (淡路町切丁)

醫門摘要 四冊

作者 大原先安 (備中鞆守)
板元 小倉屋平兵衛 (備前岡山榮町)
支配人 河内屋字兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 享保十一年六月廿四日 (南久太郎町六丁目)

藥師如來瑞應傳 五冊

作者 安樂寺 (泉平井村)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 享保十一年六月廿四日 (高麗橋一丁目)

世寶傳受袋 三冊

作者 堤西山子

板元 伏見屋五兵衛 (道修町五丁目)

出願 享保十一年七月廿六日 (平野町三丁目)

雛形天橋立 三冊

作者 萬字軒中島丹次郎 (南廣人町二丁目)
板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目)
出願 享保十一年七月廿七日 (福慶町五丁目)

五會法事讚演底 十冊

作者 寶泉寺隱居東日 (泉州堺)
板元 右 同人
支配人 河内屋太郎兵衛 (南久太郎町五丁目)
出願 享保十一年七月廿六日 (南久太郎町五丁目)

唐音三體詩譯讀絕句

作者 岡島冠山 (京本町松原上ル丁)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 享保十一年八月十六日 (安堂寺町五丁目)

西國順禮行程圖 一枚

作者 寺島順安 (南瓦町)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 享保十一年八月十六日

作者 村上俊清 (給崎町)
板元 本屋伊兵衛 (津覺町)
出願 享保十一年八月十六日 (津覺町)

福壽千字文 (改板)

作者 大津屋與右衛門 (福壽橋東ノ丁)
板元 右 同人
出願 享保十一年八月十六日 (福壽橋東ノ丁)

伊勢土産演説 三冊

作者 村岡明貞 (高麗橋)
板元 富士屋長兵衛 (高麗橋)
出願 享保十一年八月十六日 (高麗橋)

大友眞鳥筑紫軍談

作者 尾張屋半九郎 (中ノ島西信町)
板元 瀬戸物屋清兵衛 (上和泉町)
出願 享保十一年十月十三日 (上和泉町)

梵網增補引據 一冊

作者 菅、密 含 (北久太郎町三丁目)
作者 宋、范 大成 (伊豫吉田)
校合 高井見立 (伊豫吉田)
調點 平住專安 (伊豫吉田)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 享保十一年十二月十八日 (安堂寺町五丁目)

作者 通 玄 (河内郡丹波郡東野村)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 享保十一年十月十三日 (高麗橋一丁目)

蓮花藏世界圖 一枚

作者 定 專 坊 (天満町筋七丁目)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 十一年十一月 (高麗橋一丁目)

悉曇釋疑集 二冊

作者 寶壽寺 (肥前船佐山)
板元 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目)
出願 享保十一年十一月 (南久太郎町六丁目)

南方艸木狀 二冊

作者 菅、密 含 (北久太郎町三丁目)
作者 宋、范 大成 (伊豫吉田)
校合 高井見立 (伊豫吉田)
調點 平住專安 (伊豫吉田)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 享保十一年十二月十八日 (安堂寺町五丁目)

繪本心の種 三冊

畫工 中島丹次郎 (元天滿町)
板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目)
出願 享保十二年三月十八日 (福慶町五丁目)

唐音大學中庸 二冊

點者 岡島冠山 (京本町松原上ル丁)
板元 筒井屋善之介 (南堀江三丁目)

<p>出願 享保十四年七月廿八日 (高麗橋二丁目)</p> <p>作者 坂本源兵衛 (本町五丁目)</p> <p>板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)</p> <p>出願 享保十四年七月廿八日</p> <p>作者 堺屋四郎兵衛 (鹽屋町)</p> <p>板元 桑名屋甚兵衛 (南渡邊町)</p> <p>板元 譽田屋久兵衛 (博勢町)</p> <p>出願 享保十四年七月廿八日</p> <p>繪本通寶志 十冊</p> <p>作者 畫工 橋宗兵衛 (鹽屋町五丁目)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (鹽屋町五丁目)</p> <p>出願 享保十四年八月廿八日</p> <p>增續商賣往來 二冊</p> <p>作者 筆者 堀李之丞 (高麗橋二丁目)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (淨覺町)</p> <p>出願 享保十四年九月</p> <p>珍貨孔方鑑 一冊</p> <p>作者 はりまや重兵衛 (塩屋町二丁目)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (鹽屋町五丁目)</p> <p>板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 享保十四年九月</p> <p>續家土産并狂歌傳授書 一冊</p> <p>作者 鯛屋貞柳 (鹽屋町)</p> <p>板元 印刷屋太兵衛 (淡路町切レ丁)</p> <p>出願 享保十四年十月二日</p> <p>中將姫行狀記 七冊</p> <p>作者 沙門釋致敬 (播州安富)</p> <p>板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)</p> <p>出願 享保十四年十月二日</p> <p>藥種名寄帖後集 一冊</p> <p>作者 伊勢屋新兵衛 (平野町五丁目)</p>	<p>板元 紳屋平左衛門 (道徳町三丁目)</p> <p>出願 享保十四年十月廿一日</p> <p>狂歌花紅葉 一冊</p> <p>撰者 桑名屋甚兵衛 (南渡邊町)</p> <p>板元 右同人</p> <p>板元 譽田屋久兵衛 (博勢町)</p> <p>出願 享保十四年十月廿一日</p> <p>繪本愛子車 三冊</p> <p>繪師 片岡喜平 (四軒町)</p> <p>板元 河内屋茂兵衛 (鹽屋町五丁目)</p> <p>板元 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目)</p> <p>板元 藤屋伊兵衛 (五幸町)</p> <p>出願 享保十四年十月廿八日</p> <p>傷寒舌鑑 一冊</p> <p>作者 清、張路玉 (江戸堀一丁目)</p> <p>調點者 原泰 (北久太郎町五丁目)</p> <p>板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)</p> <p>出願 享保十四年十月廿八日</p> <p>婦人教訓書 一冊</p>	<p>作者 金森判兵衛 (長町一丁目)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 享保十四年十一月</p> <p>當用手紙文章 一冊</p> <p>作者 筆者 堀李之丞 (高麗橋二丁目)</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛 (鹽屋町五丁目)</p> <p>出願 享保十四年十一月十六日</p> <p>繪本難波品鑑 三冊</p> <p>作者 繪師 長谷川光信 (鹽屋町)</p> <p>板元 紀伊國屋宗兵衛 (天満九丁目)</p> <p>出願 享保十五年三月</p> <p>御和讃 一冊(改板)</p> <p>板元 瀬戸物屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>出願 享保十五年三月</p> <p>花幻往來 一冊</p> <p>筆者 道休 (西成郡大仁村)</p>
---	---	---	---

<p>作者 中屋休次郎 (貝屋町)</p> <p>板元 右同人</p> <p>出願 享保十五年三月</p> <p>攝州方格繪圖 一枚</p> <p>作者 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>板元 右同人</p> <p>出願 享保十五年三月</p> <p>實語教訓松明 一組</p> <p>添本全一冊</p> <p>作者 大津屋與右衛門 (傳馬町)</p> <p>板元 右同人</p> <p>出願 享保十五年五月</p> <p>本朝年代記 折本一冊</p> <p>右増補改板願出</p> <p>作者 瀬戸物屋庄右衛門 (淡路町二丁目)</p> <p>板元 右同人</p> <p>出願 享保十五年四月</p> <p>雅筵醉狂集 五冊</p> <p>作者 正親町一位前大納言公通卿</p> <p>板元 池田屋三郎右衛門 (吳屋町)</p> <p>板元 河内屋宇兵衛 (南久太郎町六丁目)</p>	<p>出願 享保十五年六月</p> <p>風流講軍談 五冊</p> <p>作者 河内屋宇兵衛 (南久太郎町六丁目)</p> <p>板元 右同人</p> <p>出願 享保十五年六月</p> <p>念佛往生明導訓 二冊</p> <p>作者 花嚴寺風潭 (山城國野野原石村)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 享保十五年六月</p> <p>勸化讀題抄 二冊</p> <p>右増補改板願出</p> <p>作者 沙門眞觀 (備前國岡山)</p> <p>板元 河内屋宇兵衛 (南久太郎町六丁目)</p> <p>出願 享保十五年七月</p> <p>示童方鑑 一冊</p> <p>作者 仁井宗仲 (鈴木町)</p> <p>板元 毛馬屋八郎右衛門 (上本町三丁目)</p> <p>出願 享保十五年九月</p> <p>俳諧水鏡 一冊</p>	<p>作者 小野紹蓮 (四軒町)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (淨覺町)</p> <p>出願 享保十五年九月</p> <p>金葉百人一首歌文庫 一冊</p> <p>繪師 高木幸助 (淡路町二丁目)</p> <p>作者 瀬戸物屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)</p> <p>板元 右同人</p> <p>出願 享保十五年九月</p> <p>ひながた宿の梅 一冊</p> <p>作者 野田屋理右衛門 (安土町一丁目)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (鹽屋町五丁目)</p> <p>出願 享保十五年十月</p> <p>繪本常盤草 三冊</p> <p>作者 繪師 西川祐信 (京都)</p> <p>板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)</p> <p>出願 享保十五年十月</p> <p>瑞應塵露集 六冊</p>	<p>作者 安樂寺超海比丘 (東州大島郡平井村)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)</p> <p>出願 享保十五年十一月</p> <p>生花野山のにしき 二冊</p> <p>作者 木村周篤 (鳥町一丁目)</p> <p>繪師 高木幸助 (淡路町二丁目)</p> <p>板元 雁金屋清助 (西成郡曾根村)</p> <p>出願 享保十五年十二月</p> <p>竹馬善友集 二冊</p> <p>作者 花光寺石隨 (東成郡武生水村)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 享保十六年三月</p> <p>花鳥百人一首手染錦 一冊</p> <p>増補改板願出</p> <p>作者 寺田與左衛門 (傳馬町)</p> <p>板元 つるがや九兵衛 (鹽屋町五丁目)</p> <p>出願 享保十六年三月</p> <p>百家文章自在箱 五冊</p> <p>作者 中村平五三近子</p>
---	--	--	---

板元 本屋庄太郎 (京傳光寺通新町東(入町) 本町五丁目)	出願 享保十六年四月	眞宗探蹟 二冊	作者 伊藤寺東日 (勢州飯野郡射和村)	板元 右同人	支配人 印刷屋太兵衛 (漢路町切丁)	出願 享保十六年四月	立豫用文中往來 一冊	作者 芳村秀琢 (北豊後町)	板元 菊屋勘四郎 (鹿町二丁目)	出願 享保十六年五月	文心彫龍 二冊	作者 梁、彫龍劉鑑 (播州網干)	調點者 岡太冲	板元 敦賀屋九兵衛 (北久太郎町五丁目)	出願 享保十六年七月	筆跡指南文章 一冊	作者 筆者 建部傳内介 (備馬町)	板元 秋田屋徳右衛門 (備馬町)	板元 大津屋與右衛門 (備馬町)																																						
出願 享保十六年七月 (備馬町)	歸字例要訣 一冊	作者 馬淵東陽 (白髮町)	板元 紀伊國屋吉右衛門 (北久太郎町一丁目)	出願 享保十六年九月	太平百物語 五冊	作者 惠忠 (博勢町)	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町)	出願 享保十六年九月	經學要字箋 三冊	作者 穂積伊助 (備後町一丁目)	板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)	板元 小島屋勘右衛門 (備後町五丁目)	出願 享保十六年九月	頭書百人一首 一冊	右増補改板願出	作者 生駒休次郎 (備後町)	板元 阿波屋善兵衛 (備後町)	出願 享保十六年十二月	大無量壽經貫略義 三冊	作者 教專寺理圓 (安藝佐伯郡草津村)	板元 右同寺 藏板	支配人 本屋庄太郎 (本町五丁目)	出願 享保十六年十二月	繪本御伽草 三冊	作者 繪師 高木幸助 (北備後町)	板元 瀬戸物屋傳兵衛 (北備後町)	出願 享保十七年二月	日本居家秘用 十二冊	作者 三宅建治 (江戸堀南側三丁目)	板元 伊丹屋新兵衛 (安芸寺町五丁目)	支配人 大塚屋惣兵衛 (安芸寺町五丁目)	出願 享保十七年二月	養生訓 三冊	作者 三田傳右衛門 (廣州丸龜)	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町)	出願 享保十七年三月	臨池心法歌 一冊	作者 東以津起 (高麗橋一丁目)	板元 富士屋七兵衛 (高麗橋一丁目)	出願 享保十七年四月	新童子往來萬世寶鑑 一冊	増補改板願出	作者 鳥飼市兵衛	板元 吉文字屋市兵衛	板元 つかや九兵衛	出願 享保十七年四月	導引秘傳指南抄 一冊	作者 田中因齋 (北谷町)	板元 大和屋卯右衛門 (南久賀寺町二丁目)	出願 享保十七年五月	謡曲畫誌 十冊	作者 中村平五 (安藝佛光寺通新町)	繪師 橋守國 (岩田町)	板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)	出願 享保十七年四月	傷寒類證活人書 八冊	作者 宋、朱奉儀

調點者 安部隆菴 (中之島常安町)	板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目)	出願 享保十七年六月三日	醫壘元戎 一冊	作者 宋、王好古	調點者 安部隆菴 (中之島常安町)	板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目)	出願 享保十七年六月三日	懷玉筆海重寶記 一冊	紙數九十九丁	作者 大津屋與右衛門 (備馬町)	板元 右同人	出願 享保十七年六月	聲字門顯體記 二冊	作者 寶壽寺普寧 (肥前阿佐山)	板元 支配人 伊丹屋利七 (南久太郎町六丁目)	出願 享保十七年十月	釋門正時曆 一冊	作者 寶山寺大淵 (和州生駒)	板元 吉野屋重郎兵衛 (和州生駒)																																			
出願 享保十七年十月 (高麗橋一丁目)	平字手鑑 一冊	作者 芳潤 (下牛町)	板元 藤屋伊兵衛 (五幸町)	板元 紙屋治平 (北堀江二丁目)	出願 享保十七年十月	醫壘元戎 十二冊	作者 宋、王好古 (中之島常安町)	調點者 安部隆菴	板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目)	出願 享保十七年十月	繪本みなの川 三冊	作者 西川右京祐信 (京馬場佛光寺上五丁目)	板元 秋田屋市兵衛 (安芸寺町五丁目)	出願 享保十七年十月	町方書札集 一冊	作者 柴田佐仲 (西人橋一丁目)	板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)	出願 享保十七年十一月	湯液痘疹良方 一冊	作者 寺島良安 (備後町)	板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)	板元 大津屋與右衛門 (備馬町)	出願 享保十七年十一月	和漢辨會錄 六冊	作者 敬知 (江州高島郡科村)	板元 敦賀屋九兵衛 (備後町五丁目)	板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町)	出願 享保十七年十一月	醫家蒙求 三冊	作者 市川尚賢 (備後州)	板元 近江屋甚兵衛 (南久太郎町六丁目)	板元 大和屋宇右衛門 (南久賀寺町二丁目)	出願 享保十七年十一月	癩疹精要 一冊	作者 清、張聯玉	調點者 上月專菴 (備後町)	板元 本屋伊兵衛 (津島町)	出願 享保十七年十二月	秘傳活幼全書 一冊	作者 明、錢大用 (上境町)	調點者 高田瑞菴	板元 けまや八郎右衛門 (上本町三丁目)	出願 享保十七年十二月	萬葉百人一首教訓文 一冊	作者 瀬戸物屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)	板元 右同人	出願 享保十七年十二月	拾玉用文章寶箱 一冊	作者 小森松洞 (京東洞院松原下九町)	板元 藤屋宗左衛門 (京寺町五條上九町)	板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)	出願 十七年十二月	書體辨疑惣論 一冊

作者 岩田 瀨芳 (備前島町) 板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目) 出願 享保十八年八月	作者 富士屋久清 (高麗橋一丁目) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 享保十八年八月	作者 山本 序因 (淨國寺町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 享保十八年八月	作者 貝原 篤信 (濱前) 板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目) 出願 享保十八年八月	作者 本郷助之丞 (南島町) 醫道重寶記日用綱目 一冊	作者 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目) 出願 享保十八年八月	作者 伊丹屋新兵衛 (安堂寺町五丁目) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 享保十八年九月	作者 存登上人 板元 惠日院良空 (勢州一身田御門跡御内) 支配人 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 享保十八年十一月	作者 中尾 伊助 (江戸橋二丁目) 板元 本屋長右衛門 (尾崎町二丁目) 出願 享保十八年十一月	作者 弘法大師 板元 藤屋宗左衛門 (京寺町五橋上八町) 板元 藤屋彌兵衛	出願 享保十九年正月 (高麗橋一丁目)	作者 大津屋與右衛門 (備前島町いづみや兵衛借家) 板元 享保十九年	文徵明墨跡之寫 板元 河内屋宇兵衛 (博勢町) 出願 享保十九年二月	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町) 出願 享保十九年二月	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町) 出願 享保十九年二月	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町) 出願 享保十九年二月	作者 寺田 正晴 (博勢町) 板元 柏原屋清右衛門 (博勢町)	板元 大津屋與右衛門 (願慶町五丁目) 出願 享保十九年四月	筆者 森本 庄藏 (北濱一丁目) 板元 本屋伊兵衛 (淨覺町) 出願 享保十九年四月	筆者 本間 文義 (九之助町一丁目) 板元 田原屋平兵衛 (石灰町) 出願 享保十九年五月	作者 藤内 藏助 (對州) 板元 享保十九年正月	作者 斧 (淨國寺町) 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 享保十九年七月	板元 大津屋與右衛門 (願慶町五丁目) 出願 享保十九年四月	筆者 森本 庄藏 (北濱一丁目) 板元 本屋伊兵衛 (淨覺町) 出願 享保十九年四月	筆者 本間 文義 (九之助町一丁目) 板元 田原屋平兵衛 (石灰町) 出願 享保十九年五月	作者 藤内 藏助 (對州) 板元 享保十九年正月	作者 斧 (淨國寺町) 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 享保十九年七月
---	---	--	--	--------------------------------	-----------------------------------	--	--	--	---	---------------------	---------------------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	--	---	-----------------------------	---	-----------------------------------	--	---	-----------------------------	---

作者 斧 (淨國寺町) 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 享保十九年七月	作者 斧 (淨國寺町) 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 享保十九年七月	作者 繪本勇士名香之梵 (南徳師屋町) 作者 畫工 中澤友安 (南徳師屋町) 板元 瀬戸物屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目) 出願 享保十九年八月	作者 高木 幸助 (北編屋町) 板元 吉文字屋市兵衛 (淨覺町) 板元 河内屋茂兵衛 (願慶町五丁目) 出願 享保十九年八月	作者 定専坊月峯 (天満天神御門跡七丁目) 支配人 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 享保十九年八月	撰者 西山 昌休 (天満八丁目) 板元 右同人 支配人 本屋伊兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 享保十九年十一月	作者 廣成子 (吉野屋町) 校合人 木津屋吉兵衛 (吉野屋町) 板元 秋田屋徳右衛門 (吉野屋町) 出願 享保十九年十一月	板元 河内屋宇兵衛 (博勢町) 出願 享保十九年十二月	作者 津國屋三郎兵衛 (南久太郎町一丁目) 板元 伊勢屋新兵衛 (三郎右衛門町)	出願 享保十九年十二月	作者 河内屋太郎兵衛 板元 享保二十年正月	畫工 河合 岡四 (寺地町) 板元 本屋 傳七 (心齋町) 板元 丹波屋利兵衛 (南久保寺町) 出願 享保二十年二月	紙數四十五丁 板元 絲川屋伊兵衛 出願 享保二十年二月	紙數十六枚 板元 木津屋吉兵衛 (吉野屋町) 板元 秋田屋徳右衛門 (備馬町) 出願 享保二十年二月	出願 享保二十年二月	作者 清、陳邦彦 板元 敦賀屋九兵衛 板元 本屋清三郎 (淨覺町) 出願 享保二十年四月	作者 叔微知可述 板元 河内屋八三郎 (小濱町) 出願 享保二十年四月	作者 播磨屋十兵衛 (島町二丁目) 板元 伊勢屋新兵衛 (三郎右衛門町) 出願 享保二十年四月七日	丁數七十二丁 作者 筆者 新興文治 (安堂寺町) 板元 大津屋與右衛門 (備馬町) 出願 享保二十年四月十九日	折本二枚 年曆圖鑑大成 兩面 改板願出
---	---	--	---	---	--	--	--------------------------------	---	-------------	--------------------------	---	-----------------------------------	---	------------	---	---	---	--	------------------------

作者 藤屋長兵衛
板元 右同人
出願 享保二十年四月廿八日

女源氏教訓寶鑑 一冊
丁數七十五丁
作者 山本序因 (淨福寺町)

板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 享保二十年四月廿八日

小栗實紀 十三冊
作者 島山泰全 (伏見)

再考 穂積伊助
板元 敦賀屋九兵衛
板元 大津屋與右衛門
出願 享保二十年五月十六日

黃庭外景經 石摺一冊
筆者 晉、王羲之
板元 本屋清三郎 (心齋橋筋淨覺町)

出願 享保二十年五月十二日

松風草 一冊
作者 三屋星子 (備中笠岡)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 享保二十年五月九日

萬玉百人一首寶庫 一冊
作者 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)

板元 右同人
出願 享保二十年五月十六日

續唐翁詩集 一冊
作者 大旨 (上野町五丁目)

板元 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目)
出願 享保二十年五月十六日

四體秋興八首 二冊
丁數三十二丁
筆者 森本正藏 (北濱一丁目)

板元 伊勢屋新兵衛 (三郎右衛門町)
出願 享保二十年五月十六日

大友眞鳥實記 十五冊
作者 島山泰全 (伏見第二橋)

板元 河内屋宇兵衛 (傳馬町)
出願 享保二十年七月廿三日

渡世袋 三冊

作者 石川源旨 (津村北之町)

板元 伏見屋治兵衛 (本町五丁目)

板元 時枝新之丞 (兵庫川崎)

出願 享保二十年七月廿三日

狂歌机の塵 一冊
撰者 永田貞竹 (五幸町)

板元 田原屋平兵衛 (願慶町二丁目)

出願 享保二十年

大和國大繪圖 一冊
作者 中村敬耳 (大和關屋村)

畫工 高木幸助 (せんざん木筋渡路町)

板元 譽田屋伊右衛門 (心齋橋筋淨覺町)

出願 享保二十年

けいこ和讃 一冊
撰者 本屋庄太郎 (本町五丁目)

板元 右同人
出願 享保二十年九月

四體百字文 二冊

丁數六十九丁
筆者(上卷) 僧 雪庵 (願慶町)

筆者(下卷) 蘭 谷 (願慶町小倉)

板元 菊屋勘四郎 (錦町二丁目)

出願 享保二十年十月

女筆御簾の雲 三冊
丁數四十六丁
作者 筆者 長谷川妙體 (京)

板元 丹波屋利兵衛 (久寶寺町五丁目)

出願 享保二十年十月

女用文章唐錦 一冊
丁數七十一丁
作者 筆者 春名氏須磨 (木挽北之町)

板元 吉文字屋市兵衛 (傳馬町)

出願 享保二十年十月

懷實年代記 折本一冊
右改板願出
板元 河内屋宇兵衛

出願 享保二十一年正月

徂徠先生國字讀 二冊

作者 林周助吉行 (大坂東區町)

板元 河内屋宇兵衛 (傳馬町)

出願 享保二十一年正月

狂歌繪本草の種 三冊
作者 水谷季卿 (北橋屋町)

繪師 高木貞武 (北橋屋町)

板元 瀬戸物屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 享保二十一年正月

書經二典解 二冊
作者 岡太仲 (藤州西の宮)

板元 本屋清三郎 (傳馬町)

出願 享保二十一年正月

伊勢道中繪圖
作者 榕山青砥
繪師 高木幸介 (北橋屋町)

板元 譽田屋伊右衛門 (傳馬町)

出願 享保二十一年二月

鸞羣書 石摺一冊
板元 秋田屋德右衛門

出願 享保二十一年二月

出願 享保二十一年二月

公道訓 三冊
以前「大道訓」と題せし五冊物の中三冊を改題

板元 出願 享保二十一年二月

西銘示蒙解 二冊
以前「大道訓」と題せし五冊物の中二冊を改題

板元 出願 享保二十一年二月

立花巧程式 五冊
作者 原田一水 (傳馬町)

板元 河内屋宇兵衛 (傳馬町)

出願 享保二十一年二月

狂歌増録 一冊
作者 栗柯亭木端 (尾崎町一丁目)

板元 本屋嘉兵衛 (渡路町切丁)

出願 享保二十一年二月

作者 藤 内藏助 (對馬城下)

板元 毛馬屋八郎右衛門 (對馬城下)

出願 享保二十一年五月

三才因縁辨疑 後篇三冊
作者 村上俊清 (船場町)

板元 近江屋卯右衛門 (金田町)

出願 元文元年六月

續類證本事方 五冊
作者 叔微知可 (藤州鹿見島)

調點者 中正沂流 (小濱町)

板元 河内屋八三郎 (小濱町)

出願 元文元年六月

いろは字考録 二冊
作者 全長 (紀州名高浦)

板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)

出願 元文元年六月

小割塵劫記 一冊
作者 谷川善右衛門 (安島新地四丁目)

出願 元文元年六月

板元 池田屋三郎右衛門 (泉原町)

出願 元文元年六月

押繪手かきみ 三冊
作者 繪師 大岡道信 (さくら町)

板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)

出願 元文元年八月

倭語連聲集 一冊
作者 大聖院盛典 (野州佐野)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 元文元年九月十五日

香道軒の玉水 二冊
作者 大枝流芳 (天満鈴鹿町)

板元 伏見屋藤三郎 (高麗橋一丁目)

板元 秋田屋德右衛門 (傳馬町)

出願 元文元年十一月

中臣祓祝詞素義 五冊
作者 藤 内藏助 (對馬城下)

板元 毛馬屋八郎右衛門 (對馬城下)

出願 元文元年十二月

<p>筆海武者鏡 五冊 作者 大同 隼人 板元 柏原屋清右衛門 出願 元文二年正月 (安堂寺町五丁目)</p> <p>扶桑雷除考 一冊 作者 寺田與右衛門 板元 大津屋左介 出願 元文二年二月 (馬場町)</p> <p>新童子往來萬世寶鑑 一冊 增補改板願出 板元 教賀屋九兵衛 板元 吉文字屋市兵衛 出願 元文二年三月</p> <p>碧巖種電抄 十二冊 作者 僧 大智 板元 白王寺 支配人 かや市兵衛 支配人 播磨屋傳兵衛 出願 元文二年 淨瑠璃 難波みやげ 三冊 作者 三木平右衛門 (備前岡山)</p>	<p>板元 永田屋吉右衛門 出願 元文二年五月 (北久太郎町五丁目)</p> <p>不動明王靈應記 四冊 作者 覺城院 板元 藤屋彌兵衛 板元 河内屋字兵衛 出願 元文二年六月 (高麗橋二丁目) (博勢町)</p> <p>有馬細見圖 畫工 江阿彌卜信 板元 大津屋與右衛門 出願 元文二年七月 (日向町)</p> <p>辨々道書 二冊 作者 佐々木丹治 板元 本屋清左衛門 出願 元文二年七月 (播州廣路住) (心齋橋筋東物町)</p> <p>繪本福壽草 三冊 繪師 大同 春川 板元 藤屋彌兵衛 出願 元文二年八月 (高麗橋二丁目)</p>	<p>聖意無盡藏 一冊 作者 桐井玄波 板元 柏原屋清右衛門 出願 元文二年八月 (高麗橋四丁目) (高麗橋五丁目)</p> <p>狂歌戎の鯛 一冊 撰者 永田貞竹 板元 丹波屋傳兵衛 板元 いせや新兵衛 出願 元文二年九月 (三郎石衛門町)</p> <p>拾遺小話小舞扇百番 一冊 作者 松村清介 板元 教賀屋九兵衛 出願 元文二年九月 (高麗橋五丁目) (高麗橋町)</p> <p>繪本和比事 十冊 作者 伴祐信 畫工 西川左京 板元 河内屋字兵衛 出願 元文二年九月 (博勢町)</p>	<p>出願 元文二年九月</p> <p>詠物帖 一冊 作者 畫工 平瀬九成 板元 本屋嘉兵衛 出願 元文二年九月 (渡路町切丁)</p> <p>狂歌種ふくべ 一冊 十行丁數三十二丁 作者 水谷平次 板元 吉文字屋市兵衛 板元 丹波屋利兵衛 出願 元文二年十一月 (南久寶寺町五丁目) (博勢町)</p> <p>繪本珍口記 三冊 丁數三十六丁 作者 廿霖 繪師 西川祐信 板元 丹波屋利兵衛 板元 田原屋平兵衛 出願 元文二年十一月 (高麗橋二丁目)</p> <p>其積置土産 五冊</p>
---	---	--	--

<p>丁數六十七丁</p> <p>作者 其積 板元 本屋庄太郎 出願 元文二年閏十一月 (本町五丁目)</p> <p>學庸德性說 一冊 丁數十二丁 作者 鈴木貞齋 板元 譽田屋伊右衛門 出願 元文二年十二月 (長洲白髮町) (心齋橋筋東町)</p> <p>醫學窺原論 二冊 作者 足立遙軒 板元 本屋吉右衛門 板元 本屋伊兵衛 出願 元文二年十二月 (和州會理) (北久寶寺町四丁目) (安堂寺町五丁目)</p> <p>鐵輪仲直 二冊 作者 善淨 板元 河内屋八三郎 出願 元文三年四月</p> <p>七福神傳記 二冊 作者 渡邊彌太郎 (攝州多田村)</p>	<p>板元 瀬戸物屋傳兵衛 出願 元文三年五月 (北久太郎町五丁目)</p> <p>觀音經繪抄 二冊 作者 増田馬生 板元 吉文字屋市兵衛 出願 元文三年五月 (大坂上難波町)</p> <p>男字彙節用紙紙硯 一冊 作者 山本序因 板元 伏見屋藤三郎 出願 元文三年五月 (淨國寺町) (高麗橋一丁目)</p> <p>字原千字文 一冊 作者 新興文治 板元 本屋加兵衛 出願 元文三年五月 (京町堀一丁目) (渡路町切丁)</p> <p>大悉曇章稽古錄 二冊 作者 寂嚴 板元 藤屋彌兵衛 出願 元文三年八月 (備中國神村) (高麗橋一丁目)</p> <p>商人平生記 一冊 出願 元文三年八月 (攝州多田村)</p>	<p>作者 藤波吾平 板元 河内屋字兵衛 出願 元文三年八月 (博勢町)</p> <p>古今立花園篇 三冊 作者 扇外 板元 柏原屋清右衛門 板元 河内屋字兵衛 板元 坂田屋藤藏 出願 元文三年九月 (南堀江五丁目) (高麗橋五丁目) (安堂寺町五丁目)</p> <p>非藥選 三冊 作者 戸田齋 板元 田原屋平兵衛 板元 河内屋八三郎 板元 河内屋字兵衛 出願 元文三年九月 (谷一丁目) (高麗橋二丁目) (小濱町) (博勢町)</p> <p>拾玉節鑑大成 一折 板元 丹波屋理兵衛 出願 元文三年九月 (南久寶寺町五丁目)</p>	<p>輕口初賣買 五冊 作者 江島屋源吉 板元 笠屋佐兵衛 板元 伊丹屋新七 出願 元文三年九月 (京町堀門前町) (南久太郎町五丁目) (南久太郎町六丁目)</p> <p>西國順禮たびすゝめ 一冊 作者 藤屋伊兵衛 板元 右同人 出願 元文三年十二月 (御幸町)</p> <p>大坂大繪圖 一折 板元 富士屋長兵衛 出願 元文四年二月 (高麗橋一丁目)</p> <p>盧窓筆談 一冊 丁數三十七丁 作者 森岡去流 板元 柳屋吉右衛門 出願 元文四年五月 (和州今井)</p> <p>繪本名將軍功櫻 三冊 丁數二十六丁有改仕立願出 板元 伊丹屋新七</p>
--	--	---	---

出願 元文四年五月 雛形紅葉の山 二冊 作者繪師 龜屋徳右衛門 板元 柏原屋徳右衛門 出願 元文四年三月 (安土町二丁目)	出願 元文四年五月 阿房宮賦 一冊 作者大 二 板元 河内屋八三郎 出願 元文四年三月 (小瀬町)	出願 元文四年五月 男女風の傳 三冊 丁數五十三丁 作者 中 島 幸 來 板元 河内屋八三郎 出願 元文四年五月 (小瀬町)	出願 元文四年五月 深艸山慈空和尚行實 一冊 丁數十五丁 作者 桂林寺瑞堂比丘 板元 藤屋彌兵衛 出願 元文四年五月 (高麗橋一丁目)	出願 元文四年五月 探玄算法 一冊 丁數二十五丁 作者 入 江 兵 庫 板元 本屋彌兵衛 出願 元文四年五月 (南久太郎町六丁目)	出願 元文四年五月 攝州神社廻り圖 一折 作者 久 保 重 宜 板元 千野屋新右衛門 出願 元文四年五月 (攝州赤川村)	出願 元文四年五月 法華釋讀順記 一冊 丁數五十九丁 作者 妙 瑞 板元 高野山如意輪寺 支配人 河内屋宇兵衛 出願 元文四年五月 (高野山如意輪寺)	出願 元文四年七月 内百番上懸謄本 右板元變更願出 舊板元 山本長兵衛 新板元 吉文字屋市兵衛 出願 元文四年七月 (淨覺町)	出願 元文四年七月 律 略 一冊 作者 道明寺屋三郎兵衛 板元 丹波屋傳兵衛 出願 元文四年八月 (北久太郎町五丁目)	出願 元文四年八月 神教標原艸 二冊 墨付四十丁 作者 近藤大隅守 板元 右 同 人 支配人 河内屋八三郎 出願 元文四年八月 (和州高安郡飛鳥神社下宮)	出願 元文四年八月 四曼義纂要 二冊 作者 南 雲 支配人 伊丹屋新七 出願 元文四年八月 (高野山成福院會下)	出願 元文四年八月 女人愛執怪異錄 二冊 作者 鈴 木 貞 齋	出願 元文四年九月 大毘盧遮那經主義 一冊 作者 大山寺常操 板元 地 藏 寺 支配人 小島屋勘右衛門 出願 元文四年十月 (河内清水)	出願 元文四年九月 藝苑厄言 四冊 板元 紙屋清右衛門 支配人 池田屋三郎右衛門 出願 元文四年十月 (四軒町)	出願 元文四年十一月 森羅萬象要字海 一冊 作者 時 枝 左 門 板元 伊丹屋茂兵衛 出願 元文四年十一月 (南久太郎町五丁目)	出願 元文四年十一月 辨葉氏情説 一冊 作者 鈴 木 貞 齋	出願 元文四年九月 西隱傳阿 板元 河内屋吉郎兵衛 出願 元文四年九月 (農人橋二丁目)
---	---	---	--	--	--	---	--	---	---	--	--	---	--	--	---	---

出願 元文四年十一月 續ますかどみ 一冊 作者 栗柯亭木端 板元 本屋嘉兵衛 出願 元文四年十一月 (浪路町切丁)	出願 元文四年十一月 荀 子 十冊 板元 千草屋新右衛門 出願 元文四年十一月 (曾根崎村)	出願 元文四年十一月 增補 蠶海節用集 一冊 作者 高田 佐 兵 衛 板元 吉文字屋市兵衛 出願 元文五年正月 (江戸堀三丁目)	出願 元文五年二月 痘疹大成 一冊 作者 浙姚 汪 若 源 調點者 林 周 齋 板元 柏原屋清右衛門 出願 元文五年二月 (吳服町)	出願 元文五年二月 畫巧器覽 六冊 筆者 大 岡 春 卜 板元 敦賀屋九兵衛 出願 元文五年二月 (安堂寺町五丁目)	出願 元文五年二月 琴浦小集 一冊 丁數十九丁 作者 東 明 禪 師 板元 河内屋宇兵衛 出願 元文五年四月 (尼 崎)	出願 元文五年四月 大坂四十八箇寺阿彌陀順禮記 一冊 丁數三十二丁 作者 寂 譽 板元 九 應 寺 支配人 秋田屋市兵衛 出願 元文五年四月 (安堂寺町五丁目)	出願 元文五年四月 探玄算法題言五條 一冊 丁數五十丁増補改板願出 作者 入 江 兵 庫 板元 本屋彌兵衛 出願 元文五年四月 (舟 町)	出願 元文五年四月 碧巖除疑網 一冊 丁數三十三丁 作者 香 幢 板元 池田屋佐兵衛 出願 元文五年四月 (博勢町)	出願 元文五年四月 唐土王代一覽 六冊 以前「中華歷代紀略」と題せし を影足し改題願出 彫足作者 穂積伊助 板元 丹波屋理兵衛 出願 元文五年六月 (南久太郎町五丁目)	出願 元文五年六月 仁王經疏記 前篇二冊 作者 寶 乘 板元 河内屋宇兵衛 出願 元文五年六月 (浪 崎)	出願 元文五年六月 繪本千代見草 三冊 作者繪師 西川祐信 板元 本屋庄太郎 出願 元文五年七月 (本町五丁目)	出願 元文五年八月 文寶節用字林集 一冊 作者 寺 田 正 晴 板元 大津屋嘉兵衛 出願 元文五年八月 (藤原町五丁目)	出願 元文五年八月 狂歌活玉集 二冊 撰者 法橋契 因 板元 警田屋伊右衛門 出願 元文五年八月 (博勢町)	出願 元文五年八月 古文眞寶 一冊 片假名付影替願出	出願 元文五年七月 青鶴原夢語 三冊 作者 萬 回 板元 淡 壽 寺 支配人 池田屋三郎右衛門 出願 元文五年七月 (伊豫大洲)	出願 元文五年七月 張 謂 詩 一冊 作者 平 介 伯 板元 丹波屋傳兵衛 出願 元文五年八月 (北久太郎町五丁目)
---	---	--	---	--	---	--	--	---	--	---	--	--	--	---	---	--

板元 秋田屋市兵衛 出願 元文五年八月 (安堂寺町五丁目)	板元 河内屋宇兵衛 出願 元文六年二月 (博勢町)	出願 元文六年二月 書札案遺文海 折手本 作者 和山治右衛門 (津村西ノ町)	作者 戸田 齋 出願 寛保元年五月 (豊谷一丁目)
撰者 塘 百子 板元 丹波屋傳兵衛 出願 元文五年九月 (南久太郎町一丁目) (北久太郎町五丁目)	作者 妙 瑞 板元 河内屋宇兵衛 出願 元文六年二月 (高野山知覚輪寺) (博勢町)	板元 本屋彌兵衛 出願 寛保元年六月 (南久太郎町六丁目)	出願 寛保元年五月 繪本四季遊 以前「妖化友遊」と題せしを板 木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)
法華歌題目 一冊 作者 淨 圓 板元 藤屋伊兵衛 出願 元文五年九月 (總持町)	隨求菩提感應傳 三冊 作者 超海 律師 板元 藤屋彌兵衛 出願 元文六年二月 (高野山知覚輪寺) (高野町一丁目)	女要訓和歌文庫 一冊 作者 桃江舍漁舟 板元 河内屋八三郎 出願 寛保元年五月 (上福島村)	繪本千尋勢 三冊 以前「立髮一疋男」と題せしを 板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)
新童子往來千歲寶篋 一冊 彭替願出 板元 吉文字屋市兵衛 板元 敦賀屋九兵衛 出願 元文六年正月	筆道啓蒙抄 一冊 右増補改板願出 作者 仙 淡 板元 藤屋彌兵衛 出願 元文六年五月 (高野町一丁目)	内外百三十番小話 一冊 作者 辻 清 信 板元 河内屋八三郎 出願 寛保元年五月 (小濱町)	繪本千代秋 三冊 以前「福神七悦顔」と題せしを 板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)
童訓小話磯玉藻 一冊 作者 寺田 正 晴 板元 柏原屋清右衛門 出願 元文六年正月	中條流産書 二冊 平假名改板願出 作者 村山 林 益 板元 村上屋清三郎 出願 寛保元年十一月 (淨覺町)	神武有會海 五冊 以前「辨々破竹抄」と題せしを 改題願出 板元 本屋清右衛門 出願 寛保元年五月 (唐物町四丁目)	繪本京みやげ 一冊 以前「公時幼稚遊」と題せしを 板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)
詩 則 一冊 作者 林 周 助 (吳原町)	女要玉手箱 一冊 作者 桃江舍漁舟 板元 河内屋八三郎 出願 寛保元年十月 (上之江村)	狂歌大和拾遺 一冊 作者 田中茂兵衛 板元 伊丹屋新七 出願 寛保元年十一月 (南久太郎町六丁目)	表紙付共丁數八十一丁諸百七 十三番 作者 西川 丹 治 板元 仲屋 嘉 七 出願 寛保二年六月 (江戸堀三丁目)
猿合戰龍宮都 一冊 以前「御伽福壽神」と題せし を板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)	女要玉手箱 一冊 作者 桃江舍漁舟 板元 河内屋八三郎 出願 寛保元年十月 (上之江村)	風流返魂香 五冊 作者 田中 和 介 板元 阿波屋文兵衛 出願 寛保元年十一月 (藤 町)	蛻 巖 集 四冊 詩數三百一首 丁數九十八丁 作者 梁田才右衛門 板元 支配人 和泉屋源藏 出願 寛保二年六月 (藤野町五丁目)
金剛力勇士鑑 一冊 以前「繪本惡魔降伏」と題せし を板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)	狂歌落葉袋 一冊 丁數四十一丁 板元 本屋勘右衛門 出願 寛保元年十月 (北久太郎町五丁目)	行基菩薩草創記 二冊 作者 沙 門 本 良 板元 柏原屋清右衛門 板元 敦賀屋四郎兵衛 出願 寛保二年二月 (博勢町)	柳の絲 一冊 表組本哥十首伊勢物語哥十首 三味せん哥十首芭蕉調子尺八 調子惣丁數十四丁 作者 赤木 勾 當 板元 河内屋宇兵衛 出願 寛保二年六月 (博勢町)
繪本龍虎勢 一冊 以前「金平御酒神樂」と題せし を板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)	正字通作者辨 一冊 作者 珂 泉 然 板元 法 泉 寺 支配人 河内屋吉兵衛 出願 寛保元年十一月 (農人橋二丁目)	拾遺大雜書萬年曆 一冊 作者 近江屋 甚 助 板元 秋田屋市兵衛 出願 寛保二年三月 (安堂寺町五丁目)	茶湯指南抄 六冊 墨付九十二丁 作者 遠 藤 元 閑 以前「茶之湯評林」と題せしも
歸去來辭 一冊 筆者 元、趙子昂 板元 本屋新右衛門 出願 寛保元年六月 (博勢町)	入木抄 一冊 作者 智 破 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年十一月 (淨覺町)	妻孥小話大成 一冊 出願 寛保二年三月	
萬代武者鑑 三冊 出願 寛保元年六月			

出願 寛保元年六月 (淨覺町)	以前「繪本名香兜」と題せしを 板木買取り改題願出 板元 神崎屋吉兵衛 出願 寛保元年十月 (種屋町三丁目)	狂歌大和拾遺 一冊 作者 田中茂兵衛 板元 伊丹屋新七 出願 寛保元年十一月 (南久太郎町六丁目)	表紙付共丁數八十一丁諸百七 十三番 作者 西川 丹 治 板元 仲屋 嘉 七 出願 寛保二年六月 (江戸堀三丁目)
猿合戰龍宮都 一冊 以前「御伽福壽神」と題せし を板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)	女要玉手箱 一冊 作者 桃江舍漁舟 板元 河内屋八三郎 出願 寛保元年十月 (上之江村)	風流返魂香 五冊 作者 田中 和 介 板元 阿波屋文兵衛 出願 寛保元年十一月 (藤 町)	蛻 巖 集 四冊 詩數三百一首 丁數九十八丁 作者 梁田才右衛門 板元 支配人 和泉屋源藏 出願 寛保二年六月 (藤野町五丁目)
金剛力勇士鑑 一冊 以前「繪本惡魔降伏」と題せし を板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)	狂歌落葉袋 一冊 丁數四十一丁 板元 本屋勘右衛門 出願 寛保元年十月 (北久太郎町五丁目)	行基菩薩草創記 二冊 作者 沙 門 本 良 板元 柏原屋清右衛門 板元 敦賀屋四郎兵衛 出願 寛保二年二月 (博勢町)	柳の絲 一冊 表組本哥十首伊勢物語哥十首 三味せん哥十首芭蕉調子尺八 調子惣丁數十四丁 作者 赤木 勾 當 板元 河内屋宇兵衛 出願 寛保二年六月 (博勢町)
繪本龍虎勢 一冊 以前「金平御酒神樂」と題せし を板木買取り改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年六月 (淨覺町)	正字通作者辨 一冊 作者 珂 泉 然 板元 法 泉 寺 支配人 河内屋吉兵衛 出願 寛保元年十一月 (農人橋二丁目)	拾遺大雜書萬年曆 一冊 作者 近江屋 甚 助 板元 秋田屋市兵衛 出願 寛保二年三月 (安堂寺町五丁目)	茶湯指南抄 六冊 墨付九十二丁 作者 遠 藤 元 閑 以前「茶之湯評林」と題せしも
歸去來辭 一冊 筆者 元、趙子昂 板元 本屋新右衛門 出願 寛保元年六月 (博勢町)	入木抄 一冊 作者 智 破 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛保元年十一月 (淨覺町)	妻孥小話大成 一冊 出願 寛保二年三月	
萬代武者鑑 三冊 出願 寛保元年六月			

<p>のゝ内薄茶の部を抜き改題願出 板元 河内屋八三郎 (小濱町) 出願 寛保二年七月</p> <p>兒訓小謡 一冊 以前「内外百三十番小謡」と題せしものゝ内を抜き 外題改題出 作者 辻 清 治 (小濱町) 板元 河内屋八三郎 (小濱町) 出願 寛保二年七月</p> <p>増補小字彙 一冊 彫替願出 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 寛保二年八月</p> <p>萬國通用要字選 一冊 以前「萬國節用福字通便」と題せしを改題願出 作者 天王寺屋市郎兵衛 (京五條寺町) 板元 敦賀屋九兵衛 (大坂藤屋町) 出願 寛保二年八月</p> <p>榮海用文章 一冊</p>	<p>作者 戸田儀左衛門 (新天満町三丁目) 板元 瀬戸物屋傳兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 寛保二年八月</p> <p>標考中藏經 五冊 作者 吉岡玄昌 (伯州) 板元 吉文字屋市兵衛 (淨覺町) 板元 河内屋茂兵衛 (順慶町五丁目) 出願 寛保二年八月</p> <p>女要新玉文庫 一冊 彫替願出 作者 寺田與右衛門 (攝津今宮村) 板元 河内屋八三郎 (小濱町) 出願 寛保二年八月</p> <p>大日本廿二社道中記 一冊 井に廻り方繪圖 一枚 作者 猪飼津嘉久 (北久太郎町一丁目) 板元 丹波屋理兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 寛保二年八月</p> <p>淡々文集 五冊 作者 森 三揚</p>	<p>板元 丹波屋傳兵衛 (吳服町) 出願 寛保二年十月</p> <p>懷中小謡袖鏡 一冊 彫替願出 作者 河内屋八三郎 (小濱町) 板元 右同人 (小濱町) 出願 寛保二年十月五日</p> <p>誹諧四季言葉寄 折本一冊 板元 本屋庄太郎 出願 寛保二年十一月</p> <p>三論大義抄 四冊 作者 如意輪寺 (高野山西院谷) 板元 河内屋字兵衛 (博勢町) 出願 寛保二年十一月</p> <p>夢中一休 四冊 作者 近江屋甚助 (北久太郎町四丁目) 板元 灘屋庄兵衛 (鶴屋町) 出願 寛保二年十一月</p> <p>謡歌かるた 添本一冊</p>	<p>全部五十首 作者 津田太右衛門 (南久太郎町六丁目) 板元 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目) 出願 寛保二年十二月</p> <p>近江國繪圖 折本一冊 作者 山下重政 (河州大縣郡大縣村) 板元 本屋佐兵衛 板元 大津屋嘉兵衛 出願 寛保二年十二月</p> <p>面影莊子 四冊 作者 田中甚助 板元 柏原屋清右衛門 出願 寛保三年正月十八日</p> <p>倭生訓 一冊 作者 尾崎傳兵衛 板元 新屋吉郎兵衛 出願 寛保三年正月十八日</p> <p>女節用鑿栗袋 一冊 彫替願出 作者 山本序因 (淨國寺町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 寛保三年六月</p>
---	--	---	---

<p>謠行列座鋪狂言 一冊 作者 澁 傳五郎 (天満川町) 板元 本屋彌兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 寛保三年六月</p> <p>一念多念分別事人殺 二冊 作者 正 蓮 寺 (清波高松阿野郡北鴨村) 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 寛保三年七月</p> <p>繪本吉野草 三冊 作者 椿 唐 (尾張名古屋) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 寛保三年九月</p> <p>群五百人一首寶箱 一冊 彫替願出 作者 斧 磨 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 寛保三年十月</p> <p>輪駁行藏錄 五冊 墨付二百二十一枚</p>	<p>作者 圓 滿 寺 (福中氷見) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 寛保三年十月</p> <p>狂歌時雨の橋 一冊 作者 潘山王百子 (南久太郎町一丁目) 板元 菊屋勘四郎 (鏡町二丁目) 出願 寛保三年十一月</p> <p>篆字節用千金寶 一冊 作者 春名幸重郎 (淨覺町) 板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町) 出願 寛保三年十一月</p> <p>楊齋行狀 二冊 作者 増田謙益 (阿州鶴島) 板元 本屋嘉兵衛 (淡路町切丁) 出願 寛保三年十一月</p> <p>童學庭訓七寶往來 一冊 板元 本屋嘉兵衛 (淡路町切丁) 出願 寛保三年十一月</p>	<p>新撰八卦診解大成 一冊 改板願出 板元 本屋庄太郎 (本町五丁目) 出願 寛保三年十一月</p> <p>大増補日本道中行程記 一冊 以前「日本道中行程記」と題せしを改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 (淨覺町) 出願 寛保三年十二月</p> <p>文林節用筆海綱目 一冊 作者 田中甚助 (北久太郎町四丁目) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町) 出願 寛保三年十二月</p> <p>蠶海節用 一冊 再板願出 板元 吉文字屋市兵衛 (淨覺町) 板元 仲屋嘉七 (淨覺町) 出願 延享元年三月</p> <p>衆方規矩大成 一冊 再板願出 板元 吉文字屋市兵衛</p>	<p>出願 延享元年三月 (淨覺町)</p> <p>女教訓宿直袋 一冊 作者 漁 (上福島) 板元 河内屋庄三郎 (鹽町四丁目) 出願 延享元年三月</p> <p>女文臺綾袋 一冊 作者 田中甚助 (北久太郎町四丁目) 板元 丹波屋理兵衛 (南久太郎町五丁目) 板元 河内屋茂兵衛 (順慶町五丁目) 出願 延享元年三月</p> <p>斥非論 一冊 作者 太宰彌右衛門 (江戸) 板元 河内屋字兵衛 (博勢町) 出願 延享元年三月</p> <p>豊榮用節世寶藏 一冊 以前「字寶節用集」と題せしを増補改題願出 板元 本屋伊兵衛 (淨覺町) 出願 延享元年四月</p>
---	--	--	--

南山遺響

二冊

板元 譯文一冊附加願出

板元 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目)

女訓身持鏡

二冊

作者 桃源 (上海島村)

板元 河内屋八三郎 (小濱町)

日溪百問書

四冊

龍谷山能師法霖 口説

板元 紀州南 麟 筆記

板元 讚州素 深 校正

板元 本屋庄太郎 (本町御堂前)

出願 延享元年六月四日

隨問釋義

五冊

作者 靈光寺梅谷 (京)

板元 柏原屋清右衛門

板元 本屋庄太郎

出願 延享元年七月

女訓萬要品鏡

一冊

作者 桃江舍漁舟 (泉州日根郡上之口村)

板元 河内屋八三郎

出願 延享元年七月

太平鶴譜

一冊

作者 田中長與

板元 大塚屋惣兵衛

出願 延享元年七月

女要教訓智惠鏡

一冊

作者 斧磨

板元 本屋庄太郎

出願 延享元年九月

明文矩

一冊

作者 明、李滄溪

板元 弘廣堂 (播州)

支配人 本屋庄太郎 (本町五丁目)

出願 延享元年十月

繪本教訓諺草

三冊

畫工 西川祐信 (京)

板元 本屋庄太郎 (北御堂前)

出願 延享元年十一月

草書十體千字文

三冊

筆者 扇屋庄兵衛

板元 本屋嘉兵衛 (平野町二丁目)

出願 延享元年十一月

出定後語

二冊

作者 富永仲基 (備後町五丁目)

板元 丹波屋理兵衛 (南久太郎町五丁目)

出願 延享元年十一月

大日經疏般若寺鈔

二冊

作者 般若寺觀賢

板元 高野山釋迦文院

支配人 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目)

出願 延享元年十一月

畫本直指寶

十冊

作者 繪師 橋守國 (岩田町)

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享元年十一月

瘞鶴銘

一冊

原筆者 晉 王羲之

筆者 三木東洲 (安土町二丁目)

出願 延享元年十一月

風狂文章

五冊

作者 田中友水子 (北久太郎町四丁目)

板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 延享元年十二月

女教訓百人一首

一冊

作者 魚舟 (上海島)

以前「女教訓宿直袋」と題せしを改題願出

板元 河内屋庄三郎 (備後町四丁目)

出願 延享二年三月

萬葉假字略

一冊

作者 相樂 桃州 (堂島二丁目)

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享二年三月

譬喻願海抄

五冊

作者 善以 (奥國島島村)

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享二年五月

蛻巖文集

四冊

作者 梁田才右衛門 (播州赤石)

板元 敦賀屋九兵衛 (備前町)

出願 延享二年六月

本朝歲時故實

六冊

以前「年中重寶記」と題せしを改題願出

板元 本屋伊兵衛 (海國寺町)

出願 延享二年九月

翁之文

一冊

作者 富永仲基

板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 延享二年九月

射後方

一冊

調點者 沼文之進

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享二年九月

北山醫案

三冊

作者 北山壽菴友松子 (天王寺村)

板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 延享二年九月二十三日

積小館書則

一冊

作者 新興 周平 (海掛町)

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享二年十一月

地藏菩薩和讃諺註

二冊

作者 比丘 超海 (泉州平井)

板元 敦賀屋九兵衛

出願 延享二年十一月

論術

十五冊

板元 泉屋喜太郎 (南木町二丁目上)

板元 近江屋卯右衛門 (金田町)

板元 近江屋甚兵衛 (備馬町)

出願 延享二年十二月

淨土真宗靈會日鑑

一冊

作者 來儀子 (京)

板元 本屋嘉兵衛 (淡路町切丁)

出願 延享二年五月

溫泉小説

一冊

作者 上月 専菴 (平野町龜井町)

板元 泉屋文助 (長洲宮川町)

出願 延享三年正月

幾難鈞解

一冊

作者 惠光 (紀州廣浦)

板元 本屋清左衛門 (所物町四丁目)

出願 延享三年正月

女文章都織

一冊

差替願出

板元 本屋彌兵衛 (南久太郎町六丁目)

出願 延享三年正月

骨繼療治重寶記

一冊

作者 高志 共登 (備後村)

板元 敦賀屋四郎兵衛 (備前町)

出願 延享三年正月

天神籤

一冊

作者 喜七郎

板元 本屋清左衛門 (所物町四丁目)

出願 延享三年三月

古今茶人花押叢

一冊

作者 河合 蘭閑 (泉州上石津)

板元 丹波屋理兵衛 (南久太郎町五丁目)

出願 延享三年七月

繪本田義嶋

三冊

作者 繪師 雪坑齋

板元 田原屋平兵衛 (備後町一丁目)

出願 延享三年七月

雛形都の春

三冊

繪師 繪菱屋忠七 (京)

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享三年八月

獅蟲問答抄

二冊

作者 淨榮寺 (備前)

板元 柏原屋清右衛門 (備後町五丁目)

出願 延享三年八月

<p>春江花月夜 一冊 筆者 烏石山人 (江戸)</p> <p>板元 譽田屋伊右衛門 (博多町)</p> <p>出願 延享三年十一月</p> <p>甘藷記 一冊 作者 鈴木俊民 (新藤丁)</p> <p>板元 本屋庄太郎 (本町五丁目)</p> <p>出願 延享三年十一月</p> <p>茶歌 石摺一冊 筆者 泉必東 (平野町二丁目)</p> <p>板元 本屋加兵衛 (淡路町切丁)</p> <p>出願 延享四年正月</p> <p>醫學童子問 一冊 作者 高志其登 (難波村)</p> <p>板元 本屋伊兵衛 (淨覺町)</p> <p>出願 延享四年正月</p> <p>難波丸 五冊 影替願出 板元 田原屋平兵衛</p>	<p>出願 延享四年正月 (願慶町二丁目)</p> <p>歌仙二葉抄 三冊 作者 百川堂春幸 (内平野町)</p> <p>板元 菊屋勘四郎 (錦町二丁目)</p> <p>出願 延享四年三月</p> <p>長嘯啓蒙策 三冊 作者 三浦彭旭 (炭屋町)</p> <p>板元 右同人 (支配人 河内屋茂兵衛)</p> <p>出願 延享四年三月 (願慶町五丁目)</p> <p>萬曆兩面鏡 折本一冊 作者 野村方卿 (高麗橋一丁目)</p> <p>板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 延享四年四月</p> <p>瓢金窟 一冊 作者 近江屋源左衛門 (松原町)</p> <p>板元 泉屋卯兵衛 (松原町)</p> <p>出願 延享四年四月</p>	<p>春江花月夜 一冊 筆者 烏石葛辰 (江戸)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛 (延享四年四月)</p> <p>出願 延享四年四月</p> <p>文徵明茶詩 一冊 筆者 菅生周次 (板元 本屋清左衛門)</p> <p>出願 延享四年四月</p> <p>狂歌月の鏡 作者 栗河亭木端 (板元 本屋嘉兵衛)</p> <p>出願 延享四年五月 (淡路町切丁)</p> <p>滕王閣 石摺一冊 筆者 西南溪 (瓦町二丁目)</p> <p>板元 灘屋庄兵衛 (錦袋町)</p> <p>出願 延享四年六月</p> <p>繪本小倉塵 三冊 繪師 北尾辰宣 (周訪町)</p> <p>板元 田原屋平兵衛 (願慶町二丁目)</p> <p>出願 延享四年七月</p>	<p>本朝三聖利益傳 五冊 作者 現 (天王寺御子町)</p> <p>板元 河内屋字兵衛 (願慶町五丁目)</p> <p>出願 延享四年七月</p> <p>秋興八首 石摺一冊 筆者 大岡孚齋 (板元 本屋又兵衛)</p> <p>出願 延享四年七月 (錦袋町)</p> <p>檀弓 一冊 調點者 仲子文助 (長門森)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)</p> <p>出願 延享四年七月</p> <p>文章九命 一冊 調點者 高志養浩 (泉州堺)</p> <p>板元 丹波屋利兵衛 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 延享四年七月</p> <p>見聞雜著 三冊 作者 吉文字屋市兵衛 (淨覺町)</p> <p>板元 延享四年七月</p>
---	---	--	--

<p>時學誠情 二冊 作者 高志養浩 (泉州堺)</p> <p>板元 丹波屋理兵衛 (出願 延享四年七月)</p> <p>繪本演眞砂 三冊 作者 田中其風 (長福十丁目)</p> <p>板元 敦賀屋九兵衛 (出願 延享四年八月)</p> <p>金人銘 一冊 筆者 向井銀臺 (板元 河内屋茂兵衛)</p> <p>出願 延享四年九月</p> <p>增補和字解 一冊 作者 石川源右衛門 (鈴木町)</p> <p>板元 泉屋喜太郎 (出願 延享四年十月)</p> <p>繪本藥疾軍 一冊 作者 桂田吟子 (淨覺町)</p> <p>板元 本屋伊兵衛 (出願 延享四年十月)</p> <p>明朝紫硯 一冊 作者 大岡春卜</p>	<p>板元 柏原屋清右衛門 (出願 延享四年十一月)</p> <p>草書千字文 二冊 筆者 泉必東 (板元 本屋嘉兵衛)</p> <p>出願 延享五年二月</p> <p>孝女傳 一冊 賣弘人 柏原屋清右衛門 (出願 延享五年五月)</p> <p>鷄鳴法帖 石摺一帖 原筆者 文微明 (板元 富士屋長兵衛)</p> <p>出願 延享五年四月</p> <p>滄溟錦帶賦 一冊 筆者 泉必東 (板元 富士屋長兵衛)</p> <p>出願 延享五年四月</p> <p>七絶聲律 一冊 作者 宇鑑士朗 (近江國)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (出願 延享五年五月)</p> <p>和韓唱和集 二冊 作者 村上秀範</p>	<p>板元 柏原屋與市 (北平野町七丁目)</p> <p>出願 延享五年五月</p> <p>女孝經鑑紳 三冊 以前「つれ草月見の女」と題せしを改題願出 (板元 本屋又兵衛)</p> <p>出願 延享五年五月</p> <p>班馬異同 十二冊 點者 中村半三郎 (天王寺村)</p> <p>板元 菊屋惣兵衛 (南新町一丁目)</p> <p>出願 延享五年六月</p> <p>七夕乙女織 彫足し願出 (板元 丹波屋理兵衛)</p> <p>出願 延享五年六月 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>女要婦美観 一冊 作者 泉屋喜兵衛 (南本町一丁目上平)</p> <p>板元 泉屋喜太郎 (南本町一丁目上平)</p> <p>出願 延享五年六月</p> <p>吉齋漫錄 二冊</p>	<p>板元 泉屋喜太郎 (南本町一丁目上平)</p> <p>出願 延享五年六月</p> <p>經説拾遺 二冊 作者 原田清藏 (豐後日也)</p> <p>板元 伊丹屋新七 (南久太郎町六丁目)</p> <p>板元 伊丹屋茂兵衛 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 延享五年六月</p> <p>銀河抄 一冊 作者 百川堂春幸 (内平野町)</p> <p>板元 菊屋勘四郎 (錦町二丁目)</p> <p>出願 延享五年六月</p> <p>朝鮮人記 一冊 作者 木村其有 (板元 近江屋理兵衛)</p> <p>出願 延享五年六月</p> <p>菅氏文房錄 一冊 作者 菅丹治 (板元 本屋伊助)</p> <p>出願 延享五年七月 (北久寶寺町四丁目)</p> <p>般若心經秘要訣 一冊</p>
--	--	--	--

作者 惠 玄 板元 田原屋平兵衛 出願 延享五年七月 (龜崎町二丁目)	作者 唐 文徵明 板元 本屋 伊助 板元 河内屋喜兵衛 出願 延享五年七月 (北久寶寺町四丁目) (豊町四丁目)	作者 上月 丹藏 板元 本屋嘉兵衛 出願 延享五年七月 (龜井町) (淡路町切丁)	作者 村上 秀範 板元 柏原屋 與市 出願 延享五年七月 (北平野町七丁目) (龜崎町五丁目)	作者 堀内 忠兵衛 板元 丹波屋理兵衛 出願 寛延元年九月 (龜崎町五丁目) (泉州 堺)	作者 堀内 忠兵衛 板元 丹波屋理兵衛 出願 寛延元年九月 (龜崎町五丁目) (泉州 堺)	作者 萩 楓 板元 本屋 又兵衛 出願 寛延元年九月 (播州 姫路)	作者 千種屋新右衛門 板元 右 同人 出願 寛延元年九月 (舟 町)	作者 泉屋喜太郎 板元 泉屋喜太郎 出願 寛延元年九月 (南米屋町二丁目上半)	作者 田中 由水子 板元 泉屋喜太郎 出願 寛延元年九月 (長洲十丁目) (南米屋町二丁目上半)	作者 元、李息齋 板元 菊屋 惣兵衛 板元 本屋 伊助 出願 寛延元年九月 (南新川一丁目)	作者 大塚屋惣兵衛 板元 右 同人 出願 寛延元年九月 (安堂寺町五丁目)	作者 大塚屋惣兵衛 板元 右 同人 出願 寛延元年九月 (安堂寺町五丁目)	作者 田中 由水子 板元 泉屋喜太郎 出願 寛延元年九月 (長洲十丁目) (南米屋町二丁目上半)	作者 元、李息齋 板元 菊屋 惣兵衛 板元 本屋 伊助 出願 寛延元年九月 (南新川一丁目)
--	---	---	---	---	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

作者 繪師 橋 守國 板元 柏原屋清右衛門 出願 寛延元年九月 (龜崎町五丁目)	作者 文 徹 明 板元 鹽 屋 利 助 出願 寛延元年十月 (通書町)	作者 街 村 良 尙 板元 いとや市兵衛 出願 寛延元年十月 (南久太郎町四丁目) (伏見兩替町四丁目)	作者 高田 清兵衛 板元 堺屋清兵衛 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延元年十月 (江戸堀三丁目) (江戸堀三丁目) (淨 覺 町)	作者 泉屋喜兵衛 板元 泉屋喜兵衛 出願 寛延元年十月 (南米屋町二丁目上半) (南米屋町二丁目上半)	作者 大 岡 春 卜 板元 秋田屋市兵衛 出願 寛延元年十月 (博 勢 町)	作者 藤屋長兵衛 板元 藤屋長兵衛 出願 寛延元年十一月 (高麗橋一丁目)	作者 大塚屋惣兵衛 板元 大塚屋宗兵衛 出願 寛延元年十二月 (安堂寺町五丁目)	作者 播磨屋佐兵衛 板元 播磨屋佐兵衛 出願 寛延元年十二月 (鷗 嶺 町)	作者 五風堂車行 板元 本屋新右衛門 出願 寛延元年十一月 (博 勢 町)	作者 懷寶永代藏 板元 大塚屋宗兵衛 出願 寛延元年十二月 (安堂寺町五丁目)	作者 淨理理祕曲抄 板元 播磨屋佐兵衛 出願 寛延元年十二月 (鷗 嶺 町)	作者 女用唐錦と題せしを彫 板元 本屋 伊助 出願 寛延元年十一月 (高麗橋一丁目)	作者 大塚屋惣兵衛 板元 右 同人 出願 寛延元年九月 (安堂寺町五丁目)	作者 田中 由水子 板元 泉屋喜太郎 出願 寛延元年九月 (長洲十丁目) (南米屋町二丁目上半)	作者 元、李息齋 板元 菊屋 惣兵衛 板元 本屋 伊助 出願 寛延元年九月 (南新川一丁目)
---	--	--	---	---	---	--	---	---	--	--	---	---	--	--	--

<p>斧斤集 一冊 作者 吉田 登 板元 本屋伊兵衛 (油 町) 出願 寛延三年正月 (安堂寺町五丁目)</p> <p>聞微算法 一冊 作者 武田 愷四郎 (長崎西邊町) 板元 河内屋喜兵衛 (鹽町四丁目) 出願 寛延三年二月</p> <p>論語筆解 一冊 作者 唐、韓退之 板元 河内屋喜兵衛 (鹽町四丁目) 出願 寛延三年二月</p> <p>韓客治驗 一冊 作者 樋口 道與 (天満橋之上丁) 板元 芳野屋重郎兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛延三年二月</p> <p>教行信證字義辨疑誤 一冊 作者 釋 月 峯 (須磨定事坊)</p>	<p>板元 鹽屋利助 (通書町) 出願 寛延三年二月</p> <p>難經鐵鑑 八冊 作者 廣岡 秀富 (折屋町) 板元 廣岡久次郎 (折屋町) 出願 寛延三年三月</p> <p>廿四輩廻詣圖 折本一冊 作者 赤尾 郡守 (嶺中不動町) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目) 出願</p> <p>迎接紀文針芥抄 七冊 作者 西 念 寺 (河内古市村) 板元 本屋加兵衛 (淡路町切丁) 出願 寛延三年四月十三日</p> <p>廿四輩舊跡圖彙 一冊 作者 山田 季朴 (攝州三田) 板元 本屋彌兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛延三年四月十四日</p>	<p>繪本九千車 二冊 作者 繪師 長谷川光信 (久左衛門町) 板元 絲屋市兵衛 (伏見兩替町四丁目) 出願 寛延三年四月</p> <p>披雲錄 一冊 作者 風 洲 (越前平野庄) 板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目) 出願 寛延三年五月</p> <p>迎接紀文針芥抄 一冊 以前の「迎接紀文針芥抄」に新に一冊添加の旨願出 作者 西 念 寺 (河内古市村) 板元 本屋加兵衛 (淡路町切丁) 出願 寛延三年五月</p> <p>誹諧七車 四冊 作者 鬼 貫 板元 菊屋惣兵衛 (南新町一丁目) 出願 寛延三年五月</p> <p>拿扇尺牘解 一冊 作者 河村 才藏 (阿 渡)</p>	<p>板元 和泉屋字兵衛 (松原町) 出願 寛延三年八月</p> <p>繪本穴織 二冊 作者 大塚屋惣兵衛 (安堂寺町五丁目) 板元 右同人 出願 寛延三年八月</p> <p>潛夫論 二冊 板元 千種屋新右衛門 (舟 町) 出願 寛延三年八月</p> <p>明人考訂帝都圖 一枚 作者 菅 榮 子 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中ノ丁) 出願 寛延三年八月</p> <p>秋風帖 一冊 筆者 菅生 周次 (南久太郎町六丁目) 板元 本屋清右衛門 (廣物町四丁目) 出願 寛延三年七月</p> <p>前後赤壁賦 一冊 筆者 菅生 周次 (南久太郎町六丁目)</p>
--	---	--	--

<p>板元 伊丹屋茂兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛延三年七月</p> <p>竹樓帖 一冊 筆者 菅生 周次 (南久太郎町六丁目) 板元 伊丹屋茂兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛延三年七月</p> <p>辨中邊論述記 四冊 板元 丹波屋理兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛延三年七月</p> <p>女諸禮集大全 六冊 作者 北尾 辰宜 板元 田原屋平兵衛 (願慶町二丁目) 出願 寛延三年七月</p> <p>後撰夷曲集拔書 一冊 作者 塘 潘 山 板元 田原屋平兵衛 (願慶町二丁目) 出願 寛延三年七月</p> <p>狂歌手なれのかゞみ 一冊 作者 栗村 亭木端</p>	<p>板元 本屋嘉兵衛 (尾崎町) 出願 寛延三年七月 (淡路町切丁)</p> <p>繪本源氏物語 三冊 井 袖裏 一枚 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁) 出願 寛延三年八月</p> <p>繪本武者兜 三冊 繪師 長谷川 光信 板元 正本屋仁兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛延三年八月</p> <p>眞宗關節 一冊 作者 月 峯 (天満定事坊) 板元 池田屋三郎右衛門 出願 寛延三年八月</p> <p>皇甫君碑銘 一冊 筆者 歐 陽 詢 板元 本屋伊助 出願 寛延三年十月</p> <p>茶道和歌百首 一冊 作者 千 利 休</p>	<p>板元 本屋又兵衛 出願 寛延三年十月</p> <p>算法初心師大成 一冊 作者 田中 友水子 板元 千種屋新右衛門 出願 寛延三年十月</p> <p>墨算合儀的 一冊 作者 千種屋新右衛門 板元 右同人 出願 寛延三年十月</p> <p>梅道人墨竹譜 一冊 作者 中山 清三 (土佐高知) 板元 河内屋喜兵衛 出願 寛延三年十一月</p> <p>古今百物語 五冊 彰替願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延三年十一月</p> <p>字典節用集 一冊 作者 市田 加七 (江戸堀三丁目) 板元 堺屋清兵衛 出願 寛延三年十一月</p>	<p>輕口浮瓢箆 五冊 作者 田中 羅山 (筋屋町) 板元 近江屋半二郎 出願 寛延三年十二月</p> <p>繪本勇名草 三冊 筆者 寺 井 重 房 板元 池田屋三郎右衛門 (安堂寺町五丁目) 出願 寛延四年正月</p> <p>伊勢道中行程記 一冊 作者 鳥 飼 醉 雅 (木挽中ノ丁) 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年正月</p> <p>增補海陸行程細見記 一冊 作者 鳥 飼 醉 雅 (木挽中ノ丁) 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年正月</p> <p>百科名數集記 三冊 作者 松本 寺一 刀 (和州丹後庄村) 板元 丹波屋牛兵衛 出願 寛延四年正月</p>
--	---	--	--

<p>東明帖 筆者 張旭 板元 丹波屋半兵衛 出願 寛延四年二月 (心齋町)</p>	<p>東郭文集 作者 菅沼文菴 板元 丹波屋半兵衛 出願 寛延四年二月 (心齋町)</p>	<p>大學 作者 菅沼文菴 板元 丹波屋半兵衛 出願 寛延四年二月 (心齋町)</p>	<p>飲食箴 筆者 岳洲 板元 大塚屋惣兵衛 出願 寛延四年五月</p>	<p>蓮語自面放癩笑 作者 玄翁 板元 大塚屋惣兵衛 出願 寛延四年三月</p>	<p>古詩礎 作者 滄洲 出願 寛延四年五月</p>
<p>板元 藤屋彌兵衛 出願 寛延四年五月 (高麗橋二丁目)</p>	<p>古事談 以前「御座頭」と題せし十二冊物の一部分を改題願出 板元 田原屋平兵衛 出願 寛延四年五月 (願慶町二丁目)</p>	<p>續古事談 以前「御座頭」と題せし十二冊物の一部分を改題願出 板元 田原屋平兵衛 出願 寛延四年五月 (願慶町二丁目)</p>	<p>開卷一笑 正續十四冊 合本六冊 作者 明、李卓吾 板元 柏原屋清右衛門 板元 菊屋惣兵衛 出願 寛延四年五月</p>	<p>阿彌陀秘訣 作者 龍泉寺惠林 板元 本屋庄太郎 出願 寛延四年五月 (播州赤穂)</p>	<p>書要文鑑 一冊 筆者 長武左衛門 出願 寛延四年五月 (農人橋二丁目)</p>
<p>繪本拾葉 三冊 作者 繪師 寺井重房 板元 柏原屋清右衛門 出願 寛延四年五月</p>	<p>繪本賀御伽 三冊 繪師 長谷川光信 狂歌 栗柯亭木端 板元 千草屋新右衛門 出願 寛延四年五月 (舟町)</p>	<p>女徳百人一首ます鑑 一冊 影願出 作者 杜楓 出願 寛延四年八月 (櫻坂之町)</p>	<p>真宗關節 初篇上中下 三冊 作者 釋月筌 板元 池田屋三郎右衛門 出願 寛延四年八月 (天満定事坊)</p>	<p>千字文 一冊 筆者 子昂 板元 柏原屋與市 出願 寛延四年八月 (願慶町五丁目)</p>	<p>狂歌猫筑波 一冊 出願 寛延四年八月 (吳屋町)</p>
<p>玄泉堂消息 一冊 筆者 戸田儀左衛門 板元 堺屋清兵衛 出願 寛延四年六月 (江戸橋三丁目)</p>	<p>繪本今様秘事 二冊 作者 杜楓 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寛延四年七月 (伏見兩替町四丁目)</p>	<p>天冠山詩 一冊 筆者 元、趙郎子 板元 菊屋惣兵衛 出願 寛延四年十月十六日</p>	<p>說法百花園 五冊 作者 智洞 板元 柏原屋與市 出願 寶曆元年十一月八日</p>	<p>卜翁新畫 五冊 作者 繪師 大岡春卜 板元 敦賀屋九兵衛 板元 和泉屋喜太郎 出願 寶曆元年十一月八日</p>	<p>古今寶物語 四冊 作者 北瑞 板元 泉屋喜太郎 出願 寶曆元年十一月八日 (前本町一丁目上)</p>
<p>山海名物圖繪 五冊 作者 千種屋新右衛門 繪師 長谷川光信 板元 千種屋新右衛門 出願 寛延四年八月 (久左衛門町)</p>	<p>世語遺篇 三冊 以前「塵塚物語」と題せし六冊物の一部分を影直し改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年十月 (本橋中ノ町)</p>	<p>故實世語 三冊 以前「塵塚物語」と題せし六冊物の一部分を影直し改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年十月 (本橋中ノ町)</p>	<p>輕口腹太鼓 五冊 作者 南來 板元 河内屋茂兵衛 出願 寛延四年十月 (願慶町五丁目)</p>	<p>方服圖儀 二冊 作者 飲光 板元 柏原屋與市 出願 寛延四年九月 (願慶町五丁目)</p>	<p>大和名所獨旅 一冊 作者 圓性萬里 板元 絲屋市兵衛 出願 寛延四年九月 (伏見兩替町四丁目)</p>
<p>增補大和言葉 一冊 作者 守山佐中 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年九月 (北筋四郎町)</p>	<p>六種念佛顯隱抄 一冊 作者 保瑞 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年九月 (河内)</p>	<p>長曆便覽 一冊 以前「長曆珍寶」と題せしを改題願出 板元 絲屋市兵衛 出願 寛延四年十月十六日</p>	<p>玉屑操 五冊 以前「大道調」と題せしを影替書添(改題願出) 板元 絲屋市兵衛 出願 寛延四年十月</p>	<p>著聞雅々集 五冊 作者 醉雅子 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年八月 (心齋橋)</p>	<p>本朝畫林 三冊 作者 繪師 高木幸助 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年八月 (本橋中ノ町)</p>
<p>繪本名木難波津 二冊 繪師 長谷川光信 板元 正本屋仁兵衛 出願 寛延四年八月 (前久寶寺町五丁目)</p>	<p>繪本一生安堵艸 三冊 繪師 長谷川光信 板元 正本屋仁兵衛 出願 寛延四年八月 (前久寶寺町五丁目)</p>	<p>撰者 塘瀟山 板元 田原屋平兵衛 出願 寛延四年八月 (願慶町二丁目)</p>	<p>天冠山詩 一冊 筆者 元、趙郎子 板元 菊屋惣兵衛 出願 寛延四年十月十六日</p>	<p>著聞雅々集 五冊 作者 醉雅子 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年八月 (心齋橋)</p>	<p>本朝畫林 三冊 作者 繪師 高木幸助 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛延四年八月 (本橋中ノ町)</p>

出願 寶曆元年十一月 繪本國見山 三冊 作者繪師 寺井尙選 板元 千種屋新右衛門 出願 寶曆元年十一月八日 畫史會要 六冊 作者繪師 大同春卜 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆元年十二月 傷寒百問 二冊 作者 宋、朱 肱 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆元年十二月 徂徠學則辨 一冊 作者 上月 專 卷 板元 本屋嘉兵衛 出願 寶曆元年十二月 聖教目錄 一冊 作者 安 福 寺	出願 寶曆二年正月 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆二年正月 大成小話 一冊 作者 增田 一字 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆二年正月 徐天目文集 一冊 作者 明、徐中行 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆二年正月 女用操文庫 一冊 作者 花月堂 敬夕 板元 藤屋市兵衛 出願 寶曆二年二月 長谷川筆の錦 一冊 筆者 長谷川妙貞 板元 本屋伊兵衛 出願 寶曆二年三月 女文要袖硯 一冊 作者 雪 坑 齋	出願 寶曆二年三月 板元 泉屋喜太郎 出願 寶曆二年三月 靈山奇賞 一冊 作者 知 足 板元 大塚屋惣兵衛 出願 寶曆二年三月 繪本大江岸 二冊 作者 畫工 北尾辰宜 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆二年四月 女筆小倉手本 一冊 筆者 高木佐世女 板元 河内屋茂兵衛 出願 寶曆二年四月 太平節用福壽往來 一冊 作者 田中女水子 板元 泉屋喜太郎 出願 寶曆二年四月 琴歌集 一冊 選者 其 梁	出願 寶曆二年四月 板元 本屋傳兵衛 出願 寶曆二年四月 人相水鏡集 四冊 作者 有 道人 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寶曆二年六月 醫家名數 四冊 作者 草野益翁 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆二年六月 兵家古戰傳 五冊 作者 岡崎主稅 板元 本屋伊兵衛 出願 寶曆二年六月 早引節用集 一冊 作者 山下 重政 板元 柏原屋與市 出願 寶曆二年八月 板元 本屋伊兵衛
--	---	---	--



出願 寶曆二年八月 板元 本屋彌兵衛 出願 寶曆二年七月 小兒五疳秘囊 一冊 作者 本田彌左衛門 板元 本屋彌兵衛 出願 寶曆二年七月 和漢丹青錦囊 六冊 畫者 大同 春 朴 板元 伊丹屋茂兵衛 出願 寶曆二年七月 繪本あくぼの塵 三冊 畫工 長谷川 光信 板元 藤屋市兵衛 出願 寶曆二年八月 畫圖伊勢物語 一冊 畫工 寺井 重房 板元 藤屋市兵衛 出願 寶曆二年八月 勸化委況鈔 五冊 作者 西 念 寺 板元 本屋嘉兵衛	出願 寶曆二年八月 板元 泉屋喜太郎 出願 寶曆二年八月 遊女五十人一首 一冊 作者 蛙 文 板元 藤波屋忠五郎 出願 寶曆二年八月 算法演行拾遺 一冊 作者 奥村 三介 板元 本屋伊兵衛 出願 寶曆二年九月 雞窓解願 一冊 作者 杉 忠 敦 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆二年九月 鼎足論 三冊 作者 正法寺大我 板元 大塚屋惣兵衛 出願 寶曆二年九月 女教補談袋 一冊 作者 雪 坑 齋 板元 泉屋喜太郎 出願 寶曆二年十月 逸畫史 二冊 作者 占 島 白 雲	出願 寶曆二年十月 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆二年十月 袖五年代記 一冊 增補 改板願出 作者 南 來 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆二年十月 豆藏繪本一粒萬倍 三冊 作者 筆者 中澤伊右衛門 板元 藤屋市兵衛 出願 寶曆二年十月 世說雜話 四冊 以前「聖壽百物語」と題せしを 改題願出 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆二年十一月 狂哥猿筑波 一冊 作者 塘 潘 山 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆二年十二月 眞宗關節 前篇第四 四冊 前篇第五 三冊 作者 定專坊月峯 板元 池田屋三郎右衛門 出願 寶曆二年十二月 折句式大成 一冊 作者 豊 根 九 花 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆三年二月 圓光大師法語 一冊 再板願出 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆三年二月 雛形千代の秋 三冊 以前「雛形萩の野」と題せしを 改題願出 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆三年二月 俳諧印式 二冊
--	---	---

作者 居 鳴 館 板元 播磨屋佐兵衛 出願 寶曆三年二月 (總 領 町)	作者 田 中 常 澤 板元 芳野屋重郎兵衛 出願 寶曆三年三月 (平野町 播磨商人)	作者 董 其 昌 板元 本屋又兵衛 出願 寶曆三年三月 (編 領 町)	作者 月 岡 丹 下 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆三年六月 (磐石新門町)	作者 桑 原 爲 隆 板元 本屋彌兵衛 出願 寶曆三年八月 (南久太郎町六丁目)	板元 吹田屋多四郎 出願 寶曆三年十一月 (高野橋一丁目)
續種論 十冊	老子形氣 五冊	繪本言葉花 三冊	繪本武者海 三冊	空洞筆法要言 一冊	和玉正字考 一冊
作者 新 井 祐 登 板元 本屋嘉兵衛 出願 寶曆三年五月	作者 月 岡 丹 下 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆三年六月 (木挽町中ノ町)	作者 雪 坑 齋 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆三年六月 (安堂寺町五丁目)	作者 宮 崎 氏 板元 和泉屋文助 出願 寶曆三年六月 (御池通六丁目)	作者 桂 左衛門 板元 河内屋喜兵衛 出願 寶曆三年八月 (京 都)	作者 爲 永 千 蝶 板元 吹田屋多四郎 出願 寶曆三年十一月
作者 林 謙 齋 板元 河内屋茂兵衛 出願 寶曆四年二月 (天王寺村)	作者 藤 屋 彌 兵 衛 板元 吹田屋多四郎 出願 寶曆四年二月 (京)	作者 新 井 白 蟻 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年三月 (京)	作者 加 藤 見 益 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年三月 (福後三編路出願)	作者 沙 門 秀 岳 板元 灘屋庄兵衛 出願 寶曆三年十一月 (編 領 町)	作者 馬 淵 丹 下 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆三年十一月 (磐石新門町)
三劫統要論 一冊	養 要 論 三冊	女諸禮綾錦 一冊	兒女百人一首艶鏡 一冊	繪本倭論語 三冊	源平曠軍記 五冊
作者 覺 念 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年三月 (播 州)	作者 加 藤 見 益 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年三月 (福後三編路出願)	作者 北 尾 辰 宣 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年三月 (周 防 町)	作者 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 富 士 板元 吹田屋吉四郎 出願 寶曆四年七月 (京 都)
作者 藤 屋 彌 兵 衛 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 富 士 板元 吹田屋吉四郎 出願 寶曆四年七月 (京 都)
繪本小笠指南 一冊	繪本倭論語 三冊	源平曠軍記 五冊	晉羊欣千字文 二冊	本艸正統景譜 一枚	傍詠本願和讀 一冊
作者 藤 屋 彌 兵 衛 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 富 士 板元 吹田屋吉四郎 出願 寶曆四年七月 (京 都)	作者 晉 羊 欣 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月 (周 防 町)	作者 後 藤 昌 隆 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月	作者 法 忍 板元 寶曆四年七月 (五 戶)

作者 清、王 晉 三 板元 支配人 河内屋茂兵衛 出願 寶曆四年正月 (福後町五丁目)	作者 春 名 忠 成 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆四年二月 (播 州 依 用)	作者 高 木 幸 助 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆四年二月	作者 賀 來 元 龍 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年二月 (豊前中津)	作者 岡 嶋 文 治 板元 池田屋三郎右衛門 出願 寶曆四年二月 (攝津 瑞 橋 河 原)	弘法大師廻拜記 一冊
十三科選注 八冊	西播怪談實記 四冊	神武百將傳 三冊	采 葯 錄 一冊	指 日 三冊	弘法大師廻拜記 一冊
作者 林 謙 齋 板元 河内屋茂兵衛 出願 寶曆四年二月 (天王寺村)	作者 新 井 白 蟻 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年三月 (京)	作者 岡 嶋 子 蘭 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年三月	弘法大師御法海 一冊	鬼貫發句集 二冊	明詩理評 一冊
作者 藤 屋 彌 兵 衛 板元 吹田屋多四郎 出願 寶曆四年三月 (京)	作者 新 井 白 蟻 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年三月 (京)	作者 岡 嶋 子 蘭 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年三月	弘法大師御法海 一冊	鬼貫發句集 二冊	明詩理評 一冊
作者 藤 屋 彌 兵 衛 板元 吹田屋多四郎 出願 寶曆四年三月 (京)	作者 加 藤 見 益 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年三月 (福後三編路出願)	作者 北 尾 辰 宣 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年三月 (周 防 町)	兒女百人一首艶鏡 一冊	繪本浦千鳥 二冊	易學小笠指南 一冊
作者 藤 屋 彌 兵 衛 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寶曆四年五月	兒女百人一首艶鏡 一冊	繪本浦千鳥 二冊	易學小笠指南 一冊
作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 長谷川光信 板元 絲屋市兵衛 出願 寶曆四年五月	兒女百人一首艶鏡 一冊	繪本浦千鳥 二冊	易學小笠指南 一冊
繪本倭論語 三冊	源平曠軍記 五冊	晉羊欣千字文 二冊	本艸正統景譜 一枚	傍詠本願和讀 一冊	易學小笠指南 一冊
作者 繪師 北尾辰宣 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年五月 (周 防 町)	作者 富 士 板元 吹田屋吉四郎 出願 寶曆四年七月 (京 都)	作者 晉 羊 欣 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月 (周 防 町)	作者 後 藤 昌 隆 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月
作者 繪師 北尾辰宣 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年五月 (周 防 町)	作者 富 士 板元 吹田屋吉四郎 出願 寶曆四年七月 (京 都)	作者 晉 羊 欣 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月 (周 防 町)	作者 後 藤 昌 隆 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月
繪本倭論語 三冊	源平曠軍記 五冊	晉羊欣千字文 二冊	本艸正統景譜 一枚	傍詠本願和讀 一冊	易學小笠指南 一冊
作者 繪師 北尾辰宣 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年五月 (周 防 町)	作者 富 士 板元 吹田屋吉四郎 出願 寶曆四年七月 (京 都)	作者 晉 羊 欣 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月 (周 防 町)	作者 後 藤 昌 隆 板元 丹波屋東助 出願 寶曆四年七月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月	作者 繪師 北尾雪坑齋 板元 絲屋源助 出願 寶曆四年五月

<p>寶曆節用通寶藏 一冊 作者 仙 亭 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆四年六月</p> <p>清詩選 四冊 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寶曆四年六月</p> <p>繪本武者取川 三冊 作者繪師 月岡丹下 板元 柏木屋與市 出願 寶曆四年七月</p> <p>繪本武者兵林 三冊 畫工 北尾雪坑齋 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寶曆四年八月</p> <p>河内國細見圖 折本一冊 圖者 鳴尾兵右衛門 板元 伊丹屋新七 板元 譽田屋伊右衛門 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆四年九月</p> <p>木曾道中勝景行程記 折本一冊</p>	<p>作者繪師 若狭屋三右衛門 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆四年九月</p> <p>眼科龍木論 二冊 校正者 名和東 變 板元 柏原屋與市 出願 寶曆四年九月</p> <p>古狀揃 一冊 筆者 長武左衛門 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年九月</p> <p>繪本野山草 五冊 作者繪師 橋 保國 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年九月</p> <p>狂哥水の鏡 一冊 作者 紫 笛 板元 本屋加兵衛 出願 寶曆四年九月</p> <p>年中行事綱目 一冊 作者 高萩安兵衛 板元 龜屋安兵衛 出願 寶曆四年九月</p>	<p>繪本御伽百哥友 三冊 作者繪師 長谷川光信 板元 天満屋源治郎 出願 寶曆四年十月</p> <p>英一蝶流柱懸繪本九十九年 一冊 作者繪師 長谷川光信 板元 千草屋新右衛門 出願 寶曆四年十月</p> <p>藥品辨惑 二冊 作者 大口 恕 菴 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆四年十一月</p> <p>下懸り小話 一冊 作者 づるがや九兵衛 板元 北村屋卯之介 出願 寶曆四年十一月</p> <p>君子行 一卷 筆者 石川 東 輔 板元 本屋庄太郎 出願 寶曆四年十一月</p>	<p>飲中八仙歌 一卷 筆者 石川 東 輔 板元 本屋庄太郎 出願 寶曆四年十一月</p> <p>繪本諸禮鑑 三冊 作者繪師 馬淵丹下 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆四年十二月</p> <p>說法微塵草 五冊 作者 智 洞 板元 河内屋茂兵衛 出願 寶曆四年十二月</p> <p>式文淘汰抄 五冊 作者 掌 持 堂 板元 柏原屋與市 出願 寶曆四年十二月</p> <p>曆法捷覽圖 一卷 作者 藤野 數 馬 板元 吹田屋多四郎 出願 寶曆四年十二月</p> <p>歷史帝王系統圖 掛物</p>
--	--	---	---

<p>作者 沼 文 進 板元 堺屋利兵衛 出願 寶曆四年十二月</p> <p>百人一首女訓書 一冊 作者 北尾仁右衛門 板元 泉屋喜太郎代判 出願 寶曆五年正月</p> <p>連歌四季詞用集 一冊 作者 山 田 新 六 板元 伊丹屋仁兵衛 出願 寶曆五年正月</p> <p>琴曲絲のしほり 一冊 撰者 増 田 一 字 板元 柏原屋與市 出願 寶曆五年正月</p> <p>女教倭文庫 一冊 作者繪師 北尾雪坑齋 板元 絲 屋 源 助 出願 寶曆五年三月</p>	<p>傷寒溯源集 十二冊 作者 漢、錢 漢 調點者 中村半三郎 板元 菊屋惣兵衛 出願 寶曆五年三月</p> <p>貴貞志 一冊 作者 龍 衛 門 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆五年三月</p> <p>二十四輩道中記 一冊 作者 安 福 寺 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆五年四月</p> <p>算用手引草 一冊 作者 内 田 源 兵 衛 板元 龜屋安兵衛 出願 寶曆五年四月</p> <p>西國順禮詠歌奧義抄 三冊</p>	<p>作者 悠 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆五年四月</p> <p>三絃瀧の絲 一冊 撰者 三 東 板元 柏原屋與市 板元 播磨屋佐兵衛 出願 寶曆五年四月</p> <p>繪本玉之池 三冊 作者繪師 北尾雪坑齋 板元 絲 屋 市 兵 衛 出願 寶曆五年五月</p> <p>繪本鑑哥仙 六冊 作者繪師 長谷川光信 板元 絲 屋 市 兵 衛 出願 寶曆五年五月</p> <p>大坂町鑑 一冊</p>	<p>作者 小川市兵衛 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆五年五月</p> <p>文會節用集大成 一冊 作者 高田清兵衛 板元 吉文字屋源十郎 板元 堺屋清兵衛 出願 寶曆五年七月</p> <p>董其昌畫錦堂記 一冊 筆者 董 其 昌 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆五年七月</p> <p>繪本緞摺草 二冊 作者 北尾仁右衛門 板元 泉屋喜太郎代判 出願 寶曆五年七月</p> <p>勸化願主正儀編 五冊 作者 明圓寺凌雪 板元 澤屋庄兵衛</p>
---	--	---	--

出願 寶曆六年十月 四聲占考 一冊 作者 志津大治郎 (かいは町) 板元 本屋又兵衛 (龜袋町) 出願 寶曆六月十月	出願 寶曆六年十一月 刪補萬曆兩面箋 一枚 増補再板願出 作者 方 (高麗橋二丁目) 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 南紀土産桃明り 一冊 作者 長 莎 館 (四軒町) 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 誹諧袖の下 一冊 作者 李 董 榮 (勢州) 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 東海長歌 一冊 作者 廣 澤 知 慎 (江戸) 板元 大塚屋惣兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 五車拔錦 兩面一枚摺 作者 高田清兵衛 (奈良屋町) 板元 吉文字屋市兵衛	出願 寶曆六年十一月 實盡惠方占 一冊 作者 安田 鮭 文 板元 浪花屋忠五郎 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 寶買出世車圖式 一冊 以前二冊ものなりしを此度増補して一冊に改板願出 作者 千神屋新右衛門 板元 右 同人	出願 寶曆六年十一月 繪本實語教 以前「繪本教訓草」と題せしを改題板行 右板元田原屋平兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月
出願 寶曆六年十月 忠義水滸傳解 一冊 作者 陶 山 尚 善 板元 柏原屋與市 (順慶町五丁目) 出願 寶曆六年十月	出願 寶曆六年十一月 俳諧田加李笠 一冊 いろは部分 笠付 板元 本屋新右衛門 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 折塵劫記早割箋 一冊 作者 山添忠兵衛 (前笠屋町) 板元 河内屋喜兵衛	出願 寶曆六年十一月 淨瑠璃外題年鑑 一冊 作者 一 (布袋町) 板元 増田屋源兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 廣澤先生墨妙 一冊 筆者 廣 澤 知 慎 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 繪本教訓百人一首 以前「繪本小倉庵」と題せしを改題板行 右板元田原屋平兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月	出願 寶曆六年十一月 古今武士形氣 五冊 以前「男色大鑑」と題せしを改題板行 右板元吉文字屋市兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月	出願 寶曆六年十一月 續可笑記 五冊 以前「浮世物語」と題せしを改題板行 右板元吉文字屋市兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月	出願 寶曆六年十一月 武人訓 五冊 以前「武家拾要」と題せしを改題板行 右板元吉文字屋市兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月

申出年月 理 諺 抄 六冊 以前「實錄抄」と題せしを改題板行 右板元吉文字屋市兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月	申出年月 藝評改裝美辯名話 以前「子供藝評布袋」と題せしを改題板行 右板元大和屋利兵衛より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月 寶曆六年十一月	申出年月 おどけかるた 百枚 添物一冊板行 右板元浪花屋忠五郎より申出 あり本屋行司にて閉届く 申出年月	申出年月 教訓惠の海 二冊 作者 繪師 北尾雪坑齋 (周防町) 板元 絲 屋 源 介 (龜袋町) 出願 寶曆六年十一月	申出年月 竹馬文庫 作者 長 武左衛門	出願 寶曆六年十一月 尾野子路魂 二冊 作者 矢 木 原 志 (探少林寺中遷) 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 百萬節用寶來藏 一冊 作者 秋 丸 忠 治 郎 (京都醍醐井通松原上ル丁) 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 折句小箋 折本一冊 作者 九 花 軒 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 三十六人哥仙雙六 右津國屋吉兵衛堺屋利兵衛兩家對談の上にて板行の申出あり本屋行司にて閉届く 申出年月 寶曆六年十一月	出願 寶曆六年十一月 定家卿五行哥かるた 五十枚 右堺屋利兵衛より板行の申出	出願 寶曆七年二月 但州湯嶋道中獨案内 一冊 作者 板屋清右衛門 (但馬國湯嶋) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 寶曆七年二月	出願 寶曆七年二月 淨瑠璃三味線獨稽古 一冊 作者 梅 笑 (高麗橋二丁目) 板元 大和屋利兵衛 (前久太郎町三丁目) 出願 寶曆七年二月	出願 寶曆七年二月 隨 類 得 一冊 作者 守 詰 (京都) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 寶曆七年二月	出願 寶曆七年三月 古易精義 一冊 作者 新 井 白 蛾 (京都馬場丸太町上ル丁) 板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆七年三月	出願 寶曆七年三月 内助淵物語 五冊 板元 吹田屋多四郎 (高麗橋二丁目) 出願 寶曆七年三月	出願 寶曆七年三月 立繪百人一首寶海 一冊 作者 畫師 北尾雪坑齋 (周防町) 板元 絲 屋 源 介 (龜袋町) 出願 寶曆七年三月	出願 寶曆七年三月 麗 句 集 十二冊 調點者 金屋七郎右衛門 板元 柏原屋清右衛門
--	--	--	--	----------------------------------	---	--	---	---	---	---	--	---	---	---	---	--

<p>選者 栗里(改名芙蓉) (通書町)</p> <p>板元 柏原屋佐兵衛 (傳馬町)</p> <p>出願 寶曆八年七月</p> <p>寶鑑貽照 一冊</p> <p>作者 白隱和尚 (驛河松蔭寺)</p> <p>板元 本屋新右衛門</p> <p>出願 寶曆八年九月</p> <p>歌鏡序列 一冊</p> <p>作者 義宣 (天福寺町)</p> <p>板元 和泉屋喜太郎 (前本町)</p> <p>出願 寶曆八年九月</p> <p>尊圓親王御眞翰法帖 一冊</p> <p>作者 長武左衛門 (農人橋二丁目)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (木挽中ノ町)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>梵網經開題鈔 三冊</p> <p>作者 宥快 (高野山)</p> <p>板元支配人 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)</p>	<p>出願 寶曆八年十月</p> <p>撰花雜錄附錄 一冊</p> <p>作者 岡了 (高津)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>書學大概 一冊</p> <p>筆者 谷昌 (泉州堺)</p> <p>板元 柏原屋佐兵衛 (傳馬町)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>女千載和訓文 一冊</p> <p>作者 紅屋長右衛門 (木挽中ノ町)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>大藏詰訓 一冊</p> <p>作者 森脇軍藏 (防州岩國)</p> <p>板元 神崎屋清兵衛 (天福九丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>神國立教論 一冊</p> <p>作者 森脇軍藏 (防州岩國)</p>	<p>板元 神崎屋清兵衛 (天福九丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>史書發起考 一冊</p> <p>作者 森脇軍藏 (防州岩國)</p> <p>板元 神崎屋清兵衛 (天福九丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>勢語要語抄 一冊</p> <p>作者 森脇軍藏 (防州岩國)</p> <p>板元 神崎屋清兵衛 (天福九丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>歲時文集 一冊</p> <p>筆者 長武左衛門 (農人橋二丁目)</p> <p>板元 正本屋九左衛門 (木挽中ノ町)</p> <p>板元 本屋新右衛門 (傳馬町)</p> <p>出願 寶曆八年十月</p> <p>女今川 一冊</p> <p>再板願出 萬屋善兵衛 (願慶町一丁目)</p>	<p>出願 寶曆八年十二月</p> <p>謠府錄 折本一冊</p> <p>作者 野村方郷 (高麗橋二丁目)</p> <p>板元 富士屋長兵衛</p> <p>出願 寶曆八年十二月</p> <p>和學大意 一冊</p> <p>作者 妻木彦介 (浪路須木)</p> <p>板元 本屋庄太郎 (木町五丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十二月</p> <p>續記、變記 二冊</p> <p>調點者 源良泰 (廣州丸龜)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目)</p> <p>出願 寶曆八年十二月</p> <p>誹諧三部書 (誹諧之秘記袖珍抄木式井古式) 三冊</p> <p>作者 芭蕉</p> <p>板元 本屋庄太郎 (木町五丁目)</p> <p>板元 西田屋利兵衛 (傳馬町)</p> <p>出願 寶曆八年十二月</p>
---	---	--	--

雜用冥論

<p>作者 長江益久 (阿州)</p> <p>板元 丹波屋傳兵衛</p> <p>出願 寶曆八年十二月</p> <p>八木寶之市 一冊</p> <p>以前「米穀賣買出世車」と題せし三冊もの、中一冊を改題申出</p> <p>板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行京都江戸には添状を遣はさず候事</p> <p>申出年月 寶曆九年正月</p> <p>繪本人物誌 一冊</p> <p>以前「繪本福壽海」と題せしを改題申出</p> <p>板元 清水屋仁右衛門</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寶曆九年正月</p> <p>狂哥千代の梯 一冊</p> <p>作者 芥河屋久五兵衛 (廣島)</p> <p>板元 伊丹屋佐助</p> <p>出願 寶曆九年二月</p> <p>韓詩外傳 二冊</p>	<p>作者 漢燕人、韓嬰</p> <p>板元 藤屋彌兵衛</p> <p>出願 寶曆九年二月</p> <p>月儀帖 一冊</p> <p>筆者 廣敷教寺</p> <p>板元 豊田屋伊右衛門</p> <p>出願 寶曆九年二月</p> <p>西宮帖 一冊</p> <p>筆者 廣敷教寺</p> <p>板元 豊田屋伊右衛門</p> <p>出願 寶曆九年二月</p> <p>相田消息 一冊</p> <p>筆者 相田嘉内 (天馬)</p> <p>板元 丹波屋半兵衛</p> <p>出願 寶曆九年二月</p> <p>庭訓往來 二冊</p> <p>筆者 戸田儀左衛門 (尾崎町二丁目)</p> <p>板元 堺屋清兵衛</p> <p>出願 寶曆九年二月</p> <p>尊朝六々哥仙 一冊</p> <p>板元 本屋久兵衛</p> <p>出願 寶曆九年二月</p>	<p>作者 豫章、左克明</p> <p>板元 柏原屋五兵衛</p> <p>出願 寶曆九年三月</p> <p>腫脹要決 一冊</p> <p>作者 明、張介賓</p> <p>板元 田原屋平兵衛</p> <p>出願 寶曆九年三月</p> <p>神佛辨從 一冊</p> <p>作者 立石彦次郎 (泉州井原庄岡木村)</p> <p>板元 本屋清左衛門</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>亂舞辨 三冊</p> <p>作者 溝口武兵衛 (天福橋上丁)</p> <p>板元 池田屋三郎右衛門</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>埤雅 十冊</p> <p>撰者 宋、陸佃</p> <p>板元 萬屋善兵衛</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>行書四箴 石摺一冊</p> <p>筆者 溝口武兵衛 (天福橋上丁)</p>	<p>板元 池田屋三郎右衛門</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寶曆九年三月</p> <p>八分字隸書法帖 石摺一冊</p> <p>筆者 溝口武兵衛 (天福橋上丁)</p> <p>板元 池田屋三郎右衛門</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 寶曆九年三月</p> <p>鎌倉軍記 三冊</p> <p>以前「將軍記」と題せし十七冊物のうち第一冊より第三冊に至る三冊分を此度改題申出</p> <p>板元 田原屋平兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月</p> <p>足利寶錄 四冊</p> <p>以前「將軍記」と題せし十七冊物のうち第四冊より第七冊に至る四冊分を此度改題申出</p> <p>板元 田原屋平兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p>
---	--	---	---

<p>申出年月</p> <p>信長實錄 三冊 以前「將軍記」と題せし十七冊物のうち第八冊より第十冊に至る三冊分を此度改題申出</p> <p>板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月</p> <p>太閤實錄 七冊 以前「將軍記」と題せし十七冊物のうち第十一冊より第十七冊に至る七冊分を此度改題申出</p> <p>板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月</p> <p>卜易通商考 一冊 作者 吉川彌八郎 (天満十丁目)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>唐詩兒訓 五七律四冊 作者 新井白蟻 (京)</p> <p>板元 吹田屋太四郎</p>	<p>出願 寶曆九年四月 (高麗橋二丁目)</p> <p>國事 三冊 作者 吳世熙 板元 吹田屋太四郎 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>妙法華御歌題目大成 一冊 作者 沙門眞妙 板元 本屋又兵衛 (鶴之内橋邊町)</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>袖中證哥集 一冊 校合者 野間宥節 (長堀橋本町)</p> <p>板元 泉屋喜太郎代判 (喜兵衛)</p> <p>出願 寶曆九年四月 (南本町二丁目上)</p> <p>三味線獨稽古 後編一冊 作者 梅笑 (淨福寺町)</p> <p>板元 大和屋利兵衛 (本町一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>良藥馬療辨解 一冊 作者 新井白蟻 (京)</p>	<p>此度平假名にしたき願出</p> <p>板元 本屋新右衛門 (博勢町)</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>假名付千字文 一冊 筆者 長友松 板元 山城屋忠次郎 (櫻町一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年四月</p> <p>諸家地紋式 二冊 作者 野村方卿 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆九年四月</p> <p>如月百人一首 一冊 作者 齋藤月岡丹下 (廣善町)</p> <p>板元 正本屋九左衛門 出願 寶曆九年五月</p> <p>古易斷 十冊 作者 新井白蟻 (京)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 出願 寶曆九年五月</p> <p>江戸道中勝景行程記 一冊 作者 齋藤月岡丹下 (廣善町)</p>	<p>作者 若狭屋三右衛門 (高麗橋五丁目)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆九年五月</p> <p>新增日本道中行程記大全 作者 吉文字屋市兵衛 (本橋中之町)</p> <p>板元 右同人 出願 寶曆九年五月</p> <p>蒔繪大全 五冊 作者 大岡春川 (博勢町)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 寶曆九年六月</p> <p>秋興八首 一冊 筆者 細井廣澤 板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 寶曆九年六月</p> <p>繪本任意艸 二冊 筆者 長谷川光信 (天満九丁目)</p> <p>板元 藤屋市兵衛 (伏見扇町四丁目)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p>
---	--	---	--

<p>新童子往來萬寶鑑 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (本橋中之丁)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (本橋中之丁)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p> <p>新童子往來萬世寶藏 假名付 作者 吉文字屋市兵衛 (本橋中之丁)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (本橋中之丁)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p> <p>稽古御和讀 片假名付 板元 本屋彌兵衛 (南久寶寺町五丁目)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p> <p>鮫皮精鑿錄 一冊 作者 淺尾遠視 (扇屋町)</p> <p>板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p>	<p>通俗金翹傳 五冊 作者 西田維則 (京)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p> <p>唐世說新語 二冊 作者 唐劉肅 板元 吹田屋多四郎 (高麗橋)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p> <p>入阿毗達磨論 一冊 調點者 大幻知暉 (播州)</p> <p>板元 丹波屋半兵衛 (心齋町)</p> <p>出願 寶曆九年七月</p> <p>東方帖 石刻一冊 筆者 董其昌 板元 森本屋武兵衛 (難波場町)</p> <p>出願 寶曆九年八月</p> <p>筆學要論 一冊 筆者 戶田儀左衛門 (尼崎町二丁目)</p> <p>板元 堺屋清兵衛 (奈良屋町)</p>	<p>出願 寶曆九年八月</p> <p>高野大師御詠哥集 一冊 作者 安田蛙文 (南堂師屋町)</p> <p>板元 浪花屋忠五郎 (南堂師屋町)</p> <p>出願 寶曆九年八月</p> <p>花重連理鵲 五冊 作者 甘笑 (京)</p> <p>板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 寶曆九年九月</p> <p>同文通考 十冊 作者 新井白蟻 (京)</p> <p>板元 吹田屋多四郎 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年九月</p> <p>俗三教課話 一冊 作者 溝口武兵衛 (天満橋之上町)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年九月</p> <p>結託錄 三冊</p>	<p>作者 松岡想菴 (京)</p> <p>板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)</p> <p>出願 寶曆九年九月</p> <p>龜藏遺稿 二冊 作者 明石龜藏 (播州)</p> <p>板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 寶曆九年九月</p> <p>増補絲のしらべ 一冊 板元 柏原屋與市代判 (庄兵衛)</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 寶曆九年九月</p> <p>商人萬年曆 一冊 作者 芝田保久 (京橋一丁目)</p> <p>板元 柏原屋左兵衛 (備馬町)</p> <p>出願 寶曆九年六月</p> <p>雜書大全以呂波引 一冊 再板彫足し願出 作者 林義内 (日向町)</p>
---	---	---	---

百人一首女要訓 一冊 秋香百人一首大成 一冊 萬海百人一首寶袋 一冊 女花鳥餘情 一冊 右板元吉文字屋市兵衛所持の「古今百人一首」に口繪を彫り、以上如く改題して六種とし板行願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆十一年十月 (木挽町中之町)	板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆十一年十月 (木挽町中之町)	老子經國字解 一冊 作者 金 蘭 齋 板元 敦賀屋九兵衛 出願 寶曆十一年十月 (鶴屋町)	女書札百花香 一冊 以前「女川文唐錦」と題せしものを改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆十一年十月 (木挽町中之町)	改正紋所帳 五冊 作者 紋屋 太助 (木挽北之町)	板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆十一年十月 (木挽町中之町)	通俗千金寶 五冊 以前「願體俚語抄」と題せしを改題願出 板元 柏原屋佐兵衛 出願 寶曆十一年十月 (備馬町)	醫門童兒教 一冊 作者 岡島 輕藏 板元 池田屋三郎右衛門 出願 寶曆十一年十一月 (泉原町)	書簡染鼎 一冊 筆者 楠 默齋 板元 本屋伊兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (安堂寺町五丁目)	望問則 一冊 作者 石原 玄徳 板元 田原屋平兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (龍慶町一丁目)	五事毘婆沙論 一冊 作者 大 幻 板元 丹波屋半兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (心齋町)	役者五志喜目鏡 三冊 作者 升屋 大藏 板元 北村屋喜八 出願 寶曆十一年十一月 (内木町上三丁目)	音曲ちから草 一冊 作者 佐 助 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (淨國寺町)	探字使用筆寶藏 一冊 作者 山本 序因 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (安堂寺町五丁目)	當世百物語 五冊 以前「當世兩面鏡」と題せしを改題願出 板元 柏原屋五兵衛	和漢故事談 五冊 以前「和語連珠集」と題せしを改題願出 板元 本屋久兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (安堂寺町五丁目)	古三錦字引 一冊 以前三冊物なりしを一冊とし改題願出 板元 伊丹屋庄次郎 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十一年十一月	文寶節用集 一冊 作者 鳥飼市兵衛 板元 堺屋清兵衛 出願 寶曆十一年十一月 (奈良屋町)	難經知新論 一冊 作者 青木 善菴 板元 和泉屋文助 出願 寶曆十一年十二月 (御池通六丁目)
--	--------------------------------------	---	---	---------------------------------	--------------------------------------	--	---	--	--	--	--	---	---	---	--	--	---	---

輕口桃の流 五冊

以前「輕口初寶買」と題せしを改題願出 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆十一年十二月 (高麗橋一丁目)	光文百人一首明錦 一冊 花例百人一首玉締 一冊 倭玉百人一首信鏡 一冊 大冠百人一首都卷 一冊 金峯百人一首要箱 一冊 五正百人一首寶臺 一冊 聖德百人一首綾袋 一冊 以上の七種は天満屋源次郎所持の「題林百人一首」と題せしものに口繪を彫り足しそれら改題願出 板元 天満屋源次郎 出願 寶曆十一年十二月 (舟 町)	衆疾食例 折本一冊 作者 奈良屋善助 出願 寶曆十二年正月 (阿波野町)	長者教 一冊 作者 惜々子 板元 柏原屋佐兵衛 出願 寶曆十二年二月 (備馬町)	琴曲絲かなめ 一冊 右改題申出 板元 天満屋源次郎 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十二年二月	角力双六 一枚摺 作者 山河 念夢 板元 富士屋長兵衛 出願 寶曆十二年二月 (高麗橋一丁目)	諸藝双六 折本一枚摺 作者 張 栗 板元 増田屋源兵衛	右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十二年二月	湖月百人一首花錦 一冊 以前「花福百人一首都染」と題せしを口繪彫替改題願出 畫工 寺 井 重房 板元 秋田屋市兵衛 出願 寶曆十二年三月	新選用文章寶玉蟲 一冊 以前「百川學海錦字選」と題せしを口繪彫替改題願出 作者 堺屋清兵衛 板元 吉文字屋市兵衛 出願 寶曆十二年三月 (奈良屋町)	淨土眞宗龜鑑釋 一冊 選者 先 啓 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆十二年四月 (福慶町五丁目)	證如上人御消息 一冊 校合者 先 啓 板元 柏原屋清右衛門 出願 寶曆十二年四月 (美濃室町村)	繪本武者圖 三冊 畫工 月 岡 丹下 板元 正本屋九左衛門 出願 寶曆十二年五月 (森 町)	永代大雜書春秋曆 一冊 以前「文化節用」と題せしもの口十丁と「萬寶全書」と題せしもの三十二丁とを合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十二年四月二十七	女年中往來眞珠海 一冊 以前「百人一首」と題せしもの口二十丁「深見草」と題せしもの、内三丁「女千紗和調文」と題せしもの十一丁「女調文章」と題せしもの六十一丁以上九十五丁を合せて一冊とし改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十二年四月二十七
--	--	---	--	--	---	-----------------------------------	---------------------------------------	--	---	--	--	--	---	---

繪本勇見山

五冊

作者繪師 月岡丹下

板元 柏原屋與市

出願 寶曆十二年四月

蓮如上人鵬之艸

一冊

校正者 專稱寺

板元 西田屋利兵衛

出願 寶曆十二年四月

日本君臣歌

一冊

筆者 廣澤

板元 本屋嘉兵衛

出願 寶曆十二年五月

九章算法記

一冊

作者 鳥飼市兵衛

板元 柏原屋清右衛門

出願 寶曆十二年五月

鎮火用心車

三冊

作者 西關尚恆

板元 藤屋彌兵衛

出願 寶曆十二年五月

繪本草錦

二冊

作者繪師 北尾雪坑齋

板元 柏原屋清右衛門

出願 寶曆十二年五月

柏林秘訣

一冊

作者 柏亭

板元 西田屋利兵衛

出願 寶曆十二年五月

紋帳圖式綱目

四冊

作者 方柳

板元 富士屋長兵衛

出願 寶曆十二年五月

加賀繪紋帳

二冊

作者 方柳

板元 富士屋長兵衛

出願 寶曆十二年五月

梅花心易評注

一冊

作者 新井白蟻

板元 藤屋彌兵衛

出願 寶曆十二年六月

當用光間式

一冊

筆者 長武左衛門

板元 吉文字屋市兵衛

出願 寶曆十二年六月

農業往來

一冊

作者 江藤彌七

板元 千種屋新右衛門

出願 寶曆十二年六月

錦囊萬代寶鑑

一冊

以前「男訓法記」と題せしもの五十五丁「小うたひ」と題せしもの二十六丁「諸禮訓」と題せしもの二十八丁「野山錦」と題せしもの十九丁「ちんかう記」と題せしもの七丁これに新板五丁を加へ合せて百四十丁を一冊とし改題申出
作者 吉文字屋市兵衛
板元 右同人
右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年六月二日

音曲商賣往來

一冊

板元 正本屋九左衛門

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年六月二日

小町算哥櫻

二枚物

板元 正本屋小兵衛

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年七月二十一日

山水館消息

一冊

筆者 新興文治

板元 奈良屋善助

出願 寶曆十二年八月

女小學教紳

一冊

作者 北尾仁右衛門

板元 敦賀屋九兵衛

出願 寶曆十二年八月

醫王耆婆傳

五冊

作者 都巢

病名補遺

八冊

作者 戸田齋

板元 柏原屋清右衛門

出願 寶曆十二年八月

類字折句集

一冊

板元 田原屋平兵衛

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年八月十九日

風流菊水卷

一冊

以前「春駒大内腔」と題せしもの此度改題申出

板元 本屋久兵衛

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年八月二十九日

女文寶全書

一冊

以前「女訓三才圖繪」と題せしものに口繪を増補し改題願出

板元 吉文字屋市兵衛

出願 寶曆十二年九月

外題譚

一冊

作者 早野七左衛門

板元 吉文字屋市兵衛

出願 寶曆十二年九月

開口獨笑

小本一冊

板元 本屋伊兵衛

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年九月

繪本放下筌

三冊

作者 千種屋新右衛門

板元 千種屋新右衛門

出願 寶曆十二年九月

四書字引

兩面一枚摺

作者 野村惣助

板元 野村惣助

出願 寶曆十二年九月

板元 富士屋長兵衛

出願 寶曆十二年十月

狂哥心の友

一冊

作者 岡本流水

板元 田原屋平兵衛

出願 寶曆十二年十月

古状揃

平假名付一冊

筆者 藤田鈍水

板元 柏原屋清右衛門

出願 寶曆十二年十月

本朝國語

五冊

作者 菅文三郎

板元 吉文字屋市兵衛

出願 寶曆十二年十月

源氏香之圖双六

一枚摺

畫工 村上至榮

板元 升屋大藏

出願 寶曆十二年十月

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年十月

時勢花の枝折

五冊

作者 吉文字屋市兵衛

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年十一月

小差出草紙

五冊

作者 いせや彦太郎

板元 正本屋仁兵衛

右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行

申出年月 寶曆十二年十一月

口科秘囊

一冊

作者 林元業

板元 丹波屋半兵衛

出願 寶曆十二年十一月

世説新語補國字解

五冊

作者 總積伊助

出願 寶曆十二年十一月

<p>板元 本屋嘉兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十二年十二月 増補早引節用集 一冊 再板申出 板元 柏原屋與市 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年正月</p>	<p>板元 本屋嘉兵衛 (長門赤馬關) 出願 寶曆十三年二月 攝州平野大繪圖 一冊 作者 日野長久 板元 柏原屋佐兵衛 (傳馬町)</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年三月 諸禮手引種 一冊 作者 澁川太藏 板元 河内屋茂兵衛 (浪路町切丁)</p>	<p>出願 寶曆十三年四月 (傳馬町) けいこ要品 一冊 作者 荒木風子 (攝州高槻木町)</p>
<p>板元 本屋嘉兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十三年正月 懷寶醫海 一冊 以前「道三節語録」と題せしを 此度再板改題願出 作者 半井道三 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町)</p>	<p>板元 本屋嘉兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十三年二月 武勇常盤山 二冊 畫工 北尾雪坑齋 (周防町)</p>	<p>板元 柏原屋五兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十三年三月 袖玉三々歌 一冊 以前「増訂三々歌」と題せしを 改題申出 板元 柏原屋與市 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月</p>	<p>板元 秋田屋市兵衛 (内木町二丁目) 出願 寶曆十三年四月 新篇書札指南 一冊 筆者 長友松</p>
<p>作者 林 履道 (肥州和歌山) 出願 寶曆十三年正月 卜筮五行筌 一折</p>	<p>板元 本屋嘉兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十三年二月 女文會百首寶鑑 一冊 板元 絲屋市兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年二月</p>	<p>板元 柏原屋與市 出願 寶曆十三年三月 狂詩選 一冊 作者 都庭鐘 (天満砂原)</p>	<p>板元 秋田屋市兵衛 (内木町二丁目) 出願 寶曆十三年四月 明詩別裁 四冊 作者 清、沈徳潜 板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目)</p>
<p>板元 本屋嘉兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十三年四月 懷寶千字文 一冊 筆者 林 義内 (傳馬町) 板元 柏原屋佐兵衛</p>	<p>板元 本屋嘉兵衛 (浪路町切丁) 出願 寶曆十三年五月 繪本蘭奢待 五冊 畫工 月岡丹下</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 忠孝夜話 四冊 右二種取合せ合冊一冊とし板 行申出 板元 千草屋新右衛門 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年八月</p>	<p>出願 寶曆十三年八月 外科熊掌 六冊 以前「捷徑外科俗書」と題せし もの改題申出 板元 柏原佐兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年九月</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 女教筆海高麗織 一冊 作者 北尾仁右衛門 (周防町)</p>	<p>板元 秋田屋市兵衛 (日向町) 出願 寶曆十三年六月 左傳字引 一冊 作者 林 義内</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 三韻通考 一冊 作者 清、謝有輝 作者 清、陳培暉 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p>	<p>板元 天満屋源次郎 出願 寶曆十三年九月 繪本源氏山 三冊 以前「繪本泰平樂」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年九月</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 行風夷哥式 以前「後選夷曲集」と題せしも の、内一冊を改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年四月</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 世間孝子形氣 六冊 以前「當世孝子鑑」と題せしを 改題申出 板元 柏原屋左兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年六月</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年八月 左國史漢字引 一冊 作者 林 義内 (日向町)</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 賢門子行狀記 五冊 作者 壽命寺 (山城奥戸村)</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 山城名所記 六冊</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年八月 新撰伊勢道中細見記 一冊 作者 本屋七郎兵衛 (作州津山)</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 妙藥集大全 一冊 以前「醫方指南」と題せしもの 板主安井加右衛門より買受け 此度改題申出 板元</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年八月 左國史漢字引 一冊 作者 林 義内 (日向町)</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>

<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 女教筆海高麗織 一冊 作者 北尾仁右衛門 (周防町)</p>	<p>板元 秋田屋市兵衛 (日向町) 出願 寶曆十三年六月 左傳字引 一冊 作者 林 義内</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 三韻通考 一冊 作者 清、謝有輝 作者 清、陳培暉 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p>	<p>板元 天満屋源次郎 出願 寶曆十三年九月 繪本源氏山 三冊 以前「繪本泰平樂」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年九月</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 行風夷哥式 以前「後選夷曲集」と題せしも の、内一冊を改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年四月</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 世間孝子形氣 六冊 以前「當世孝子鑑」と題せしを 改題申出 板元 柏原屋左兵衛 右板元よりの申出で本屋行 司にて閉届け板行 申出年月 寶曆十三年六月</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年八月 左國史漢字引 一冊 作者 林 義内 (日向町)</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 賢門子行狀記 五冊 作者 壽命寺 (山城奥戸村)</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年六月 山城名所記 六冊</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年八月 新撰伊勢道中細見記 一冊 作者 本屋七郎兵衛 (作州津山)</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>
<p>板元 田原屋平兵衛 (浪路町一丁目) 出願 寶曆十三年四月 妙藥集大全 一冊 以前「醫方指南」と題せしもの 板主安井加右衛門より買受け 此度改題申出 板元</p>	<p>板元 吉文字屋市兵衛 (齋藤町) 出願 寶曆十三年八月 左國史漢字引 一冊 作者 林 義内 (日向町)</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>	<p>板元 升屋大藏 出願 寶曆十三年九月 今昔諸國はなし 以前「當世はつ鑑」と題せしを 改題申出 板元 升屋大藏</p>

右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十三年九月

小謠太平樂

以前「嶋臺小謠」と題せしを改
題申出
板元 升屋 大藏
右板元よりの申出でを、本屋
行司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十三年九月

補正成艶群談

以前「補素人軍談」と題せしを
改題申出
板元 右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十三年九月

明詩奇賞

作者 福田忠治郎 (豊町一丁目)
板元 田原屋平兵衛 (豊町一丁目)
出願 寶曆十三年十月

拆字詩并解

調點注者 福田忠治郎 (豊町一丁目)

板元 田原屋平兵衛
出願 寶曆十三年十月

伊勢物語女訓大全

右は以前「花玉伊勢物語」と題
せしものに口繪を彫足して二
種とし改題願出
板元 升屋 大藏
出願 寶曆十三年十月

萬寶百人一首大成

作者 北尾仁右衛門 (周防町)
板元 柏原屋清右衛門 (豊町五丁目)
他行中に付 代判 嘉助
出願 寶曆十三年十一月

崑崙實錄

作者 覺 順 (泉州佐野)
板元 本屋佐兵衛 (車町)
出願 寶曆十三年十一月

司馬法句解

作者 河田孝成 (四町)

板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 寶曆十三年十一月

和漢船用集

作者 桶屋角左衛門 (安島舟大工町)
板元 柏原屋清右衛門 (豊町五丁目)
他行中に付 代判 嘉介
出願 寶曆十三年十一月

明詩かるた

百枚
作者 後藤 主水 (泉州堺)
板元 丹波屋半兵衛 (長崎心齋町)
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十三年十一月

繪本三韓織

以前「繪本兒櫻」と題せしを改
題申出
板元 本屋新右衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十三年十二月

以前「御伽夜話」と題せしを改
題申出
板元 秋田屋太右衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十四年正月

庭蟲群從

筆者 牧 周平 (鈴屋町)
板元 柏原屋清右衛門 (豊町五丁目)
出願 寶曆十四年正月

草書千字文

筆者 牧 周平 (鈴屋町)
板元 龜屋安兵衛 (長崎心齋町)
出願 寶曆十四年正月

行書千字文

筆者 牧 周平 (鈴屋町)
板元 柏原屋清右衛門 (豊町五丁目)
出願 寶曆十四年正月

女要四季の文箱

作者 桂 佐助 (京橋南中町)
板元 天満屋源次郎 (船町)

演連倭教訓

作者 八木源内 (泉州堺)
板元 丹波屋半兵衛
出願 寶曆十四年二月

あまかどみ

作者 寺田善右衛門 (河原屋町)
板元 奈良屋善助
出願 寶曆十四年二月

法眼帖

作者 醉 鹿
板元 河内屋喜兵衛
出願 寶曆十四年二月

醫療手引草

作者 加藤謙齋 (三河)
板元 藤屋彌兵衛
出願 寶曆十四年三月

舌徧覆

作者 釋 圓成 (伊勢津)
板元 柏原屋佐兵衛 (馬町)
出願 寶曆十四年三月

制參發揮

寶曆十四

作者 竹田圓 礎 (泉州堺)
板元 本屋伊兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 寶曆十四年三月

英華故事

以前「賞華吟」と題せしを改題
申出
作者 釋 了 意
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十四年三月十日

茶事交會一式

作者 折屋 惣助 (内倉屋町)
板元 富士屋長兵衛
出願 寶曆十四年三月

名数和哥選

作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)
板元 右 同人
出願 寶曆十四年三月

常用書札大全

以前「繪本人物誌」と題せしも
のの内九丁「常用尺牘」と題せ

し全部「常用書札集」と題せし
全部「常用書翰式」と題せし全
部以上を合せて一冊としこれ
に目錄四丁彫足して改題申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十四年三月十九日

雜說叢話

作者 林彌治右衛門 (三州吉田)
板元 藤屋彌兵衛
出願 寶曆十四年五月

淨土眞宗五祖傳

作者 若 瀧 (京都西六條慶四寺)
板元 藤屋彌兵衛
出願 寶曆十四年五月

四國通禮圖

作者 細田 周 英 (但馬)
板元 柏原屋清右衛門
出願 寶曆十四年五月

琴曲松のみばへ

以前「琴曲鶴の齡」と題せしを
増補十丁彫足し改題申出
板元 正本屋清兵衛

右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十四年五月

琴曲こまさらへ

以前「琴曲鶴の齡」と題せしも
の、内を抜搦申出
板元 正本屋清兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十四年五月

本草辨明

作者 中根 道 淳 (播州姫路)
板元 吉文字屋市兵衛 (大坂目町)
出願 寶曆十四年六月

哥林百人一首大成

以前「文寶全書」と題せしもの
に十九丁増補し口繪二丁彫足
して改題申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて閉届け板行
申出年月 寶曆十四年五月

蘭華詠

一帖

筆者 説 枝 山
板元 秋田屋市兵衛
出願 寶曆十四年六月

諸國順拜廿五ヶ所
元祖圖光大師御遺跡詠哥

板元 せと物屋傳兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 寶曆十四年六月

續瑞應傳

高僧求法篇 四冊

布施感報篇 六冊

因果感報篇 六冊

作者 超海 比 丘

板元 藤屋彌兵衛

出願 寶曆十四年六月

漫遊雜記

作者 獨 嘯 菴

板元 本屋清左衛門

出願 寶曆十四年六月

淨業修行次第

一卷

作者 任 阿
板元 秋田屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 明和元年七月二十日

人相筆話

作者 新山 退 市

板元 敦賀屋九兵衛

出願 明和元年七月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年七月

〔附記〕此の書板行を出願し
たるに書中に「朝鮮人の人相」
に就き記述しあるは差控ゆべ
しとのことにて左の通りの願
書の本屋行司并に板元速署し
て差出し板行を見合すことと
なれりその願書に曰く
乍 揮 口 上
人相筆話と申書板行仕度趣先
月御願奉申上候處板行形方紙
代等篤と勘定仕候處年恐却而
不勝手之筋に御座候再應相調
御願可申上處卒爾に御願申上
候段不調法之仕合奉存候開板
仕候義相止申度奉存候仍而乍

草書國牘

作者 都 集 菴

板元 奈良屋善助

出願 明和元年八月

文玉伊勢物語大成

板元 天満屋源次郎

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 北尾仁右衛門

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十一月

板元 柏原屋清右衛門
出願 明和元年九月

傷寒百證

作者 唐本 翻 刻

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

出願 明和元年十月

板元 和泉屋文助

板元 本屋新右衛門
出願 明和元年十月

韓詩外傳引詩篇目

作者 鳥山 宇 内

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

女一條萬要大全

以前「女要大全」と題せしもの
と「四季の文箱」と題せしもの
とを合巻とし改題申出

板元 天満屋源次郎

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

女要千代の玉章

以前「四季の文箱」と題せしもの
の「口繪を仕替改題申出

板元 天満屋源次郎

右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年九月

板元 藤屋彌兵衛

易學類篇

作者 新井 白 嶽

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

繪 説 竿

作者 新井 白 嶽

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

板元 藤屋彌兵衛

出願 明和元年十月

勤 化 翼

作者 桂樹 菴 等 觀

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

板元 升 屋 大 藏

出願 明和元年十一月

諸道聽耳世間猿

作者 損 得 叟

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

板元 正木屋清兵衛

出願 明和元年十一月

花月文章

筆者 菊

成候處右之儀何の心付も無之 願上候儀不念之段申開無御座 奉候儀依之右新板行相止度奉 存候間午恐右之趣被爲開召上 寫本御下げ被爲成下候様御願 上可被下候以上 明和元申十二月 本屋行司 吉文字屋市兵衛 同 升屋大藏 願人 柏原屋左兵衛 伊勢村殿 野里屋殿 薩摩屋殿	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 繪本富士野牧狩 一冊 以前「繪本勇見山」と題せし三 冊物の内一冊を改題申出 板元 柏原屋與市 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 國學指要 一冊 井泉岳寺賦 作者 八 園 子 板元 井波屋半兵衛 出願 明和元年十二月 心齋町	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 握機經 一冊 作者 唐土 古風后 板元 本屋清左衛門 出願 明和元年十二月 唐物町四丁目	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 眞宗懷古抄 三冊 作者 惠 忍 板元 本屋彌兵衛 河州下鴨村	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 明題百人國字引 一冊 百人上りいろは分 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 女文章玉櫛筒 一冊 以前「女柳文玉櫛筒」と題せし を口輪と目録の所とを改め改 題申出 板元 千種屋新右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月十日	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 哥仙朝日轍 三冊 以前「燈哥仙」と題せし六冊物 のうち三冊を改題申出 のらち三冊を改題申出 申出年月	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 國字候文 一冊 筆者 竹下一 敬 板元 絲屋源助 出願 明和二年正月 博勢町	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 梅花無盡藏 三冊 作者 甲斐 徳本 板元 本屋清左衛門 出願 明和二年正月 唐物町四丁目	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 役行者經井御和讃 一冊 作者 絲屋源助 板元 右 同人 出願 明和二年正月 博勢町	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 長恨歌手本 一冊 作者 桑原 爲 淡 板元 本屋清三郎 出願 明和二年正月 北久太郎町四丁目
---	--	--	--	---	---	--	--	--	--	---	--

千金要字集節用大成

再板願出
板元 吉文字屋市兵衛
出願 明和元年十二月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

繪本武者競

以前「繪本勇見山」と題せし三
冊物の内二冊を改題申出
板元 柏原屋與市

算學全書

作者 吉文字屋市兵衛
出願 明和二年正月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

天道錄

作者 可 承
板元 柏原屋左兵衛
出願 明和二年正月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

國學指要

作者 八 園 子
板元 丹波屋半兵衛
出願 明和二年正月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

寧儉齋漫錄

作者 山口幸二郎
板元 教賀屋九兵衛
出願 明和二年正月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

周易盡解

出願 明和二年正月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 繪本富士野牧狩 一冊 以前「繪本勇見山」と題せし三 冊物の内一冊を改題申出 板元 柏原屋與市 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 國學指要 一冊 井泉岳寺賦 作者 八 園 子 板元 井波屋半兵衛 出願 明和元年十二月 心齋町	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 握機經 一冊 作者 唐土 古風后 板元 本屋清左衛門 出願 明和元年十二月 唐物町四丁目	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 眞宗懷古抄 三冊 作者 惠 忍 板元 本屋彌兵衛 河州下鴨村	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 明題百人國字引 一冊 百人上りいろは分 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 女文章玉櫛筒 一冊 以前「女柳文玉櫛筒」と題せし を口輪と目録の所とを改め改 題申出 板元 千種屋新右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月十日	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和元年十二月 哥仙朝日轍 三冊 以前「燈哥仙」と題せし六冊物 のうち三冊を改題申出 のらち三冊を改題申出 申出年月	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 國字候文 一冊 筆者 竹下一 敬 板元 絲屋源助 出願 明和二年正月 博勢町	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 梅花無盡藏 三冊 作者 甲斐 徳本 板元 本屋清左衛門 出願 明和二年正月 唐物町四丁目	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 役行者經井御和讃 一冊 作者 絲屋源助 板元 右 同人 出願 明和二年正月 博勢町	右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 長恨歌手本 一冊 作者 桑原 爲 淡 板元 本屋清三郎 出願 明和二年正月 北久太郎町四丁目
--	--	--	---	---	--	--	--	--	---	--

吉川祐三

作者 吉川 祐三
板元 藤屋彌兵衛
出願 明和二年正月
高麗橋二丁目

勤化白狐通

作者 海 含
板元 本屋彌兵衛
出願 明和二年正月
南久寶寺町五丁目

女訓藻鹽草

以前「百人一首」と題せしもの
と「和哥名数」と題せしものと
を合せ改題申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 明和二年正月

新薄雪物語

挿繪を書替 板行申出
板元 河内屋八三郎
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 明和二年二月

役氏集要

作者 良學院周恭
出願 明和二年正月
豊前中津

柏原屋清右衛門

板元 柏原屋清右衛門
出願 明和二年五月

長恨歌手本

作者 桑原 爲 淡
板元 尼崎屋佐兵衛
板元 本屋清三郎
出願 明和二年五月

拾玉傳家寶

作者 柳 原 元 秀
板元 河内屋喜兵衛
出願 明和二年五月

繪本磐手山

繪師作者 紅屋仁右衛門
板元 吉文字屋市兵衛
出願 明和二年五月

珍選警文章

筆者 春 城 官 吾
板元 龜屋安兵衛
出願 明和二年五月

新選百物語

作者 板木屋平助
出願 明和二年五月
農人町一丁目

吉文字屋市兵衛

板元 吉文字屋市兵衛
出願 明和二年五月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

毛詩音義

作者 唐土 陸徳明
板元 吉文字屋市兵衛
出願 明和二年五月

念佛勤行略廻向

作者 任 阿
板元 九 應 寺
支配人 秋田屋市兵衛
支配人 警田屋伊右衛門
出願 明和二年六月二日

左氏傳列國世譜

校合者 黒嶋 尙 敬
板元 田原屋平兵衛
出願 明和二年七月
願慶町一丁目

女學則

作者 吉文字屋市兵衛
板元 右 同人
出願 明和二年七月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

教訓伊呂波經

出願 明和二年七月
本屋行司
吉文字屋市兵衛
同
升屋大藏
願人
柏原屋左兵衛

<p>井寺子教訓今川 一冊 作者 北尾仁右衛門 (周防町) 板元 藤屋市兵衛 (伏見兩替町四丁目) 出願 明和二年七月</p> <p>儉約置頭巾 一冊 以前「民家用心袋」と題せしを 改題申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和二年八月</p> <p>素誦拍子箋 一冊 作者 寺田善右衛門 (阿波座社町) 板元 奈良屋善助 (阿波座社町) 出願 明和二年八月</p> <p>新童子往來萬代寶鑑 一冊 再板願出 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁) 板元 敦賀屋九兵衛 (鶴屋町) 出願 明和二年八月</p> <p>〔附記〕この出願に對し同年</p>	<p>九月二十七日惣年寄より差扣 候様にとの注意ありしも本屋 行司にて開届けの上板行する こととなる</p> <p>女哥書大全 一冊 以前「古今百人一首」と題せし ものと「名數和哥選」と題せし ものとを合せ一冊とし口繪を 彫足し改題願出 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 出願 明和二年八月</p> <p>淨土和讀嘗解 十八冊 作者 定専坊月箋 (天満) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目) 出願 明和二年八月</p> <p>高僧和讀嘗解 十二冊 作者 定専坊月箋 (天満) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目) 出願 明和二年八月</p>	<p>諸國順拜廿五ヶ所道中記 一冊 作者 助松屋道喜 (新天満町) 板元 瀬戸物屋傳兵衛 (佐渡嶋町) 病中に付代判 瀬戸物屋伊兵衛 (阿波座日向) 出願 明和二年九月</p> <p>淨土元祖 御遺跡巡拜案内記 一冊 作者 岸 譽 (泉州堺) 板元 本屋又兵衛 (鶴屋町) 出願 明和二年九月</p> <p>〔附記〕此の書は同年同月に 出願したる瀬戸物屋傳兵衛方 の「諸國順拜廿五ヶ所道中記」 と類書にして同時に出版した るを以て瀬戸物屋傳兵衛方は 縁起入の大冊に仕立てること 相成らず本屋又兵衛方は大冊 として板行し道中記ばかりの 小冊にして賣弘めること相成 らずと申渡され双方得心の上 にて板行することとなれり</p>	<p>五文字附一足飛 一冊 板元 奈良屋善助 板元 柏原屋佐兵衛 板元 田原屋平兵衛 板元 譽田屋伊右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和二年十月</p> <p>五文字附力艸 一冊 板元 藤屋源助 板元 譽田屋伊右衛門 板元 田原屋平兵衛 板元 柏原屋佐兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和二年十月</p> <p>新選五文字附 一冊 板元 藤屋源助 板元 譽田屋伊右衛門 板元 田原屋平兵衛 板元 柏原屋佐兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和二年十月</p> <p>五文字附千人的 一冊 板元 阿波屋平八 右板元よりの申出でを本屋行</p>
--	--	---	---

<p>司にて開届け板行 申出年月 明和二年十月</p> <p>平かな談義帳 五冊 板元 柏原屋佐兵衛 以前「新選談義」と題せしを 改題申出 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和二年十月</p> <p>榮花百人一首都鑑 一冊 以前「汝月百人一首」と題せし ものに「女柳文玉櫛篋」の内三 丁を加へ改題申出 板元 藤屋源助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月</p> <p>女寶百人一首絲錦 一冊 以前「汝月百人一首」と題せし 本文へ同口繪八枚を加へ奥口 扉は「女萬寶袖鑑」を添へ改題 申出 板元 藤屋源助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月</p>	<p>女教難文庫 一冊 寸珍本 以前「金玉百人一首寸歌仙」に 増補し改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月</p> <p>樂生論 石摺 一冊 作者 河野忠右衛門 (京都) 板元 播磨屋惣介 (博多町) 出願 明和二年十一月</p> <p>四書 六冊 白文點付再板願出 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和二年十一月</p> <p>學庸解考證 一冊 作者 眞嶋林圭 (下博多玉手町) 板元 田原屋平兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和二年十一月</p> <p>女七寶操庫 一冊</p>	<p>女教難文庫 一冊 寸珍本 以前「金玉百人一首寸歌仙」に 増補し改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月</p> <p>樂生論 石摺 一冊 作者 河野忠右衛門 (京都) 板元 播磨屋惣介 (博多町) 出願 明和二年十一月</p> <p>四書 六冊 白文點付再板願出 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和二年十一月</p> <p>學庸解考證 一冊 作者 眞嶋林圭 (下博多玉手町) 板元 田原屋平兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和二年十一月</p> <p>女七寶操庫 一冊</p>	<p>作者 北尾仁右衛門 (周防町) 板元 藤屋市兵衛 (伏見兩替町四丁目) 出願 明和二年十一月</p> <p>尚書大傳 一冊 作者 漢、鄭玄 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 板元 和泉屋文介 (御池通六丁目) 出願 明和二年十一月</p> <p>契情文反古 四冊 以前「けいせい三語解」と題せ しを改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 出願 明和二年十一月</p> <p>易箋 一枚 作者 新井白蛾 (京都) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和二年十二月</p> <p>神國女訓抄 一冊</p>	<p>作者 山口日向 (攝津東成郡上宮神主) 板元 田原屋平兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和二年十二月</p> <p>後たとへかるた 作者 繪師 千草屋源治郎 (土佐堀一丁目) 板元 千草屋新右衛門 (江戸堀三丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和三年二月</p> <p>大和詞かるた 作者 繪師 千草屋源治郎 (土佐堀一丁目) 板元 千草屋新右衛門 (江戸堀三丁目) 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和三年二月</p> <p>甘谷先生遺稿 四冊 作者 菅小善 板元 和泉屋文助 (御池通六丁目) 出願 明和三年二月</p> <p>〔附記〕この書の文中に差障 り有之よし惣年寄よりの注意</p>
--	---	---	--	--

あり出願を取止め板行を見合す

中和堂遺稿 一冊

作者 東海徳左衛門 (長崎)
板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)
出願 明和三年二月

正像末浄土和讃連環解 六冊

作者 泰巖 (藤州小曾根村)
板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年二月

女文苑榮花 一冊

作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
板元 右同人
出願 明和三年二月

女寶百人一首絲錦 一冊

以前「汝月百人一首」と題せしを改題申出
板元 藤屋源介
右板元よりの申出でを本屋行

司にて閉届け板行
申出年月 明和三年四月

狂歌調 一冊

作者 木端 (尾崎町一丁目)
板元 富士屋長兵衛
出願 明和三年四月
〔附記〕この當時惣年寄に差支之儀有之のため本屋行司にて閉届け板行

問屋往來 商賣往來 全一冊

作者 甲谷慶兼
板元 本屋佐兵衛 (高麗橋一丁目)
板元 正本屋清兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年四月

繪本武將傳 三冊

作者 吉文字屋市兵衛
板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
出願 明和三年五月十日

甘谷先生遺稿 四冊

作者 菅小善
板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)
出願 明和三年五月十日

類葉百人一首千種織 一冊

以前「吾妻百人一首」と題せしものに「女源氏」と題せしもの口繪を擬合せ改題申出
板元 秋田屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 明和三年五月十日

繪本操草 三冊

以前「女武勇統製」と題せしを改題申出
板元 秋田屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 明和三年五月十日

眞宗法の手爾波 二冊

作者 明嚴寺覺願 (泉州佐野通)
板元 尼崎屋佐兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年五月十日

女要文章寶鑑 一冊

板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
出願 明和三年五月十日

判評たとへかるた

作者 繪師 千種屋源次郎 (土佐堀一丁目)
板元 千種屋新右衛門 (江戸堀三丁目)
出願 明和三年五月

後たとへかるた

作者 繪師 千種屋源次郎 (土佐堀一丁目)
板元 千種屋新右衛門 (江戸堀三丁目)
出願 明和三年五月

新板大和詞

作者 繪師 千種屋源次郎 (土佐堀一丁目)
板元 千種屋新右衛門 (江戸堀三丁目)
出願 明和三年五月

和漢人物故事 四冊

以前「繪本人物誌」と題せしを改題申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行

司にて閉届け板行
申出年月 明和三年五月十日

白頭帖 一冊

筆者 天野芝港
板元 岩田屋源兵衛 (油町二丁目)
出願 明和三年七月

五樹百人一首哥占 一冊

作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
板元 右同人
出願 明和三年七月

永曆大雜書天文大成 一冊

作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
板元 右同人
出願 明和三年七月

女今川教文 一冊

作者 雪坑齋
板元 升屋大藏 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年七月

證果増進之圖 一枚

并札 十六本
作者 迷悟庵

板元 柏原屋佐兵衛 (馬場町)
出願 明和三年七月

針灸則 一冊

作者 菅沼周桂 (高麗橋大和町)
板元 田原屋平兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年九月

神易選 一冊

作者 新井良介 (金澤町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
板元 升屋大藏 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年九月

女用智惠寶鑑 一冊

増補再板願出
板元 柏原屋清右衛門 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年九月

新撰百物語

挿繪を加へ板行願出

板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
出願 明和三年九月

南朝紀行春山路 一冊

撰者 淺見勾龍 (高麗橋一丁目)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 明和三年九月

御遺跡廿五箇所案内記

以前「浄土元祖御遺跡巡拜案内」と題せしを改題願出
板元 本屋又兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 明和三年八月

誹諧續耳勝手 一冊

作者 北堂 (道頓堀久左衛門町)
板元 田原屋平兵衛
出願 明和三年九月

靈符眞言修法略 一冊

作者 如實 (長州)
板元 舟橋屋治兵衛
出願 明和三年十一月

作者 泰理兵衛 (立賣堀裏町)
出願 明和三年十月

通變龍鑑箋

作者 九應寺任阿 (生玉寺町)
板元 譽田屋伊右衛門
出願 明和三年十一月

佛說阿彌陀經

板元 柏原屋與左衛門
出願 明和三年十一月

熙春隨筆 二冊

作者 良覺院周恭 (豊前中津)
板元 柏原屋清右衛門
出願 明和三年十一月

新選大雜書萬寶大成 一冊

作者 鳥飼市兵衛 (木挽町中之丁)
板元 敦賀屋九兵衛
出願 明和三年十一月

四聲國字通 四冊

<p>作者 牧田 方毅 (和州郡山) 板元 秋田屋市兵衛 出願 明和三年十一月</p> <p>字引節用集大成 一冊 以前「萬世節用集」と題せしものに拾二丁彫足し改題願出 板元 本屋清左衛門 出願 明和三年十一月</p> <p>世間妾形氣 四冊 作者 鶴屋仙次郎 (室鳩水末町) 板元 正本屋清兵衛 (車町) 出願 明和四年正月</p> <p>花鏡清水詣 五冊 以前「風流祭花形」と題せしを改題申出 板元 升屋 大藏 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和三年極月</p> <p>本朝故事雜俎 六冊 以前「積砂石集」と題せしを改題申出</p>	<p>板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和三年極月</p> <p>質疑編 合刻三冊 作者 五井藤九郎 (尾崎町一丁目) 板元 本屋 丹六 (北久太郎町四丁目) 出願 明和四年正月</p> <p>中臣祓落葉抄 二冊 作者 藤原 宗算 (市勢町仁德天王御主) 板元 田原屋平兵衛 出願 明和四年正月</p> <p>御文興要 三冊 作者 惠 一帖目 (播州) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和四年正月</p> <p>釋古文學 一冊 作者 荒川 堯民 (河波橋島)</p>	<p>作者 北尾仁右衛門 (尾防町) 板元 敦賀屋九兵衛 出願 明和四年正月</p> <p>女類題小倉錦 一冊</p> <p>明和用文章書苑 一冊 以前「大船用文章」と題せしものに彫足し改題願出 作者 北尾仁右衛門 (尾防町) 板元 田原屋平兵衛 出願 明和四年正月</p> <p>博物筌 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木渡町中ノ町) 板元 右 同人 出願 明和四年正月</p> <p>萬福用文章寶庫 以前「書札往來」と題せしを改題申出 板元 柏原屋佐兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和三年十二月</p> <p>繪本唐和撰 五冊 以前「大學倭繪抄」と題せし三冊</p>	<p>作者 千野元長 (讃州高松) 板元 柏原屋佐兵衛 (備馬町) 出願 明和四年四月</p> <p>百歌拾葉月花撰 一冊 作者 北尾仁右衛門 (尾防町) 板元 絲屋市兵衛 (伏見兩替町四丁目) 出願 明和四年四月</p> <p>童女教訓松間鄙言 四冊 作者 三橋源三郎 (江戸) 板元 田原屋平兵衛 (尾防町一丁目) 出願 明和四年五月</p> <p>雄繪本武者録 三冊 作者 畫工 源治郎 (江戸堀一丁目) 板元 河内屋喜兵衛 (前久太郎町六丁目) 出願 明和四年五月</p> <p>行成百人一首 一冊 以前「哥仙百人一首」と題せしを改題申出 板元 吉文字屋市兵衛</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年四月二十五日</p> <p>孝經國字解 三冊 以前「孝經安智抄」と題せしを改題申出 板元 丹波屋半兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年四月二十五日</p> <p>本朝搜神記 七冊 以前「扶桑怪談辨述抄」と題せしを改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年四月二十五日</p> <p>手紙集要 一冊 作者 長友松 (高麗橋三丁目) 板元 和泉屋卯兵衛 (長堀心算町) 出願 明和四年六月</p> <p>かな文章 一冊 作者 長友松 (高麗橋三丁目)</p>	<p>冊物と「繪本倭論語」と題せし三冊物とを合せて五冊に仕立て改題申出 板元 絲屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和三年十二月</p> <p>繪本倭玉撰 五冊 以前「繪本醫の塵」と題せし三冊物と「繪本任意草」と題せし二冊物とを合せて五冊に仕立て改題申出 板元 絲屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和三年十二月</p> <p>繪本千代の春 二冊 以前「吉野神」と題せし三冊物の中巻を除き上下二冊を以て改題申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和三年十二月</p> <p>繪本分類故事 十冊 以前「分類繪本良材」と題せしを改題申出</p>
--	---	--	--	--	---

<p>板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年正月</p> <p>女萬寶湖景 以前「汝月百人一首」と題せしものと「女柳文玉掃帚」と題せしものとを合冊とし改題申出 板元 絲屋 源助 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年正月</p> <p>張氏醫道纂要 一冊 作者 加藤 玄順 (三河吉田) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和四年三月</p> <p>東海詩聯 一冊 作者 伊藤 忠貞 (和州郡山) 作者 杜 規宅 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 明和四年三月</p> <p>勤化演慈辨 三冊 攝津國 長柄人柱</p>	<p>作者 現 警 (生玉光寺) 板元 本屋又兵衛 (尾崎町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 明和四年三月</p> <p>文昌帝君勸孝經 一冊 調點者 山口日向守 (攝津天王寺村上宮御主) 板元 田原屋平兵衛 (尾防町一丁目) 出願 明和四年三月</p> <p>中臣祓舊傳 三冊 作者 山口日向守 (攝津天王寺村上宮御主) 板元 田原屋平兵衛 (尾防町一丁目) 出願 明和四年三月</p> <p>東行筆記 一冊 作者 湯淺新兵衛 (備前興山) 板元 柏原屋清右衛門 (尾防町五丁目) 出願 明和四年四月</p> <p>算指南 一冊 徳拾枚 算盤貳枚 并に算木數取</p>	<p>作者 千野元長 (讃州高松) 板元 柏原屋佐兵衛 (備馬町) 出願 明和四年四月</p> <p>百歌拾葉月花撰 一冊 作者 北尾仁右衛門 (尾防町) 板元 絲屋市兵衛 (伏見兩替町四丁目) 出願 明和四年四月</p> <p>童女教訓松間鄙言 四冊 作者 三橋源三郎 (江戸) 板元 田原屋平兵衛 (尾防町一丁目) 出願 明和四年五月</p> <p>雄繪本武者録 三冊 作者 畫工 源治郎 (江戸堀一丁目) 板元 河内屋喜兵衛 (前久太郎町六丁目) 出願 明和四年五月</p> <p>行成百人一首 一冊 以前「哥仙百人一首」と題せしを改題申出 板元 吉文字屋市兵衛</p>	<p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年四月二十五日</p> <p>孝經國字解 三冊 以前「孝經安智抄」と題せしを改題申出 板元 丹波屋半兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年四月二十五日</p> <p>本朝搜神記 七冊 以前「扶桑怪談辨述抄」と題せしを改題申出 板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和四年四月二十五日</p> <p>手紙集要 一冊 作者 長友松 (高麗橋三丁目) 板元 和泉屋卯兵衛 (長堀心算町) 出願 明和四年六月</p> <p>かな文章 一冊 作者 長友松 (高麗橋三丁目)</p>
---	---	--	--

<p>以前「増補袖中節用集」と題せしを改題再板願出 作者 堺屋清兵衛 (鶴屋町)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)</p> <p>出願 明和四年十月一日</p> <p>許可 明和四年十一月一日</p>	<p>以前「繪本諸禮調」と題せしもの「繪本岩手山」と題せしもの「繪本言葉花」と題せしもの「素室小瀧」と題せしもの以上四種を合せて改題申出 板元 吉文字屋市兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>
<p>以前「増補袖中節用集」と題せしを改題再板願出 作者 堺屋清兵衛 (鶴屋町)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)</p> <p>出願 明和四年十月一日</p> <p>許可 明和四年十一月一日</p>	<p>諸禮教訓文庫 五冊 以前「繪本諸禮調」と題せしもの「繪本岩手山」と題せしもの「繪本言葉花」と題せしもの「素室小瀧」と題せしもの以上四種を合せて改題申出 板元 吉文字屋市兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本花達花 二冊 畫工 寺井重房 (安堂寺町五丁目)</p> <p>板元 大塚屋宗兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 明和四年十一月</p> <p>許可 明和四年十二月十七日</p>	<p>説法鈔撮 三冊 作者 靈鳳 (河内丹南)</p> <p>板元 丹波屋半兵衛 (心齋町)</p> <p>出願 明和四年十一月</p> <p>許可 明和四年十二月十七日</p>	<p>安心眞宗俗談 三冊 作者 知章 (江戸)</p> <p>板元 尼崎屋佐兵衛 (船場町五丁目)</p> <p>出願 明和四年十一月</p> <p>許可 明和四年十二月十七日</p>	<p>繪本福の門 二冊 以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>
<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>

<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>
<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>
<p>以前「繪本愛子車」と題せしものを二分しその一部分を改題申出 板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>	<p>繪本大和言葉 一冊 右は「女鏡秘傳書改成一冊」の挿繪のみを抜摺にしこの外題にて賣弘めたる旨申出</p>	<p>女鏡秘傳書改成一冊 以前二冊物なりしを一冊とし繪入とする旨申出 板元 千種屋新右衛門</p> <p>右板元よりの申出で本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 明和四年十一月</p>

許可 明和五年五月二十九日 御家歴代芳翰 一冊 筆者 藤原正英 板元 小刀屋六兵衛 出願 明和五年四月 許可 明和五年五月二十九日	許可 明和五年七月十三日 毛詩指説 一冊 作者 唐成伯瑜 板元 江島屋庄六 出願 明和五年六月 許可 明和五年七月十三日	許可 明和五年七月十三日 早引節用集眞字附 一冊 作者 山下重政 板元 柏原屋與左衛門 出願 明和五年六月 許可 明和五年七月十三日	許可 明和五年七月十三日 唐詩絶句解 三冊 作者 新井白銀 板元 吉文字屋市兵衛 出願 明和五年六月 許可 明和五年七月十三日	許可 明和五年七月十三日 繪本深山猿 二冊 作者 繪師 千種屋源二郎 板元 千種屋新右衛門 出願 明和五年六月 許可 明和五年七月十三日	許可 明和五年七月十三日 上難波宮祭禮行列記 一冊 畫工作者 龜屋門二郎 板元 升屋彦太郎 出願 明和五年六月 許可 明和五年七月十三日	許可 明和五年七月十三日 和漢故人書畫一覽一枚摺 作者 尙古齋 板元 尼崎屋佐兵衛 出願 明和五年七月 許可 明和五年八月	許可 明和五年七月十三日 示童用文北野土産 一冊 作者 北野仁右衛門	許可 明和五年七月 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和五年七月 許可 明和五年八月	許可 明和五年八月 廣千字文 一冊 作者 河合源晋 板元 本屋伊兵衛 出願 明和五年七月 許可 明和五年八月	許可 明和五年七月 淨土三部經 四卷 校正者 額 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和五年七月 許可 明和五年八月	許可 明和五年七月 俳諧場附集 一冊 作者 片十 板元 本屋清左衛門 出願 明和五年十月 許可 明和五年十一月廿三日	許可 明和五年七月 唐麓山寺碑 一冊 筆者 唐李 板元 江島屋庄六 出願 明和五年六月
---	--	--	---	--	--	---	---	---	--	---	--	--

許可 明和五年十月 漢曹全碑 一冊 筆寫人 中川長四郎 板元 江島屋庄六 出願 明和五年十月 許可 明和五年十一月廿三日	許可 明和五年十月 狂哥鴨のはながき 一冊 作者 木端 板元 富士屋長兵衛 出願 明和五年十月 許可 明和五年十一月廿三日	許可 明和五年十月 狂哥帆かけ舟 一冊 選者 白縁齋梅好 板元 江島屋庄六 出願 明和五年十月 許可 明和五年十一月廿三日	許可 明和五年十一月廿三日 刪補家傳預集 一冊 校合者 山本序因 板元 秋田屋市兵衛	許可 明和五年十月 瀧本原泉第一帖 一冊 校正人 江島屋次良三郎 板元 江島屋庄六 出願 明和五年十一月 許可 明和五年十二月五日	許可 明和五年十一月 百人一首都難形 一冊 以前「汝月百人一首」と題せし 八十丁より成るもの、内口繪 二十五丁を除き残り五十九丁 を以て一冊とし改題申出 板元 藤屋源助 出願 明和五年十月 許可 明和五年十月	許可 明和五年十一月 うす挽歌 一冊 校者 自得齋 板元 藤屋市兵衛 出願 明和五年十一月 許可 明和五年十二月五日	許可 明和五年十一月 算法指南車 一冊 校合人 小川市兵衛	許可 明和五年十一月 幸神秘訣 二冊 作者 山口日向守 板元 田原屋平兵衛 出願 明和五年十一月 許可 明和五年十二月五日	許可 明和五年十一月 淨瑠璃紀原 一冊 作者 和合 板元 京屋嘉市郎 出願 明和五年十一月 許可 明和五年十二月五日	許可 明和五年十一月 錦囊妙藥秘録 一冊 以前「功要秘方」と題せしを改 題申出 板元 吉文字屋市兵衛 出願 明和五年十一月 許可 明和五年十一月	許可 明和五年十一月 書林棗 一冊 作者 千種屋源次郎 板元 千草屋新右衛門 出願 明和六年二月 許可 明和六年三月六日	許可 明和六年三月六日 女撰要和國織 一冊 畫工 桂雪 板元 秋田屋市兵衛 出願 明和六年二月 許可 明和六年三月六日	許可 明和六年三月 尊圓親王鳳手本 一冊 校正者 藤原門次 板元 小刀屋六兵衛 出願 明和六年三月 許可 明和六年三月二十四日
--	---	---	--	---	---	--	--	---	--	---	--	---	---

〔附記〕 此年八月京都本屋行
司よりの書狀到着その要領に
曰く「青蓮院様より御許狀こ
れなきものは賣買無用のこと
と

俗家日用文章

筆者 藤原門次 (新野町)

板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町)

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

東海消息

筆者 兒嶋貞藏 (大阪長堀平右衛門町)

板元 本屋伊兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

醫學天則

作者 平田支東 (敦賀屋九兵衛)

板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町)

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

近代百物語

作者 吉文字屋市兵衛

〔本機町中之町〕

板元 右同人

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

左傳占例考

作者 片岡如圭 (京)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

易術妙鏡

作者 片岡如圭 (京)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

壽百人一首教鏡

作者 溝口武兵衛 (天満橋之上町)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 明和六年三月

許可 明和六年三月二十四日

說法名歌辨

以前「說法雪花」と題せしを

改題申出

板元 敦賀屋太助 (右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 明和六年三月)

風水問答 合刻一冊

地理正言 校正者 明、胡文煥

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

沈氏畫塵 一冊

作者 明 沈 頌 (江嶋屋庄六)

板元 江嶋屋庄六 (高麗橋三丁目)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

寰海禪師詩 二冊

作者 寰 海 (安 番)

板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

勸化世事談 三冊

作者 圓 心 (北堀江三丁目)

板元 敦賀屋九兵衛

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

懷素秋興八首

校合者 岳 玉 (堂橋新地中三丁目)

板元 秋田屋徳右衛門 (中之嶋常安裏町)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

蒙所阿房宮賦

校合者 岳 玉 (堂橋新地中三丁目)

板元 秋田屋徳右衛門 (中之嶋常安裏町)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

玉葉百人一首哥裏

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

大日本道中行程細見圖

一冊

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

女百川學海大全

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

狂方初心式

作者 了 山 (京)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 明和六年八月

許可 明和六年九月十一日

卦變問答

作者 吉川 祐三 (唐物町二丁目)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)

出願 明和六年八月

許可 明和六年九月十一日

卜筮眼目

一冊

作者 吉文字屋市兵衛 (本機町中之町)

板元 右同人

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

三體廣千字文

筆者 伏 山 (北野村)

板元 本屋伊兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

世間化物氣質

作者 升屋彦太郎 (本機町北ノ町)

板元 右同人

出願 明和六年五月

許可 明和六年五月二十七日

女七珍萬葉舟

以前「繪合百人一首紅葉香」と
題せしもの十八丁「女學則」と
題せしもの八丁「名數和哥選」と
題せしもの八丁「玉葉百人
一首」と題せしもの七十三丁
「女文苑榮花」と題せしもの十
八丁「女今川」と題せしもの三
十丁以上六種を取合せて一冊

とし改題申出

板元 吉文字屋市兵衛 (右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 明和六年七月二十九日)

古文孝經發 三冊

作者 新井 白 蛾 (京)

板元 吉文字屋市兵衛 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

新增日本道中行程記

大成 一冊

作者 吉文字屋市兵衛 (本機町中之町)

板元 右同人

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

繪本武者將基

折本一冊

作者 吉文字屋市兵衛 (本機町中之町)

板元 右同人

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

九重百人一首花月織

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

婚禮百人一首千年松

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十日

花葉百人一首姫鑑

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

傳授百人一首花鳥織

作者 吉文字屋市兵衛

板元 右同人 (本機町中之町)

出願 明和六年八月六日

許可 明和六年九月十一日

玉琴百人一首綾羽織

作者 吉川 祐三 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	花月吟 撰者 鳥山宇内 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	投壺今格 作者 都賀直之丞 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	増補 淨土眞宗聖教目錄 作者 先啓 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	補闕千字文 筆者 伏山 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	掌中詩聯 撰者 高宮了作 板元 秋田屋市兵衛 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	鳳雲堂消息 筆者 春城官吾 板元 龜屋安兵衛 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	増補 海節用集 作者 堺屋清兵衛 板元 右同人 出願 明和六年八月 許可 明和六年九月十一日	古易斷時言 四冊	作者 新井白娥 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和六年九月 許可 明和六年十月	高砂百人一首錦文庫 増補板行願出 作者 吉文字屋市兵衛 板元 右同人 出願 明和六年九月 許可 明和六年十月	弘法大師秘密占 作者 吉文字屋市兵衛 板元 右同人 出願 明和六年九月 許可 明和六年十月	連玉用文筆法藏 此度四十三丁増補板行願出 作者 長友松 板元 秋田屋市兵衛 出願 明和六年九月 許可 明和六年十月	解人願廣集萬 撰者 金龍道人 板元 丹波屋半兵衛 出願 明和六年九月 許可 明和六年十月	花葉百人一首姫鏡 以前「女千載」と題せしもの 内五丁「蘭香待」と題せしもの 九丁及び「玉葉百人一首」と題 せしもの 以上を取合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和六年九月	錦柳百人一首寶織 以前「行成百人一首」と題せし もの内一丁「繪合百人一首」と 題せしもの本文五十丁以下 上を取合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和六年九月	富貴百人一首花橋 一冊
---	---	---	---	---	---	---	--	-------------	---	---	---	--	--	---	---	----------------

以前「古今百人一首」と題せし もの内五丁と「玉葉百人一 首」と題せしもの五十丁と取 合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和六年九月	婚禮手引草 以前「玉葉百人一首」と題せし もの内二十三丁「花枝折」と 題せしもの内六丁「女千載」と 題せしもの内六丁以上三 種を取合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和六年九月	女今川教訓全書 以前「女要訓」と題せしもの 内一丁「玉葉百人一首」と題せ しもの内二十三丁「女今川」 と題せし本文四十九丁「女學 則」と題せし本文四十二丁と 口繪七丁「名教和哥選」と題せ しもの内六丁「蘭香待」と題 せしもの六丁「哥林百人一首」 と題せしもの内一丁以上を	取合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和六年九月	丹堂遺稿 作者 荒木忠菴 板元 柏原屋庄兵衛 出願 明和六年十一月	雲流軒消息并我文章 筆者 藤原門次 板元 小刀屋六兵衛 出願 明和六年十一月	傾城戰國策 作者 半井仙路 板元 吉文字屋市兵衛 出願 明和六年十一月	度尚帖 筆者 歐陽詢 板元 河内屋茂兵衛	方的 作者 加藤玄順 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和六年十一月	申鑒 作者 顯川荀悅 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和六年十一月	天隱子 作者 司馬承禎 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和六年十一月	文徵明楷書千字文 筆者 文徵明 板元 河内屋嘉兵衛	板橋雜記 作者 明余濟心 調點者 桑寛 板元 尼崎屋作兵衛 出願 明和六年十一月	勸孝篇 作者 唐王冲 調點者 桑寛 板元 尼崎屋作兵衛 出願 明和六年十一月	女大學 作者 貝原篤信 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和六年十一月	繪本看板雜形 以前「繪本富貴種」と題せし三 冊物のうち二冊の改題申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 出願 明和六年十一月
---	--	--	---	--	---	--	----------------------------	---	---	--	---------------------------------	--	--	--	---

<p>增補繪本國見山 五冊 以前「國見山」と題せしものと「深山猿」と題せしものとを合せ改題申出 板元 千種屋新右衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 出願 明和六年十一月</p>	<p>文徵明河帖 一冊 校合者 岳玉淵 (京橋中二丁目) 板元 小刀屋六兵衛 出願 明和七年二月 許可 明和七年三月二十六日</p>	<p>痘疹紅紙摺 一枚摺 校正者 本郷庭藏 (北久太郎町一丁目) 板元 田原屋平兵衛 (順慶町一丁目) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>類字索引節用集 一冊 作者 北田君賢 (唐物町四丁目) 板元 伊丹屋庄次郎 (北久賣寺町三丁目) 板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>古今濕病論 一冊 作者 杉生之貞 (白製町) 板元 和泉屋次郎兵衛 (長堀白製町) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>
<p>十三經篇目 一冊 作者 三谷景從 (京州高松) 板元 龜屋安兵衛 (長堀心齋町) 出願 明和七年二月 許可 明和七年三月二十六日</p>	<p>增補日本夕路之記 一冊 作者 高田清之丞 (初瀬町) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>繪本倭詩經 三冊 繪師 柳原源次良 (江戸堀三丁目) 板元 池田屋三郎右衛門 (吳服町) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>午睡菴和哥 一冊 作者 午睡菴 (和州高田) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>新刻古文錦字引 一冊 作者 山崎右門 (薩摩津和野長家) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>
<p>大橋流今川 一冊 筆者 篠田休次 (江戸平川町) 板元 升屋彦太郎 出願 明和七年二月 許可 明和七年三月二十六日</p>	<p>地藏通夜物語 五冊 作者 岡本重碩 (江州) 板元 柏原屋庄兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>唐詩選題引 一冊 作者 白杵輝光 (白製町) 板元 和泉屋次郎兵衛 (長堀白製町) 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>傷寒論拾要 一冊 作者 杉生之貞 (白製町) 板元 和泉屋次郎兵衛 (長堀白製町)</p>	<p>大成五經字引 一冊 作者 山崎右門 (薩摩津和野長家) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年四月</p>
<p>增補易通商考 二冊 作者 吉川祐三 (今宮村) 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和七年二月 許可 明和七年三月二十六日</p>	<p>尊圓親王奏帖 一冊 校正者 篠原門次 (新羅町) 板元 小刀屋六兵衛 (津村西之丁) 出願 明和七年閏六月 明和七年閏六月廿七日</p>	<p>傷寒論國字解 六冊 作者 雲林院了作 (上藤波町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p>	<p>和漢金玉畫府 六冊 畫工 月岡雪鼎 (江戸堀二丁目) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p>	<p>古今序之切 一卷 筆者 尊圓親王 板元 本屋清三郎 (北久太郎町四丁目) 出願 明和七年八月</p>

<p>鄭成功國性爺傳 二冊 調點者 坪井屋吉右衛門 (北堀江五丁目) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>俳諧小槌 一冊 作者 河内屋茂兵衛 (鶴屋町) 板元 右同人 出願 明和七年閏六月 許可 明和七年閏六月廿七日</p>	<p>樂毅論 一冊 筆者 晉王義之 (本橋北之丁) 板元 升屋彦太郎 出願 明和七年閏六月 許可 明和七年閏六月廿七日</p>	<p>子夏易傳 八冊 作者 周子夏 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p>	<p>和漢名畫贊 六冊 作者 畫工 吉村周山 (順慶町五丁目) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p>
<p>浪花懷古詩 一冊 筆者 龍彦二郎 (江州彦根) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年四月 許可 明和七年五月十三日</p>	<p>外百三十番字引 一冊 作者 田思明 (阿波座まぐび町) 板元 奈良屋善助 (おくび町) 出願 明和七年閏六月 許可 明和七年閏六月廿七日</p>	<p>中庸古注 一冊 調點者 南宮大猷 (江) 板元 柏原屋與左衛門 出願 明和七年閏六月 許可 明和七年閏六月廿七日</p>	<p>茄子腐藁 一冊 作者 江蘭瀟 (京都) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 明和七年八月</p>	<p>女讀書日用文鑑 一冊 調點者 南宮大猷 (江) 板元 柏原屋與左衛門 出願 明和七年閏六月 許可 明和七年閏六月廿七日</p>
<p>分錄叢林役牌 二冊 作者 伏山 (北野村) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年閏六月 許可 明和七年閏六月廿七日</p>	<p>五代北條實記 以前「北條盛衰記」と題せしもの、板木を買受け改題板行申出 右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行 申出年月 明和七年閏六月</p>	<p>傷寒論國字解 六冊 作者 雲林院了作 (上藤波町) 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p>	<p>和漢名畫贊 六冊 作者 畫工 吉村周山 (順慶町五丁目) 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p>	<p>古今序之切 一卷 筆者 尊圓親王 板元 本屋清三郎 (北久太郎町四丁目) 出願 明和七年八月</p>

<p>許可 明和七年十月二十八日 〔附記〕 此年八月京都本屋行司より書狀到着その要領に曰く「青蓮院様より御許狀これなき書は買買不相成候こと」と</p> <p>阿蘭陀薬名考 一冊 作者 桑原宗 菴 板元 柏原屋與左衛門 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p> <p>俳諧系くぼ 一冊 作者 推本 下物 板元 丹波屋半兵衛 板元 秋田屋徳右衛門 出願 明和七年八月 許可 明和七年十月二十八日</p> <p>孝經兒訓 一冊 作者 山崎 右門 板元 丹波屋半兵衛 出願 明和七年八月</p>	<p>許可 明和七年十月二十八日 永代百人一首玉文 一冊 以前「優百人一首」と題せしを此度改題申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和七年九月</p> <p>女大成錦書 一冊 以前「繪合百人一首」と題せしもの、内十一丁「女子載」と題せしもの百三十八丁「繪本教訓草」と題せしもの、内十三丁以上三種を取合せ改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和七年九月</p> <p>世契情氣質 五冊 作者 升屋彦太郎 板元 右同人 出願 明和七年十月二十六日 許可 明和七年十月二十六日</p> <p>和哥藻英小傳 六冊</p>	<p>以前「和哥寄垣」と題せしを此度改題板行申出 板元 和泉屋治郎兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 明和七年十月</p> <p>景緯帖 一冊 筆者 歐陽 詢 板元 河内屋茂兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>絶句帖 一冊 筆者 董 其 昌 板元 河内屋茂兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>狂哥まことの道 一冊 還者 山崎 崎 板元 尼崎屋佐兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>醫療手引草 中編二冊</p>	<p>作者 加藤 玄順 板元 堺屋清兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>四鳴蟬 一冊 校合者 小田 梁菴 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>痘家初心問答 一冊 作者 六角 右門 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>山莊帖 一冊 筆者 橋本 大進 板元 柏原屋清右衛門 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>怪談記野狐名玉 五冊</p>
---	--	---	--

<p>作者 和泉屋幸右衛門 板元 升屋彦太郎 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>女國盡教紳 一冊 作者 甲谷傳左衛門 板元 升屋彦太郎 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>齋部志古夫知八箇祝詞 折本一冊 校正者 山口日向守 板元 田原屋平兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>養神延命録 三冊 作者 山口日向守 板元 田原屋平兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p>	<p>作者 山口日向守 板元 田原屋平兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>おのころ嶋日記 一冊 作者 山口日向守 板元 田原屋平兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>三教全鼎論 一冊 作者 山口日向守 板元 田原屋平兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>浄土要偈 折本一卷 作者 慶 證 寺 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>辨説叩次第 五冊 作者 佐川 盈 路 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p>	<p>作者 彌勒寺不琢 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>洞上伽藍雜記 一冊</p> <p>校正者 高 孟 彪 板元 藤屋彌兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>白石先生鬼神論 二冊</p> <p>作者 野村 方 卿 板元 富士屋長兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>一代道中國之解 一冊</p> <p>校正者 智 暉 板元 丹波屋半兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>般若燈論 五冊</p>	<p>作者 梅 好 板元 譽田屋伊右衛門 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>狂哥浪花丸 一冊</p> <p>作者 加島屋和助 板元 播磨佐兵衛 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>輕口系くぼ種 三冊</p> <p>作者 村上伊兵衛 板元 柏原屋與左衛門 出願 明和七年十一月 許可 明和七年十二月廿七日</p> <p>早引大節用集福集海 一冊</p> <p>作者 明、王元美 板元 江嶋屋庄六 出願 明和七年十一月</p>
--	--	--	---

許可 明和九年六月二日 両面大坂繪圖 一枚摺 作者 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 板元 右 同 人 出願 明和九年五月 許可 明和九年六月二日 増補 攝為大坂繪圖 一枚 作者 柳原源治郎 (京町堀二丁目) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 明和九年六月 許可 明和九年八月二十一日	許可 明和九年八月二十一日 天文選案 一冊 校正者 加藤玄順 (三州吉田) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 明和九年六月 許可 明和九年八月二十一日 町家 分限玉の礎 一冊 作者 半井金 陵 (尾訪町) 板元 升屋彦太郎 (木挽町北ノ町) 出願 明和九年六月 許可 明和九年八月二十一日	板元 右 同 人 (木挽町中ノ町) 出願 明和九年八月 許可 明和九年八月二十一日 浄土和讃管窺鈔 二篇三冊 作者 圓 乘 (河州野口村) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 明和九年八月 許可 明和九年八月二十一日 荆山集(得失論 律呂圖說 學則) 一冊 校正者 佐佐木泉明 (藤右衛門町)	板元 田原屋平兵衛 (京都) 出願 明和九年八月 許可 明和九年八月二十一日 集古印篆 四冊 作者 村上 豐 章 (油町三丁目) 板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 明和九年九月 許可 明和九年九月二十四日
作者 大 休 (備中井山) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 明和九年六月 許可 明和九年八月二十一日 文殊靈驗記 三冊 作者 大 休 (備中井山) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 明和九年六月 許可 明和九年八月二十一日	本朝人相考 二冊 作者 仙 掌 齋 (江戸淺草馬町) 板元 升屋彦太郎 (木挽町北ノ町) 板元 敦賀屋九兵衛 (尾訪町) 出願 明和九年六月 許可 明和九年八月二十一日 食類衆方規矩大成 一冊 増補者 吉文字屋市兵衛	板元 尼崎屋佐兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月 三千世界色修行 五冊 以前「修行金仙傳」と題せしものを改題申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和九年九月 校正者 曾我部式部	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月
出願 明和九年十月 許可 明和九年霜月 俳諧新々式 一冊 校正者 半 化 (加州金屋) 板元 河内屋茂兵衛 (尾訪町) 出願 明和九年十一月	出願 安永二年二月 許可 安永二年三月 投算早卜筮 一枚 作者 高橋 健 藏 (尾訪町二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 清河書畫舫 十二冊 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月
以前「繪本浦千鳥」と題せし二冊物を此度三冊とし改題板行申出 板元 升屋彦太郎 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和九年十一月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 清秘藏 一冊 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月 眞蹟日録 三冊 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月
折本 板元 丹波屋傳兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 似雲上人遺詠 一冊 集者 茅 淳 知 秋 (泉州佐野)	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 嘉祥文章 一冊 筆者 藤原 門 次	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月
新年帖 一冊 筆者 宮 南 退 藏 (高麗橋二丁目) 板元 藤屋彌兵衛	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 新刻四書正文 五冊 以前「四書白文」と題せしを此	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 實繪錄 八冊 校正者 曾 谷 仲 介 (高麗橋二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年閏三月	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月
板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 茶湯手引草 二冊 以前「興茶織有傳」と題せしを此度改題板行申出 板元 丹波屋傳兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 怪妖故事談 五冊 以前「奇疾便覽」と題せしを此度改題板行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月
板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 勤化花實抄 四冊 以前「眞宗安心勤化問答」と題せしを此度改題板行申出 板元 西田屋利兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 大同類聚方 拔萃神方 一冊 校正者 坪井屋吉右衛門 (北堀江五丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)	板元 小刀屋六兵衛 (新天満町) 出願 安永二年閏三月

出願 明和九年十月 許可 明和九年霜月 俳諧新々式 一冊 校正者 半 化 (加州金屋) 板元 河内屋茂兵衛 (尾訪町) 出願 明和九年十一月	出願 安永二年二月 許可 安永二年三月 投算早卜筮 一枚 作者 高橋 健 藏 (尾訪町二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 清河書畫舫 十二冊 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 清秘藏 一冊 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 眞蹟日録 三冊 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年二月 許可 安永二年三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月
以前「繪本浦千鳥」と題せし二冊物を此度三冊とし改題板行申出 板元 升屋彦太郎 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 明和九年十一月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 似雲上人遺詠 一冊 集者 茅 淳 知 秋 (泉州佐野)	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 嘉祥文章 一冊 筆者 藤原 門 次	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 實繪錄 八冊 校正者 曾 谷 仲 介 (高麗橋二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 新刻四書正文 五冊 以前「四書白文」と題せしを此	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月
折本 板元 丹波屋傳兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 茶湯手引草 二冊 以前「興茶織有傳」と題せしを此度改題板行申出 板元 丹波屋傳兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 怪妖故事談 五冊 以前「奇疾便覽」と題せしを此度改題板行申出 板元 河内屋喜兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 勤化花實抄 四冊 以前「眞宗安心勤化問答」と題せしを此度改題板行申出 板元 西田屋利兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月
板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 大同類聚方 拔萃神方 一冊 校正者 坪井屋吉右衛門 (北堀江五丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 新刻四書正文 五冊 以前「四書白文」と題せしを此	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 實繪錄 八冊 校正者 曾 谷 仲 介 (高麗橋二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 茶湯手引草 二冊 以前「興茶織有傳」と題せしを此度改題板行申出 板元 丹波屋傳兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月
板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 勤化花實抄 四冊 以前「眞宗安心勤化問答」と題せしを此度改題板行申出 板元 西田屋利兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 新刻四書正文 五冊 以前「四書白文」と題せしを此	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 實繪錄 八冊 校正者 曾 谷 仲 介 (高麗橋二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年三月 許可 安永二年三月 茶湯手引草 二冊 以前「興茶織有傳」と題せしを此度改題板行申出 板元 丹波屋傳兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年閏三月	板元 藤屋彌兵衛 出願 安永元年十二月

<p>度改題板行申出 板元 富士屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年四月</p> <p>男女相性鏡 一枚摺 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年五月</p> <p>古易扇 扇子両面摺 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年五月</p> <p>畫引六體千字文 一冊 作者 大藏勘解由 (生 玉)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年六月 許可 安永二年七月九日</p> <p>蛻巖文集 後篇八冊 作者 梁田藤九郎 (前 石)</p>	<p>出願 安永二年六月 許可 安永二年七月九日</p> <p>はつね往來 一冊 筆者 兒嶋貞藏 (長堀平右衛門町)</p> <p>板元 本屋伊兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 安永二年六月 許可 安永二年七月九日</p> <p>和哥名所ついまつ 一冊 作者 小川屋喜太郎 (折屋町)</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 出願 安永二年七月 許可 安永二年七月二十五日</p> <p>女詩經寶書 一冊 板元 吉文字屋市兵衛 出願 安永二年七月 許可 安永二年七月二十五日</p> <p>伊勢道中記 一冊 板元 吉文字屋市兵衛 出願 安永二年七月 許可 安永二年七月二十五日</p> <p>北國筋道中記 一冊 板元 吉文字屋市兵衛 出願 安永二年七月 許可 安永二年七月二十五日</p> <p>江戸道中記 一冊 板元 吉文字屋市兵衛 出願 安永二年七月 許可 安永二年七月二十五日</p> <p>西國筋道中記 一冊 右四種の道中記は以前「大道中記」と題し合本にて賣來りしを此度板木買うけ各別本に</p>	<p>仕立て板行いたしたき旨申出 板元 升屋彦太郎 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年七月</p> <p>煙霞綺談 四冊 作者 西村白鳥 (三河吉田)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 出願 安永二年六月 許可 安永二年七月九日</p> <p>也哉抄 一冊 作者 上田東作 (龜州加嶋村)</p> <p>板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 安永二年九月</p> <p>金體年代記大成 兩面一枚摺 作者 野村赤松子 (高麗橋一丁目)</p> <p>板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 安永二年九月</p> <p>蕉門一夜口授 一冊 作者 堀麥水 (加賀金澤)</p>	<p>板元 河内屋茂兵衛 (錦屋町)</p> <p>出願 安永二年九月</p> <p>三教裸はなし 一冊 改題板行申出 板元 松屋久左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年十月</p> <p>風流鐘ヶ岬 五冊 以前「大内裏大友眞鳥」と題せし假名讀本を此度改題板行申出</p> <p>板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年霜月</p> <p>寄園寄所寄 二冊 調點者 尾崎春藏 (長堀橋本町)</p> <p>板元 龜屋安兵衛 (長堀心齋町)</p> <p>出願 安永二年十一月 許可 安永三年二月五日</p> <p>富貴の地基 一冊 作者 半井宗治</p>
--	---	---	--

<p>板元 千種屋萬藏 (土佐堀一丁目)</p> <p>出願 安永二年十一月 許可 安永三年二月五日</p> <p>針灸手引草 二冊 板元 池田屋三郎右衛門 (吳原町)</p> <p>出願 安永二年十一月 許可 安永三年二月十五日</p> <p>陣法國字解 二冊 改題板行申出 板元 河内屋嘉兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年十二月</p> <p>繪本宇治渡 三冊 改題板行申出 板元 池田屋利兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永二年十二月</p> <p>詩經兒訓 二冊 改題板行申出 板元 敦賀屋九兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行</p>	<p>申出年月 安永三年正月</p> <p>繪鏡百人一首 一冊 改題板行申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永三年正月</p> <p>高臺頌釋辨 一冊 作者 窪津貞菴 (小倉町)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 安永三年二月 許可 安永三年二月五日</p> <p>女故事選深見草 一冊 以前「古今百人一首」と題せしものと「繪本深見草」と題せしものとを合せ改題板行申出</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永三年正月</p> <p>女用文章倭錦 一冊 以前「女用文錦車」と題せしもの、最初十八丁を除き扉口繪一丁半彫足し改題板行申出</p>	<p>板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永三年二月</p> <p>教訓竹馬哥 一冊 作者 藤井懶齋 板元 田原屋平兵衛 (車町)</p> <p>出願 安永三年二月 許可 安永三年二月晦日</p> <p>相劍秘記 一冊 作者 前田忠知 (淨國寺町)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 安永三年二月 許可 安永三年二月三十日</p> <p>法顯傳 一冊 調點者 西明寺法照 (城島野野原尾山)</p> <p>板元 丹波屋半兵衛 (長堀心齋橋)</p> <p>出願 安永三年二月 許可 安永三年二月三十日</p> <p>夏御文略解 一冊 作者 先啓 (西美濃不破郡室原村)</p>	<p>板元 柏原屋清右衛門 (龜野町五丁目)</p> <p>出願 安永三年二月 許可 安永三年二月三十日</p> <p>女教操文庫 一冊 以前「采女文」と題せしものに口繪三丁彫足し改題板行申出</p> <p>板元 田原屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永三年二月</p> <p>淨土要言 四冊 作者 慶證寺 (京都)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 安永三年三月 許可 安永三年三月二十八日</p> <p>古新狂哥酒 一冊 作者 白縁齋梅好 (今堀二丁目)</p> <p>板元 しほや三郎兵衛 (今堀二丁目)</p> <p>出願 安永三年三月 許可 安永三年三月二十八日</p> <p>名所假名往來 一冊</p>
--	---	--	--

<p>筆者 小山 源藏 (伏見兩替町三丁目)</p> <p>板元 大坂屋嘉助 (孫左衛門町)</p> <p>出願 安永三年三月二十八日</p> <p>許可 安永三年三月二十八日</p>	<p>許可 安永三年三月二十八日</p> <p>併詰直指傳 一冊</p> <p>作者 其 河内屋茂兵衛 (孫屋町)</p> <p>板元 河内屋茂兵衛</p> <p>出願 安永三年四月</p> <p>許可 安永三年五月朔</p>	<p>許可 安永三年六月二十八日</p> <p>世寶錄 一冊</p> <p>作者 中谷 顯山 (順慶町五丁目)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門</p> <p>出願 安永三年五月</p> <p>許可 安永三年六月二十八日</p>	<p>許可 安永三年六月二十八日</p> <p>珍貨百錢圖 一冊</p> <p>作者 中谷 顯山</p> <p>板元 富士屋長兵衛</p> <p>出願 安永三年五月</p> <p>許可 安永三年六月二十八日</p>
<p>筆者 出口與三左衛門 (通七丁目)</p> <p>板元 大坂屋嘉助 (孫左衛門町)</p> <p>出願 安永三年三月二十八日</p> <p>許可 安永三年三月二十八日</p>	<p>併詰五子稿 一冊</p> <p>作者 吉分 大魯 (通書町)</p> <p>板元 河内屋茂兵衛 (孫屋町)</p> <p>出願 安永三年四月</p> <p>許可 安永三年五月朔</p>	<p>投扇式 一冊</p> <p>作者 松本伊兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p> <p>出願 安永三年五月</p> <p>許可 安永三年六月二十八日</p>	<p>新齋夜話 五冊</p> <p>作者 三橋藤右衛門 (東郡)</p> <p>板元 田原屋平兵衛 (車町)</p> <p>出願 安永三年五月</p> <p>許可 安永三年六月二十八日</p>
<p>大乘掌珍論 一冊</p> <p>調點者 大 幻 (生玉觀音院)</p> <p>板元 丹波屋牛兵衛 (心齋町)</p> <p>出願 安永三年三月二十八日</p> <p>許可 安永三年三月二十八日</p>	<p>玉のかけはし 二冊</p> <p>作者 春木 幸次 (松原町)</p> <p>板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)</p> <p>出願 安永三年四月</p> <p>許可 安永三年五月朔</p>	<p>浄土門三家安心大意 一冊</p> <p>校正者 先 啓 (美濃)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目)</p> <p>出願 安永三年五月</p> <p>許可 安永三年六月二十八日</p>	<p>道の枝折 二冊</p> <p>以前「併詰天地人」と題せしを改題板行申出</p> <p>板元 河内屋茂兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安永三年六月</p>
<p>本朝千字文 一冊</p> <p>筆者 出口與三左衛門 (通七丁目)</p> <p>板元 書物屋久藏 (玉木町)</p> <p>幼少に付代判 彦 太郎 (安永三年三月)</p>	<p>弄錢記 一冊</p> <p>作者 中谷 顯山 (順慶町五丁目)</p> <p>板元 柏原屋清右衛門</p> <p>出願 安永三年五月</p>	<p>高士傳 三冊</p> <p>作者 菅、皇市 謙 (順慶町五丁目)</p> <p>板元 柏原屋與左衛門</p> <p>出願 安永三年五月</p>	<p>四書 三冊</p> <p>片假名付再板申出</p> <p>板元 秋田屋市兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安永三年六月</p>

<p>救病不邪秘方 一冊</p> <p>作者 辻林喜右衛門 (泉州三林)</p> <p>板元 田原屋平兵衛 (車町)</p> <p>出願 安永三年六月</p> <p>許可 安永三年七月八日</p>	<p>神國蘆分草 三冊</p> <p>以前「神道俗説問答」と題せしを此度改題板行申出</p> <p>板元 和泉屋卯兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安永三年六月</p>	<p>主人帖 一冊</p> <p>筆者 田上之 憲 (八幡)</p> <p>板元 大和屋次兵衛 (龜井町)</p> <p>出願 安永三年八月</p>	<p>草訣百韻國字解 一冊</p> <p>作者 善 春 卿 (南木町三丁目)</p> <p>板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 安永三年八月</p>
<p>女要福壽臺 一冊</p> <p>作者 高田嘉平次 (初瀬町)</p> <p>板元 堺屋清兵衛 (初瀬町)</p> <p>出願 安永三年六月</p> <p>許可 安永三年七月八日</p>	<p>筆道指南大成 一冊</p> <p>以前「和漢字府諺解」と題せしを此度改題板行申出</p> <p>板元 和泉屋卯兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安永三年六月</p>	<p>元明清書畫人名錄 二冊</p> <p>作者 近藤 齋 宮 (京郡)</p> <p>出願 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p>	<p>須磨詣 一冊</p> <p>筆者 出口與三左衛門 (通七丁目)</p> <p>板元 大坂屋嘉助 (孫左衛門町)</p> <p>出願 安永三年十月</p> <p>許可 安永三年十一月</p>
<p>畫圖珍選 三冊</p> <p>畫工 山本 越 鳥 齋 (天満南木町)</p> <p>板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)</p> <p>出願 安永三年六月</p> <p>許可 安永三年七月八日</p>	<p>投扇錄 一枚摺</p> <p>曲扇興圖式 一冊</p> <p>右は京都板木屋又四郎錢屋儀介兩人所有の板木を此度買受け板行申出</p> <p>板元 藤屋彌兵衛</p> <p>右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行</p> <p>申出年月 安永三年八月</p>	<p>主 人 帖 一冊</p> <p>筆者 田上之 憲 (八幡)</p> <p>板元 大和屋次兵衛 (龜井町)</p> <p>出願 安永三年八月</p>	<p>天象管窺鈔 一冊</p> <p>出願 安永三年十月</p> <p>許可 安永三年十一月</p>
<p>産家須知達生編 一冊</p> <p>作者 清、何 拙 園 (南久太郎町六丁目)</p> <p>板元 河内屋喜兵衛</p> <p>出願 安永三年六月</p> <p>許可 安永三年七月八日</p>	<p>奇言百人一首 一冊</p> <p>作者 野 田 内 記 (北平野町八丁目)</p> <p>板元 河内屋茂兵衛 (孫屋町)</p> <p>出願 安永三年十月</p> <p>許可 安永三年十一月</p>	<p>本 原 泉 第 二 帖 一冊</p> <p>校正者 細合八郎右衛門 (今橋二丁目)</p> <p>板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)</p> <p>出願 安永三年十月</p> <p>許可 安永三年十一月</p>	<p>治痢經驗 一冊</p> <p>附和漢考</p> <p>劉補者 加藤 玄 順 (三河)</p> <p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)</p>

選者 雪緣齋一好 (今鹿二丁目)
板元 鹽屋三郎兵衛 (今鹿一丁目)
出願 安永四年十一月
〔附記〕本書の出願に對し安永四年十一月二十五日仔細にあり不許可のよし仰渡さる

雜俳畫合おろのかどみ 一冊
作者 得 紫 軒
板元 藤屋善七
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永四年十一月

小倉百人一首姫鏡 一冊
舊板の「小倉百人一首」に口畫三丁半奥半丁を彫り足し改題板行申出
板元 本屋清左衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永四年十一月

刪補方要 五冊
以前「醫方提要」と題せしを此度改題板行申出
板元 吉文字屋市兵衛

右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永四年十二月

唐絶十首 一冊
筆者 明、董其昌
板元 警田屋伊右衛門 (博勢町)
出願 安永四年十二月
許可 安永四年十二月廿三日

立身寶貨占 一冊
作者 文 坡 (京都)
板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)
出願 安永四年十二月
許可 安永四年十二月廿三日

正拍子筌 一冊
内百番
増補板行申出
板元 奈良屋善助 (おくび町)
出願 安永四年十二月

和字功過自知錄 一冊
作者 田中 泰 雅 (博後町)
板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 安永五年二月

許可 安永五年二月十八日

木蘭帖 石摺本 一冊
筆者 端山 圖南 (舟越町)
板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 安永五年二月
許可 安永五年二月十八日

早引節用集 一冊
再板願出
作者 山下 重政 (河州)
板元 柏原屋與左衛門 (扇屋町五丁目)
出願 安永五年二月
許可 安永五年二月十八日

早引節用集 眞字付 一冊
作者 山下 重政 (河州)
板元 柏原屋與左衛門 (扇屋町五丁目)
出願 安永五年二月
許可 安永五年二月十八日

數學松社編 一冊
作者 多田 尙 伯

板元 河内屋喜兵衛 (讃州高松)
出願 安永五年二月
許可 安永五年二月十八日

勾股捷徑 一冊
作者 多田 尙 伯 (讃州高松)
板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 安永五年二月
許可 安永五年二月十八日

鎮宅靈符經 折本一冊
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永五年三月

蘭亭記十八跋譯文 一冊
作者 北田 宜 卿 (唐物町四丁目)
板元 千種屋新右衛門 (江戸堀三丁目)
板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)
出願 安永五年三月
許可 安永五年三月二十九日

東岳先生筆蹟 六冊

再板増補願出
作者 原田吉右衛門 (豊前中津)
板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
板元 田原屋平兵衛 (車町)
出願 安永五年三月
許可 安永五年三月二十九日

立春嘯大集 十冊
撰者 平野屋清助 (上難波町)
撰者 奈良屋茂作 (備前町)
板元 書物屋久藏 (天木町)
出願 安永五年三月
許可 安永五年三月二十九日

伊勢物語章甫鈔 八冊
作者 組山 久 次 (内平野町)
板元 河内屋八三郎 (小濱町)
出願 安永五年四月
許可 安永五年四月二十二日

狂歌いそちどり 一冊
選者 白縁齋梅好 (今鹿二丁目)

右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永五年四月

難波丸綱目 七冊
古板のうち所々彫替え板行いたしたき由申出
板元 正本屋清兵衛
板元 橋屋忠兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永五年九月

産家養草 一冊

板元 志保屋三郎兵衛 (今鹿二丁目)
出願 安永五年四月
許可 安永五年四月二十二日

難波ねり物番組 一冊
選者 素 行 (天満小橋町)
板元 永田屋保太郎 (天満八丁目)
出願 安永五年四月
許可 安永五年四月二十二日

朱子治教本要 二冊
編者 山口剛三郎 (上人町)
板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 安永五年五月
許可 安永五年六月二十二日

夕涼新話集 五冊
撰者 堀屋利三郎
板元 書物屋久藏 (天木町)
出願 安永五年五月
許可 安永五年六月二十二日

本朝千字文 石摺 二冊
筆者 正 月 堂

許可 安永五年二月十八日

立書新説 一冊
作者 水谷 莊 輔 (天満砂原)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 安永五年六月
許可 安永五年六月十六日

中華龜卜考 一冊
作者 水谷 莊 輔 (天満砂原)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 安永五年六月
許可 安永五年六月十六日

産家養草 一冊
作者 笹 井 茂 菴 (淡路町切町)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 安永五年六月
許可 安永五年六月十六日

神山先生學範 一冊

作者 森 本 量 平
板元 松屋久左衛門 (元 郡 町)
出願 安永五年八月

繪本浪花のなかめ 五冊
作者 陰山三郎兵衛 (今鹿二丁目)
板元 大和屋彌兵衛 (備後町五丁目)
出願 安永五年八月

濟世養生訓 三冊
以前「夜光珠」と題せしもの此度改題板行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて閉届け板行
申出年月 安永五年八月

<p>内容少しく變更再板願出 作者 笹井茂 卷 板元 秋田屋市兵衛 (長路町切丁) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>新撰出し番組 五冊 撰者 住吉屋半兵衛 板元 書物屋久藏 (近江町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>狂哥今はむかし 一冊 集者 譽田屋伊右衛門 (博勢町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>時勢話綱目 五冊 撰者 紅屋卯兵衛 (南渡邊町) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>
<p>佩文對語 一冊 作者 河野忠右衛門 (鶴崎常九内) 板元 敦賀屋九兵衛 (鎭屋町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>月花通鑑 五冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>東涯先生消息 一冊 校合者 高庄次郎 (難波村) 板元 河内屋茂兵衛 (鎭屋町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>時勢話大全 五冊 撰者 橋屋平兵衛 (南竹屋町) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>
<p>順會咄獻立 五冊 撰者 澁川周太 (金澤町) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>萬曆兩面鑑 折本一冊 再板願出 作者 野村方卿 (高麗橋二丁目) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>東岳先生學的 二冊 作者 原田吉右衛門 (豊前中津) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>秦曲笛譜 一冊 作者 上田重羽 (京郡) 板元 奈良屋善助 (をくび町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>
<p>智惠競咄捕 五冊 撰者 大和屋喜七 (備後町三丁目) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>皇明詠物詩 一冊 以前「明詩輯門十詠」と題せしを此度改題板行申出 板元 菊屋宗兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 安永六年四月</p>	<p>四書國讀剛正 十冊 調點者 三宅才次郎 (尾崎町二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>定本洛書新説 眞字一冊 作者 水谷莊輔 (天満砂原) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永六年二月 許可 安永六年二月二十六日</p>
<p>俳諧梅翁發句むかし口 一冊 編者 上田無腸 (尾崎町二丁目) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永六年二月 許可 安永六年二月二十六日</p>	<p>當世足袋形 一枚 板元 鹽屋三郎兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 安永六年四月</p>	<p>八橋流琴組證哥集 一冊 述者 龜嶋檢校 (木挽町南町) 述者 菊園勾當 (堂崎左衛門町) 板元 柏原屋清右衛門 (高麗橋五丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>張氏醫通本草目 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽中ノ町) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽中ノ町) 出願 安永六年十月 許可 安永六年十月二十七日</p>
<p>和歌濱つと 一冊 作者 小川屋友輔 (折屋町) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 出願 安永六年二月 許可 安永六年二月二十六日</p>	<p>名乗早鑑 一冊 作者 大藏勘解由 (生玉) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>三笏命字訓釋義 一冊 作者 義 (住吉中在室) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>現世獨案内續百首 一冊 作者 素山 (阿州豊田村) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永六年十月 許可 安永六年十月二十七日</p>
<p>新みなし栗 二冊 上巻 紙數三十三丁 始句 梅の花天晴春をもてなしけり 終句 雪はえや寒臘策たへ湖の端 下巻 紙數三十四丁 始句 胡鬼の實の吸物椀にすはれけり 終句 見ゆるすへし金澤樽庵 水 板元 河内屋茂兵衛 (鎭屋町)</p>	<p>黃庭内景經 一冊 筆者 菅、王、義之 板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>狂哥三津浦 一冊 撰者 白縁齋梅好 (今橋二丁目) 板元 鹽屋三郎兵衛 (今橋二丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>會約 一冊 筆者 高莊次郎 (木挽北町)</p>

<p>新撰出し番組 五冊 撰者 住吉屋半兵衛 板元 書物屋久藏 (近江町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>月花通鑑 五冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>東涯先生消息 一冊 校合者 高庄次郎 (難波村) 板元 河内屋茂兵衛 (鎭屋町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>時勢話綱目 五冊 撰者 紅屋卯兵衛 (南渡邊町) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>
<p>佩文對語 一冊 作者 河野忠右衛門 (鶴崎常九内) 板元 敦賀屋九兵衛 (鎭屋町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>月花通鑑 五冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>東岳先生學的 二冊 作者 原田吉右衛門 (豊前中津) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>時勢話大全 五冊 撰者 橋屋平兵衛 (南竹屋町) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>
<p>順會咄獻立 五冊 撰者 澁川周太 (金澤町) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>萬曆兩面鑑 折本一冊 再板願出 作者 野村方卿 (高麗橋二丁目) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>東岳先生學的 二冊 作者 原田吉右衛門 (豊前中津) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>秦曲笛譜 一冊 作者 上田重羽 (京郡) 板元 奈良屋善助 (をくび町) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>
<p>智惠競咄捕 五冊 撰者 大和屋喜七 (備後町三丁目) 板元 書物屋久藏 (茨木町) 出願 安永五年十月 許可 安永五年十月二十七日</p>	<p>皇明詠物詩 一冊 以前「明詩輯門十詠」と題せしを此度改題板行申出 板元 菊屋宗兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 安永六年四月</p>	<p>四書國讀剛正 十冊 調點者 三宅才次郎 (尾崎町二丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永五年十一月 許可 安永五年十二月十六日</p>	<p>定本洛書新説 眞字一冊 作者 水谷莊輔 (天満砂原) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永六年二月 許可 安永六年二月二十六日</p>
<p>俳諧梅翁發句むかし口 一冊 編者 上田無腸 (尾崎町二丁目) 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永六年二月 許可 安永六年二月二十六日</p>	<p>當世足袋形 一枚 板元 鹽屋三郎兵衛 右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行 申出年月 安永六年四月</p>	<p>八橋流琴組證哥集 一冊 述者 龜嶋檢校 (木挽町南町) 述者 菊園勾當 (堂崎左衛門町) 板元 柏原屋清右衛門 (高麗橋五丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>張氏醫通本草目 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽中ノ町) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽中ノ町) 出願 安永六年十月 許可 安永六年十月二十七日</p>
<p>和歌濱つと 一冊 作者 小川屋友輔 (折屋町) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 出願 安永六年二月 許可 安永六年二月二十六日</p>	<p>名乗早鑑 一冊 作者 大藏勘解由 (生玉) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>三笏命字訓釋義 一冊 作者 義 (住吉中在室) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>現世獨案内續百首 一冊 作者 素山 (阿州豊田村) 板元 田原屋平兵衛 (車町) 出願 安永六年十月 許可 安永六年十月二十七日</p>
<p>新みなし栗 二冊 上巻 紙數三十三丁 始句 梅の花天晴春をもてなしけり 終句 雪はえや寒臘策たへ湖の端 下巻 紙數三十四丁 始句 胡鬼の實の吸物椀にすはれけり 終句 見ゆるすへし金澤樽庵 水 板元 河内屋茂兵衛 (鎭屋町)</p>	<p>黃庭内景經 一冊 筆者 菅、王、義之 板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>狂哥三津浦 一冊 撰者 白縁齋梅好 (今橋二丁目) 板元 鹽屋三郎兵衛 (今橋二丁目) 出願 安永六年六月 許可 安永六年八月五日</p>	<p>會約 一冊 筆者 高莊次郎 (木挽北町)</p>

板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永七年八月

女文章大成 一冊
古板に口繪及び目錄十二丁を
増補板行申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永七年八月

四書讀本白文 五冊
校正者 梁田藤九郎
板元 教賀屋九兵衛
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

袖中童子往來万寶藏 一冊
作者 吉文字屋市左衛門
板元 吉文字屋市兵衛
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

醫療手引草別錄 二冊

作者 加藤玄順 (三州吉田)
板元 吉文字屋市兵衛
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

難經發揮 一冊
作者 菅井文平 (南木輪町)
板元 柏原屋與左衛門
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

神方占 一冊
占牌五十枚附
作者 水谷君龍 (備中)
板元 藤屋彌兵衛
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

狂哥無心抄 一冊
作者 如雲紫笛 (野田村)
板元 藤屋彌兵衛
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

作者 畫師 升屋兵助 (大豆葉町)
板元 千草屋新右衛門 (江戸堀三丁目)
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

怪異談叢 五冊

静舎雜著 一冊
校合人 高莊次郎 (安堂寺町五丁目)
板元 いづみや文助 (御池通六丁目)
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十八日

報恩巢枝錄 一冊
作者 釋 圓鏡 (攝津奈良井村)
板元 教賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十七日

兩祖師續史傳 三冊
校合人 水月和尚 (内平野町二丁目)
板元 天王寺屋庄兵衛
出願 安永七年八月
許可 安永七年十月十七日

作者 久保津貞菴 (小倉町)
板元 藤屋彌兵衛 (高屋橋一丁目)
出願 安永七年十月
許可 安永七年十一月二日

食療手引草 一冊

食療箋 兩面一枚摺
作者 久保津貞菴 (小倉町)
板元 藤屋彌兵衛 (高屋橋一丁目)
出願 安永七年十月
許可 安永七年十一月二日

悉曇章羅文 一冊
校正者 法千 (河内高井田村)
板元 藤屋彌兵衛 (高屋橋一丁目)
出願 安永七年十月
許可 安永七年十一月二日

世間錢神論 四冊
作者 田中甚助 (北久寶寺町四丁目)
板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目)
出願 安永七年十月

許可 安永七年十一月二日

元明清書畫人名錄捷索 三冊
編者 淺野弘篤 (高屋橋一丁目)
板元 柏原屋清右衛門 (高屋橋一丁目)
出願 安永七年十月
許可 安永七年十一月二日

外題年鑑 一冊
此度十四丁増補板行申出
板元 増田屋源兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永七年十二月

狂歌寐覺の花 一冊
板元 本屋新右衛門
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永七年十二月十二日

醫方集解國字辨 八冊
以前「錦袋醫方詳解」と題せし
を此度改題板行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行

申出年月 安永八年正月

御流義名王帖 一冊
以前「和漢筆仙集」と題せしも
のを二分しその一分を此度改
題板行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永八年正月

瀧本墨寶帖 一冊
以前「和漢筆仙集」と題せしも
のを二分しその一分を此度改
題板行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永八年正月

長雄書札大成 一冊
以前「新年帖」「鶴鳴帖」「常用
帖」「初學手本」と題せし四種
のものに「示童用文章」の口繪
十四丁と奥七丁とを加へ此度
改題板行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永八年正月

校合者 木村嘉助 (南久寶寺町五丁目)
板元 柏原屋嘉助 (博勢町)

町人常の道 一冊

筆者 篠原門治 (新天満町)
板元 小刀屋六兵衛 (津村東ノ町)
出願 安永八年二月
許可 安永八年三月二十五日

御家流慶賀帖 一冊

筆者 趙子昂 (高屋橋一丁目)
板元 藤屋彌兵衛
出願 安永八年二月
許可 安永八年三月二十五日

法興寺碑銘 一冊

筆者 趙子昂 (高屋橋一丁目)
板元 藤屋彌兵衛
出願 安永八年二月
許可 安永八年三月二十五日

祝枝山楷書千字文 一冊

雙鈎者 高莊治郎 (安堂寺町五丁目)
板元 いづみや文助 (御池通六丁目)
出願 安永八年二月
許可 安永八年三月二十五日

湘雲瑣語 二冊
作者 祇園與一 (紀州)

金匱要略國字解 五冊
中編 後編
作者 古野了作 (京都)

俗家日用文章 一冊
再板申出
板元 小刀屋六兵衛
右板元よりの申出でを本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永八年三月

詠哥奥儀抄 三冊

此度「順禮歌要解」と改題板行
 申出 富士屋長兵衛
 板元 柏原屋清右衛門
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年三月二十三日

増補外題年鑑 一冊
 古板の「外題年鑑」に十六丁彫
 足し板行申出
 板元 増田屋源兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年四月七日

文林節用筆海往来 小本 一冊
 作者 山本 序 因 (淨國寺町)

板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
 出願 安永八年四月

痘瘡秘要 一冊
 作者 因幡 要人 (養徳町)

板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中ノ町)
 出願 安永八年四月

驚座奇談 五冊
 作者 播磨屋九兵衛 (油町三丁目)
 出願 安永八年四月

橋窓茶話初編 一冊
 作者 雨森藤五郎 (對馬)
 板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目)
 出願 安永八年四月

女房百人一首 一冊
 校合者 高庄二郎 (安堂寺町五丁目)
 板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目)
 出願 安永八年四月

醫案千金要方合卷 二冊
 以前「其價集」と題し五冊物なりしを合卷二冊とし改題板行申出
 板元 河内屋喜兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年五月八日

而一算相場占 一冊
 作者 中井 善太

作者 氏家 明慶 (長坂平右衛門町)
 板元 龜屋安兵衛 (長坂心齋町)
 出願 安永八年五月
 許可 安永八年六月
 (附記) 本書は一度却下されしが再度の出願により板行を許可さる

算法得幸録 一冊
 増補板行願出
 作者 岸 與惣右衛門 (南久太郎町四丁目)
 板元 池田屋與兵衛 (南助四郎町)
 出願 安永八年五月
 (附記) 本書板行のこと不許可となる

正非物篇 六冊
 作者 五井藤九郎 (大坂)
 板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目)
 出願 安永八年五月
 許可 安永八年五月二十一日

編非微 八冊
 作者 中井 善太

板元 敦賀屋六兵衛 (尾崎町一丁目)
 出願 安永八年五月
 許可 安永八年五月二十一日

賣得塵劫記大全
 以前「ちんから記商賣鏡」と題せしものを書換へそのうち十二丁は再板改題の義申出
 板元 正本屋小兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年五月

大福塵劫記商賣鏡
 以前「ちんから記商賣鏡」と題せしを此度改題板行申出
 板元 正本屋小兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年五月

南海先生文集 五冊
 輯者 田中 履道 (紀州若山)
 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
 出願 安永八年六月
 許可 安永八年七月十三日

はい四季類部 一冊
 作者 五 晴 (城州伏見)

板元 河内屋茂兵衛 (筋屋町)
 出願 安永八年六月
 許可 安永八年七月十三日

法花歌題語 一冊
 作者 橋屋忠兵衛 (南笠屋町)

板元 右 同人
 出願 安永八年六月
 許可 安永八年七月十三日

神名書 一冊
 作者 大宮 充長 (阿波)
 板元 河内屋茂兵衛 (筋屋町)
 出願 安永八年七月
 許可 安永八年八月十九日

武繪本大江山 三冊
 作者 畫工 大和屋庄兵衛 (天王寺橋屋町)

板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
 出願 安永八年七月
 許可 安永八年八月十九日

急用間合即座引 大本一冊
 右は連城節用外題替開届遺し
 板元 吉文字屋市兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年七月

文微明涓水帖 一冊
 筆者 文 衡山
 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
 出願 安永八年八月
 許可 安永八年十一月十四日

初開帖 一冊
 筆者 趙 子昂
 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)
 出願 安永八年八月
 許可 安永八年十一月十四日

妙術博物筌 一冊
 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)

板元 右 同人
 出願 安永八年八月
 許可 安永八年十一月十四日

小謠明詠集 一冊
 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁)

作者 前川 善兵衛 (鳴町一丁目)
 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
 出願 安永八年八月
 許可 安永八年十一月十四日

永曆小箋 兩面一枚摺
 作者 野村 方 卿 (高麗橋一丁目)
 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
 出願 安永八年八月
 許可 安永八年十一月十四日

萬年即座寶 兩面一枚摺
 作者 野村 方 卿 (高麗橋一丁目)
 板元 富士屋長兵衛 (高麗橋一丁目)
 出願 安永八年八月
 許可 安永八年十一月十四日

仲景方詠 一冊
 作者 横井 玄洞 (城州橋濱村)
 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
 出願 安永八年九月

蘭齋畫譜 八冊
 畫工 森 蘭 齋 (城州橋濱村)
 板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
 出願 安永八年九月

早見占 一冊
 以前「晴明秘傳抽籤」と題せしを此度改題板行申出
 板元 千草屋新右衛門
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年九月

貴賤心體直し 二冊
 以前「苦樂さとし草」と題せしを此度改題板行申出
 板元 吉文字屋市兵衛
 右板元よりの申出でを本屋行
 司にて開届け板行
 申出年月 安永八年十月

狂歌繪本 大津みやげ 一冊
 撰者 鹽屋三郎兵衛 (今橋二丁目)
 板元 右 同人
 出願 安永八年十月
 許可 安永八年十一月八日

改正商賣往來

改正者 岸 通 昌 一冊
板元 池田屋與兵衛 (南 郡)
出願 安永八年十月 (南郡四郎町)
許可 安永八年十一月八日

妙術 天狗通

作者 伏見屋卯兵衛 (豐後町)
板元 千種屋新右衛門 (江戸堀三丁目)
出願 安永八年十月
許可 安永八年十一月八日

十二月帖

行草假名書體 一冊
筆者 細合 半齋 (北島屋町)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 安永八年十月
許可 安永八年十一月八日

早覺傳授百人一首

以前「安詩經寶章」と題せしもの、口にて六丁奥にて七丁増補し此度改題板行願出
作者 吉文字屋市兵衛

板元 右 同 (木挽町中之町)
出願 安永八年十月
許可 安永八年十一月八日

新童子往來万代寶鑑

再板申出 一冊
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永八年十月

一字類題抄

以前「横題林抄」と題せしを此度改題板行申出 四冊
板元 池田屋與兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永八年十一月

左氏捷覽

校合者 高庄 二郎 (安堂寺町五丁目)
板元 河内屋茂兵衛 (鶴屋町)
出願 安永八年十一月廿九日
許可 安永八年十一月廿九日

琴曲絲の錦

撰者 田原 垂枝 (東町)

板元 田原屋平兵衛 (東町)
出願 安永八年十一月
許可 安永八年十一月廿九日

普門 品折本一帖

筆者 趙 子 昂
板元 増田屋源兵衛 (豊町二丁目)
出願 安永八年十一月
許可 安永八年十一月廿九日

本朝武徳名鑑記

以前「御伽平家」と題せしものと「風流扇車」と題せしものとを合せ此度改題板行申出 十冊
板元 和泉屋卯兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永八年十二月

南海道名所志

以前「國花萬葉記」と題せしもの、内を抜擢にし改題板行申出 一冊
板元 鹽屋三郎兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永八年十二月

翁道の枝折

一冊

以前「翁の文」と題せしを此度改題板行申出
板元 伏見屋嘉兵衛 (江戸堀)

右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年二月

西國順禮道中繪圖

折本 一冊
右改題板行申出
板元 河内屋喜兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年二月

四民通用 天文即鑑

折本 一冊
以前「懐中天文臺」と題せしを此度改題板行申出
板元 富士屋長兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

二水合流圖折本

一冊
以前「川繪圖」と題せしを此度改題板行申出
板元 富士屋長兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行

申出年月 安永九年二月

瀧本二水帖

一冊
以前「瀧本清流帖」と題せしもの、上巻一冊を此度改題板行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年二月

易學小筌

一冊
再板申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年二月

大福塵劫記商賣鑑

一冊
以前「萬徳塵劫記」と題せしを此度改題板行申出
板元 正本屋小兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年二月

賣得塵劫記大全

一冊
以前「萬徳塵劫記」と題せしものに新に十七丁彫足し此度改題板行申出
板元 泉 屋 文 助 (御池通六丁目)
出願 安永九年二月十四日
許可 安永九年二月二十八日

題板行申出

板元 正本屋小兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年二月

桃李園序帖

一冊
折數二十折半
筆者 篠 應 道 (新船町)
板元 千草屋平兵衛 (江戸堀三丁目)
出願 安永九年二月十四日
許可 安永九年二月二十八日

義之筆陣圖

一冊
丁數四丁
筆者 晉、王 義 之
板元 本屋清左衛門 (唐物町四丁目)
出願 安永九年二月十四日
許可 安永九年二月二十八日

南窓筆記

四冊
本文丁數七十五丁
校合者 伊澤 大 助 (山崎町)
板元 泉 屋 文 助 (御池通六丁目)
出願 安永九年二月十四日
許可 安永九年二月二十八日

源 語 梯 三冊

本文丁數一百五十九丁
作者 關 慶 次 郎 (城州伏見)
板元 鹽 屋 平 助 (南久太郎町六丁目)
出願 安永九年二月十四日
許可 安永九年二月二十八日

富貴 早川先生家業訓

一冊
以前「商人身持鑑」と題せしものを此度改題板行申出
板元 池田屋與兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 安永九年四月

花 曆 詩

一冊
丁數七十一丁
校正人 木村 孔 恭 (北堀江五丁目)
板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)
出願 安永九年四月
許可 安永九年五月九日

三之助行狀記

四冊
丁數六十二丁
作者 梅 柳 菴

板元 橋屋忠兵衛 (北島屋町)
出願 安永九年四月 (南堂屋町)
許可 安永九年五月九日

大廣益會玉篇大全

十二冊
作者 毛利 貞 齋
板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)
出願 安永九年四月
許可 安永九年五月九日 (附記) 本書は再板願出

歌道人物志

一冊
作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)
板元 右 同
出願 安永九年四月
許可 安永九年五月九日

文章雙魚

一冊
丁數六十五丁
筆者 宮 南 耕 齋 (高麗橋一丁目)
板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)
出願 安永九年四月
許可 安永九年五月九日

<p>節風軒の玉水折本 一冊 作者 君家利兵衛 (尾崎町一丁目) 板元 奈良屋善助 (阿波座おきび町) 出願 安永九年四月 許可 安永九年五月九日</p> <p>御靈宮祭禮渡御圖 一冊 作者 大津屋新右衛門 (瀬戸物町) 畫師 伏見屋宇兵衛 (豊嶋町) 板元 橋屋忠兵衛 (南笠屋町) 出願 安永九年四月 許可 安永九年六月六日</p> <p>興御書嚙滯錄 五冊 作者 西生寺 (攝津奈良井村) 丁數 一百六十二丁 板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 安永九年五月十四日 許可 安永九年六月六日</p> <p>夜鶴庭訓抄 一冊 校合 高莊次郎 (安堂寺町五丁目)</p>	<p>板元 河内屋茂兵衛 (鈴屋町) 出願 安永九年五月十四日 許可 安永九年六月六日</p> <p>女房三十六哥仙 一冊 筆者 渡邊素平 (京都) 板元 河内屋茂兵衛 (鈴屋町) 出願 安永九年五月十四日 許可 安永九年六月六日</p> <p>楊窓茶話續編 二冊 作者 雨森藤五郎 (對州) 丁數 七十二丁 板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目) 出願 安永九年五月十四日 許可 安永九年六月六日</p> <p>卜養狂歌集拾遺 一冊 撰者 半井宗球 (泉州) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 安永九年八月 許可 安永九年九月二十九日</p> <p>狂歌兩節東街道 一冊</p>	<p>撰者 平野屋清兵衛 (通書町) 板元 河内屋八兵衛 (南久太郎町五丁目) 出願 安永九年八月 許可 安永九年九月二十九日</p> <p>康熙字典 索引 一冊 作者 都賀六藏 (老松町) 板元 敦賀屋九兵衛 (鈴屋町) 出願 安永九年八月 許可 安永九年九月二十九日</p> <p>石室詩抄 三冊 作者 紫山 (泉州津和野) 板元 松屋久左衛門 (道徳町五丁目) 出願 安永九年八月 許可 安永九年九月二十九日</p> <p>八木相場帳追考 一冊 作者 伏見屋嘉兵衛 (江戸堀四丁目) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 安永九年八月 許可 天明元年五月十五日</p>	<p>奥御書繪抄 二冊 作者 西生寺 (攝津奈良井村) 板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 安永九年八月 許可 安永九年九月二十九日 板行差扣願出</p> <p>本茶釜器價小本 一冊 板元 柏原屋清右衛門 (願慶町五丁目) 出願 安永九年九月</p> <p>繪本通寶志 十冊 再板申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永九年八月</p> <p>醫道日用綱目 横本 一冊 再板申出 板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永九年八月</p> <p>早引節用集 横本 一冊 眞字付 再板申出</p>
--	--	---	--

<p>板元 柏原屋清右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永九年八月</p> <p>万代用文章大成 一冊 以前「壽永用文章」と題せしもの を改題板行申出 板元 和泉屋文助 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永九年八月</p> <p>奇妙龜躰折本 一冊 以前「鱗鳳龜龍」と題せしもの を此度改題板行申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永九年八月</p> <p>誹諧通俗志 二冊 再板願出 作者 椎本才磨 板元 秋田屋徳右衛門 (中之島常安裏町) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>刪補小字彙 一冊</p>	<p>再板願出 作者 毛利田庄太郎 板元 秋田屋徳右衛門 (中之島常安裏町) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>縁綿代銀割方附 一冊 作者 淺井呼溪 (大坂中之島) 板元 秋田屋徳右衛門 (中之島常安裏町) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>繪本蝦夷錦 三冊 作者 畫工 大和屋庄兵衛 (安堂寺町三丁目) 板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>庶辨 一冊 作者 米屋徳兵衛 (百間町) 板元 河内屋平兵衛 (阿波橋町) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>蝦夷志略 二冊</p>	<p>作者 畫工 酢屋平十良 (江戸堀五丁目) 板元 和泉屋文助 (願慶町六丁目) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>醫範 一冊 作者 明、潘掛碩甫 板元 和泉屋文助 (願慶町六丁目) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>雲林石譜 一冊 作者 宋、杜節季揚 板元 和泉屋文助 (願慶町六丁目) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p> <p>三法同卷 一冊 (設罪要行法 受用三水要行法 護命放生軌儀法) 調點者 大象 (山小徳) 板元 丹波屋半兵衛 (心齋町) 出願 安永九年九月 許可 安永九年十月七日</p>	<p>御流儀名王帖 一冊 以前「名公墨寶」と題せしもの の内抜改題板行申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 安永九年十月</p> <p>万寶即座引 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 板元 右 同 人 出願 安永九年十月 許可 安永九年十月二十二日</p> <p>四季分平仄附袖中節用集 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 板元 右 同 人 出願 安永九年十月 許可 安永九年十月二十二日</p> <p>永世節用文選家寶藏 一冊 作者 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町) 板元 右 同 人 出願 安永九年十月</p>
--	---	---	--

改正日本道中行程記

許可 安永九年十月二十二日
作者 吉文字屋市兵衛
板元 右 同 人
出願 安永九年十月
許可 安永九年十月二十二日

數寄道具 茶器價録

作者 小川屋清右衛門
板元 柏原屋清右衛門
出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日

尚堂書簡

筆者 筒井新太郎
板元 鹽屋三郎兵衛
出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日

蘇文小品

校合人 岡 澹齋
板元 和泉屋文助
出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日

出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日
作者 大江屋聽介
板元 河内屋平兵衛
出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日

繪本拾葉二編

作者 繪師 雪 蕉 齋
板元 柏原屋與左衛門
出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日

春日山記

作者 寂照寺溥泉
板元 寂 照 寺
出願 安永九年十一月
許可 安永九年十二月二日

嘉點孝經

再板申出

板元 柏原屋佐兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永九年十二月

新大成録のあらべ

以前「新大成録のあらべ」と題
せしものに新増補し板行の
旨申出
板元 柏原屋與左衛門
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永九年十二月

民家分量記續編

以前「民家分量記」と題せしを
此度改題板行申出
板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永十年正月

繪本すゝめの嫁入

丁數六丁 新版
板元 橋屋忠兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永十年三月

小調大全諸藝訓

大本 墨付三十丁
作者 吉文字屋市兵衛
板元 右 同 人
出願 安永十年三月
許可 安永十年三月二十六日

古今 深山草

作者 津國屋善五郎
板元 千草屋平兵衛
出願 安永十年三月
許可 安永十年三月二十六日

釋迦如來御一生記

以前「釋迦之本地」と題せしを
此度改題板行申出
板元 柏原屋與左衛門
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 安永十年四月

東 詠

作者 高 庄 治 郎
板元 鹽 屋 平 助
出願 安永十年四月
許可 安永十年四月二十日

譯文要訣

作者 高 庄 治 郎
板元 鹽 屋 平 助
出願 安永十年四月
許可 安永十年四月二十日

大成正字通

作者 吉文字屋市兵衛
板元 右 同 人
出願 安永十年四月
許可 安永十年四月二十日

月令博物筌

作者 吉文字屋市兵衛
板元 右 同 人
出願 安永十年四月
許可 安永十年四月二十日

衛生易簡方合本

全部十二冊
作者 明 胡 漢 菴
校合人 岡 慈 菴
板元 和泉屋文助
出願 安永十年四月

許可 安永十年四月二十日

繪商賣往來

作者 大和屋六兵衛
板元 和泉屋文助
出願 安永十年四月
許可 安永十年四月二十日

趙子昂龍興寺碑銘

板元 藤屋彌兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天明元年四月

裝觀奇賞

作者 萬屋新右衛門
板元 秋田屋市兵衛
出願 天明元年閏五月
許可 天明元年七月七日

解經秘藏要略

作者 寺 尾 伊 織
板元 秋田屋市兵衛
出願 天明元年閏五月
許可 天明元年七月七日

琴曲絲のえほり

作者 龜 嶋 檢 校
板元 柏原屋與左衛門
出願 天明元年閏五月
許可 天明元年七月七日

餘 辯

作者 米屋德兵衛
板元 河内屋平兵衛
出願 天明元年閏五月
許可 天明元年七月七日

女用歌學選

以前「繪本千歳春」と題せしもの
内一丁半「女訓三才圖會」
と題せしもの、内二十一丁「女
古今集」と題せしもの、内三十
三丁「歌書大全」と題せしもの
内二十五丁「女詩經」と題せ
しもの、内五十丁以上五種を
合冊とし此度改題板行申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天明元年閏五月

錦囊重寶文字選

以前「節用文選」と題せしもの
と「四體千字文」と題せしもの
とを合冊とし此度改題板行申
出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天明元年閏五月

女万要花月臺

以前「倭百人一首」と題せしもの
の「婦人教訓」と題せしもの
とを合冊にし口繪及び奥書三
丁彫足し此度改題板行申出
板元 柏原屋與左衛門
右板元よりの申出で本屋行
司にて開届け板行
申出年月 天明元年閏五月

落花詩

折數七折半
筆者 元、趙子昂
板元 本屋清左衛門
出願 天明元年六月
許可 天明元年六月二十七日

諸國怪談實記

作者 那波屋重右衛門

板元 吉文字屋市兵衛 (播磨住用)
出願 天明元年六月 (本機町中之町)
許可 天明元年六月二十七日

女嬋方百ヶ條

一冊
以前「繪本千歳春」と題せしもの、内三丁「高砂百人一首」と題せしもの、内二十三丁「女教訓古今集」と題せしもの、内五十丁「古今百人一首」と題せしもの、内六丁以上四種を合せて一冊とし此度改題板行申出

板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年六月

淨るり 闇の磔

三冊
新板申出
板元 増田屋源兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年六月

繪本武蔵山

三冊
作者 寺澤昌次 (安堂寺町三丁目)

板元 泉屋卯兵衛 (心齋町)
出願 天明元年六月
許可 天明元年六月二十七日

清刻古文孝經序跋

一冊
集者 清、鮑廷博
板元 丹波屋助七 (尾崎町一丁目)
出願 天明元年六月
許可 天明元年六月二十七日

題林畫譜

三冊
以前「講書影法師」と題せしもの、發句を削り去り此度改題板行申出
板元 田原屋平兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年六月

立花百瓶圖

二冊
以前「立花指要」と題せしもの、内百瓶圖のみを抜摺りにし板行申出
板元 河内屋嘉兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年七月

教訓女式歌枝折

一冊
以前「繪本千歳春」と題せしもの、内一丁「娘教訓百人一首」と題せしもの、内五十丁「女今川姫小松」と題せしもの、内三十一丁以上を合冊とし此度改題板行申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年七月

百人一首女教訓拾要

一冊
以前「繪本千歳春」と題せしもの、内二丁「女教訓古今集」と題せしもの、内三十一丁「女詩經賣文」と題せしもの、内五十丁「娘教訓百人一首」と題せしもの、内五十丁以上を合冊とし此度改題板行申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年七月

博學文要四民寶

一冊
以前「節用文選」と題せしもの、内六丁と「文會節用」と題せしものとを合冊とし此度改題

板行申出
板元 吉文字屋市兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年七月

俳諧浪花宗匠發句集

一冊
作者 雲如 (京島中一丁目)
板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年八月
許可 天明元年九月朔

古方便覽

二冊
作者 六角主計 (酒邊町)
板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年八月
許可 天明元年九月朔

衆書字彙

一冊
筆者 黒井九郎兵衛 (炭屋町)
板元 粉屋長五郎 (長橋十丁目)
板元 大塚屋惣兵衛 (博愛町)
出願 天明元年八月

許可 天明元年九月朔

有馬土産 風俗錦木摺

一冊
繪師 大和屋吉兵衛 (内本町橋詰町)
板元 大和屋清藏 (松江町)
出願 天明元年八月
許可 天明元年九月朔

たばこ入 繪本人形袖あはせ

二冊
作者 繪師 酢屋平十郎 (江戸堀五丁目)
板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)
出願 天明元年八月
許可 天明元年九月朔

拾遺雲門即道禪師語録

一冊
作者 西方禪寺太樹 (和州吉野)
板元 山口屋又一 (津村西之町)
出願 天明元年八月
許可 天明元年九月朔

大和風雅

三冊

選者 藤本庄司 (和州新ノ口村)

藏板 右 同人
支配人 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年九月

御文便蒙記

二冊
作者 先啓 (美濃不破郡原村)
板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目)
出願 天明元年九月

万玉百人一首寶文庫

一冊
作者 畫工 郡 關月 (京島新地中二丁目)
板元 柏原屋清右衛門 (福慶町五丁目)
出願 天明元年九月

桂雲集類題

一冊
作者 有賀長取 (折屋町)
板元 増田屋源兵衛 (鹽町二丁目)
出願 天明元年九月

和州孝子善兵衛傳

一冊
作者 藤本庄司 (和州新ノ口村)

板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年九月

繪本勇氣艸

三冊
畫工 中井香松 (南堀江五丁目)
板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年十月
許可 天明元年十月二十四日

怪談御伽話

四冊
作者 壺屋茂兵衛 (播州高砂)
板元 丹波屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)
出願 天明元年十月
許可 天明元年十月二十四日
(附記) 本書は一名を「深雪草」ともいふ

神傳方角吉凶考小本

一冊
作者 平島官藏 (大坂内渡路町)
板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年十月
許可 天明元年十月二十四日

今古 唐のよし野

五冊

作者 伊丹屋善兵衛 (島町一丁目)
板元 鹽屋平助 (南久太郎町六丁目)
出願 天明元年十月
許可 天明元年十月二十四日

狂哥軒の松

一冊
作者 園果亭義果
板元 富士屋長兵衛
右板元よりの新板發行申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年十月

増補絲のしき

一冊
増補板行申出
板元 田原屋平兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年十月

曆之抄大成

二冊
再板申出
板元 秋田屋徳右衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明元年十月

米相場略

一冊
新板發行申出

<p>作者 伏見屋嘉兵衛 (江戸橋三丁目) 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明元年十一月</p> <p>新童子往來万寶大全 改題板行申出 一冊 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明元年十一月</p> <p>怪談仙界鏡 六冊 以前「新御伽婢子」と題せしを 此度改題板行申出 板元 柏原屋庄兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明元年十一月</p> <p>源氏野眞玉の巻 二冊 作者 宗 椿 (泉州堺) 板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 天明元年十一月 許可 天明元年十二月十四日</p> <p>新增懷寶塵劫記大全</p>	<p>丁数一百七十七丁半 一冊 作者 秋田屋徳右衛門 (常安裏町) 板元 右 同 人 出願 天明元年十一月 許可 天明元年十二月十四日</p> <p>掌中金錢相場割圖 一枚摺 新板發行申出 作者 高 庄 次 郎 板元 秋田屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明元年十一月</p> <p>俳諧 秀詠評林 一冊 新板發行申出 板元 鹽 屋 平 介 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明元年十一月</p> <p>唐詩絶句選 一冊 以前「萬首絶句選」と題せしを 此度改題板行申出 板元 河内屋八兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年正月</p>	<p>雜俳新選 一冊 新板發行申出 板元 富士屋長兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年正月</p> <p>安永十米相場略 一冊 新板發行申出 板元 藤屋彌兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年正月</p> <p>續茶器價録 一冊 作者 小川屋清右衛門 (錦町二丁目) 板元 柏原屋清右衛門 (南久寶寺町五丁目) 出願 天明二年二月 許可 天明二年二月二十五日</p> <p>勤化 兵庫築嶋傳 五冊 作者 圓 信 (島 州) 板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 天明二年二月 許可 天明二年二月二十五日</p>	<p>狂歌百首 一冊 作者 淨 運 寺 (河州藤野村) 板元 柏原屋佐兵衛 (備馬町) 出願 天明二年二月 許可 天明二年二月二十五日</p> <p>狂歌藻鹽草 二冊 作者 淨 運 寺 (河州藤野村) 板元 柏原屋佐兵衛 (備馬町) 出願 天明二年二月 許可 天明二年二月二十五日</p> <p>員九雜談集 一冊 以前「厚顔記」と題せしを此度 改題板行申出 板元 秋田屋徳右衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年三月</p> <p>錢 彙 三冊 作者 芳川 維 堅 (北久太郎町四丁目) 板元 柏原屋清右衛門 (南久寶寺町五丁目) 出願 天明二年三月 許可 天明二年四月五日</p>
--	---	--	---

<p>中山觀音夢物語 五冊 作者 岡本一樂子 板元 敦賀屋六兵衛 (安堂寺町五丁目) 出願 天明二年三月 許可 天明二年四月五日</p> <p>會 約 後篇 折本 一冊 筆者 額 彌 太 郎 (島 州) 板元 和泉屋文助 (御池通六丁目) 出願 天明二年三月 許可 天明二年四月五日</p> <p>大和廻道法繪圖 一枚摺 作者 藤 本 庄 司 (和州新ノ口村) 板元 鹽 屋 平 助 (南久太郎町六丁目) 出願 天明二年四月 許可 天明二年四月二十八日</p> <p>豆腐百珍 一冊 作者 淺野松蘿坊 (高麗橋二丁目) 板元 藤 屋 善 七 (高麗橋二丁目) 出願 天明二年四月 許可 天明二年四月二十八日</p>	<p>疾醫新話 一冊 作者 六角 主 計 (通 通 町) 板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 天明二年四月 許可 天明二年四月二十八日</p> <p>傷寒方譯 一冊 作者 鈴 木 大 助 (南輪屋町) 板元 河内屋喜兵衛 (南久太郎町六丁目) 出願 天明二年四月 許可 天明二年四月二十八日</p> <p>妙法蓮華經 八冊 句讀付 折本 文字校合者 省 吾 (加州金澤) 板元 増田屋源兵衛 (鹽町二丁目) 出願 天明二年四月 許可 天明二年四月二十八日</p> <p>早引節用集 一冊 再板發行申出 板元 柏原屋與左衛門 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年五月</p>	<p>万寶字典 一冊 以前「萬寶即座引」と題せし内 の人事部に「字典節用」を合せ て一冊とし此度改題板行申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年五月</p> <p>季分部類字引 一冊 以前「俳諧絲屑」と題せしを此 度改題板行申出 板元 吉文字屋市兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年六月</p> <p>禪 關 策 進 頭書三冊 再板發行申出 板元 伊丹屋庄次郎 板元 河内屋平兵衛 右板元よりの申出でを本屋行 司にて開届け板行 申出年月 天明二年六月</p> <p>般若心經會抄 一冊 作者 玉川 雲 起 (野田村) 板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)</p>	<p>出願 天明二年六月 義經翁問答 三冊 作者 兼工 寺澤昌次 (車 町) 板元 絲屋市兵衛 (伏見南野町四丁目) 出願 天明二年六月</p> <p>萬物急用間合即座引 一冊 作者 本 屋 治 助 (岩田町) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁) 出願 天明二年六月 許可 天明二年六月二十三日</p> <p>大黒天神像考 一冊 作者 日和 佐 玉 英 (讃州九龜) 板元 河内屋徳兵衛 (錦屋町) 出願 天明二年八月 許可 天明二年八月三十日一應却下さ る</p> <p>鼻あぶら 一冊 作者 伏見屋利兵衛 (あはぎ岡崎町)</p>
---	--	---	---

義經軍談辨疑

校合人 林 正 藏 一冊
板元 萬屋新右衛門 (鳴の内岩田町) (前助四郎町)

出願 天明四年五月

許可 天明四年六月十日

兒童艸

作者 瀧 龍 亭 一冊
板元 山口屋又一 (讃州元山) (津村西町)

出願 天明四年五月

許可 天明四年六月十日

小説字彙

作者 河内屋八兵衛 一冊
板元 藤屋彌兵衛

出願 天明四年五月

許可 天明四年六月十日

病救 妙藥手引草

以前「救病不邪方」と題せしを此度改題板行申出

板元 藤屋彌兵衛

出願 天明四年五月

許可 天明四年六月十日

司にて開届け板行
申出年月 天明四年五月

童蒙歌字盡

作者 唯 心 一冊
板元 絳屋市兵衛 (讃州天造)

出願 天明四年七月

許可 天明四年七月二十八日

繪本杯殿罵

畫工 酢屋源十郎 二冊
板元 萬屋新右衛門 (江戸堀五丁目) (前助四郎町)

出願 天明四年七月

許可 天明四年七月二十八日

繪堂御書傳略解

作者 靜專院甚願 (天王寺) 三冊
板元 敦賀屋九兵衛 (徳屋町)

出願 天明四年七月

許可 天明四年七月二十八日

賣渡し居たるを此度本屋仲間
敦賀屋九兵衛方を板元とし賣
弘むることゝなれるなり

譯筆餘言

以前「用字便蒙」と題せしを此
度改題板行申出

板元 田原屋平兵衛

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月

音曲早合點

畫工 墨付六丁 新板發行申出

板元 萬屋新右衛門

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月

仁義くるま

作者 川口西州 (天王寺村) 一冊
板元 鹽屋喜助

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月

西漢言筭

作者 川口西州 (天王寺村) 二冊
板元 鹽屋喜助

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月

板元 増田屋源兵衛 (鹽町二丁目)

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月二十八日

本有今無偈論

作者 如 日 一冊
板元 増田屋源兵衛 (鹽町二丁目)

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月二十八日

白鹿洞揭示副譯

作者 長野仙二郎 (江戸) 一冊
板元 萬屋新右衛門 (前助四郎町)

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月二十八日

讀本童禮知要

作者 石 天 基 一冊
板元 萬屋新右衛門 (前助四郎町)

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月二十八日

女萬歳寶文庫

以前「萬歳百人一首寶文庫」と
題せしを此度改題板行願出

作者 畫工 英揚齋部關月 (尾崎町一丁目)

出願 天明四年八月

許可 天明四年八月二十八日

早口あたり顔

墨付十八丁 新板發行申出

板元 萬屋利右衛門

出願 天明四年九月

許可 天明四年九月

怪談淺問ヶ嶽

以前「怪談都舞紙」と題せしを
此度改題板行申出

板元 鹽屋平助

出願 天明四年九月

許可 天明四年九月

思花街客性

作者 竝木五兵衛 十冊
板元 萬屋新右衛門

出願 天明四年九月

許可 天明四年九月

商賣往來

板元 吉文字屋市兵衛

出願 天明四年九月

經驗醫療手引草

右板元よりの申出に接し本屋
行司は如何にすべきかを議し
たるに本書は先に角の芝居に
て上演したる狂言を讀本にせ
しものゆゑ芝居より既に願ひ
濟みのものなれば開届けても
差支あるまじと決し板行のこ
とを本屋行司に於て開届ける
ことゝなしたり

申出年月 天明四年九月

許可 天明四年九月

小兒醫療手引草

以前「醫療座右」と題せしもの
を二分しその一分を此度改題
發行申出

板元 吉文字屋市兵衛

出願 天明四年九月

許可 天明四年九月

雙鈞人 高安庄次郎

墨付二十三丁 藏

板元 藤屋善七 (高麗橋一丁目)

出願 天明四年十月

許可 天明四年十月二十日

古今和歌集打聽

作者 上田秋成 (淡路町切丁)

出願 天明四年十月

許可 天明四年十月二十日

彩色 九重にしき

畫工 青井南卜 (木町一丁目)

出願 天明四年十一月

女書札重寶記

以前「女文論重寶記」と題せし
を此度改題發行申出

板元 柏原屋與左衛門 (鹽町五丁目)

出願 天明四年十二月

許可 天明四年十二月

荻のふほり

再板發行申出

板元 柏原屋清右衛門

出願 天明四年十二月

許可 天明四年十二月

增補千代の友

以前「千代の友」と題せしもの
に二丁増補し改題發行申出

板元 鹽屋平介

出願 天明五年正月

許可 天明五年正月

申出年月 天明五年二月

古易精義指南 二冊
丁數一百四十二丁

作者 新井篤光 (京)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

絹布重寶記 小本 一冊
丁數五十二丁

作者 田宮楚洲 (遠屋町)

板元 柏原屋虎吉 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

新選花木帖 四冊
丁數一百四十四丁

作者 岩井金平 (本町四丁目)

板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

(附記) 本書板行の義願ひ出でたれども仔細ありて差止めらる

詩歌詠併集 一冊
丁數四十丁

筆者 浦井輝藏 (江戸)

板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

商賈往來 一冊
丁數二十四丁

筆者 長武左衛門 (大坂)

板元 柏原屋虎吉 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

肥後孝子傳 三冊
丁數一百三十七丁

作者 中村忠亭 (肥後)

板元 柏原屋與左衛門 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

教訓童子常の心得 一冊
丁數二十六丁

筆者 藤原門次

板元 河内屋喜兵衛 (油掛町)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

後撰異曲集 三冊
丁數一百六十四丁

板元 萬屋新右衛門 (南船四郎町)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

如意 一冊
丁數一冊

板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年二月

許可 天明五年二月二十六日

淡々發句集續編 二冊

校合者 竹上夷柏 (淨覺町)

板元 丹波屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 天明五年三月

許可 天明五年三月

操百人一首色紙箱 一冊

作者 高橋平介 (南久寶寺町五丁目)

板元 秋田屋市兵衛

出願 天明五年三月 (安堂寺町五丁目)

按摩導引指南秘傳抄 一冊

再板發行願出

板元 小刀屋六兵衛 (津村東之町)

出願 天明五年三月

大成宗派圖 折本 一枚

再板發行願出

作者 互明 (幕)

板元 丹波屋傳兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 天明五年三月

狂歌栗落穂 一冊

新板發行願出

板元 富士屋長兵衛

出願 天明五年三月

許可 天明五年三月

和歌組題草むすび 一冊

作者 笠果亭拾栗 (北久太郎町五丁目)

板元 鴻池屋長右衛門 (北久太郎町五丁目)

出願 天明五年四月

楷林 二冊
丁數六十四丁

輯者 右近衛岩倉可波

校合者 合半齋 (道修町三丁目)

板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年四月

許可 天明五年四月

剛氣五論 一冊

作者 山口剛三郎 (上本町二丁目)

板元 富士屋長兵衛 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年四月

許可 天明五年四月

大坂買物手引草 一冊

半紙三ツ切本

舊板は折本なりしを仕立を換

板元 河内屋喜兵衛 (板行申出)

右板元よりの申出でを本屋行

司にて開届け板行

申出年月 天明五年五月

許可 天明五年五月

人倫大意 一冊

作者 中村忠亭 (肥後橋本)

板元 柏原屋與左衛門

出願 天明五年六月 (扇町五丁目)

許可 天明五年七月朔

狂歌虎の巻 一冊
丁數五十二丁

撰者 陰山白練齋 (今鷹二丁目)

板元 鹽屋三郎兵衛 (今鷹二丁目)

出願 天明五年六月

許可 天明五年七月朔

俳諧青根か峯 五冊

墨付一百三十一丁半

校定者 岡本芳齋 (本町二丁目)

板元 袴屋久左衛門 (天満十丁目)

出願 天明五年六月

許可 天明五年七月朔

桂百人一首玉免 一冊
丁數六十一丁

畫工 竹原春朝齋 (伏見屋四郎兵衛町)

板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)

出願 天明五年七月

許可 天明五年七月二十二日

年代掌中早鑑 折本 一冊

撰者 柳原鬼作 (南久太郎町六丁目)

板元 河内屋喜兵衛 (北久太郎町五丁目)

出願 天明五年七月

許可 天明五年七月二十二日

非南留別志 二冊
丁數三十四丁

作者 富士谷層城 (京)

板元 萬屋新右衛門 (南船四郎町)

出願 天明五年七月

許可 天明五年七月二十二日

早引殘字節用集 一冊
丁數一百七十六丁

作者 堀田馬宿 (南久太郎町二丁目)

板元 柏原屋與左衛門 (高麗橋二丁目)

出願 天明五年八月

許可 天明五年八月二十九日

新增用文筆道訓 一冊

作者 高橋平右衛門 (南久太郎町六丁目)

板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)

出願 天明五年八月

許可 天明五年八月二十九日

譯文要訣附錄 一冊
丁數十七丁

作者 高安庄次郎 (南久太郎町四丁目)

出願 天明五年八月

許可 天明五年八月二十九日

鮫皮精義 二冊
丁數五十一丁

作者 稻葉新右衛門 (南船四郎町)

板元 萬屋新右衛門 (南船四郎町)

出願 天明五年八月

許可 天明五年八月二十九日

懷中手本 一冊

筆者 森田永吾 (信濃町)

板元 河内屋喜市 (筋屋町)

出願 天明五年八月

許可 天明五年八月二十九日

三國相承宗分統譜

繪本芦手机前編 三冊
繪本芦手机後編 三冊

作者 山本橋平 (瓦町二丁目)
板元 和泉屋文助 (御池通六丁目)
出願 天明六年六月
許可 天明六年七月二十六日

儒門法語 一冊

作者 清、彭定求
板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)
出願 天明六年六月
許可 天明六年七月二十六日

字貫 四十冊

作者 清、玉錫侯
板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目)
出願 天明六年六月
許可 天明六年七月二十六日

俳諧七日の鶴 一冊

撰者 東 溪 (志 磨)
板元 鹽屋喜助 (南久太郎町六丁目)
出願 天明六年七月
許可 天明六年七月二十五日

俳諧桃のゑろみ 一冊

撰者 車 蓋 (京 都)
板元 鹽屋喜助 (南久太郎町六丁目)
出願 天明六年七月
許可 天明六年七月二十五日

家庭指南 一冊

作者 綾部進平 (豊後杵築)
板元 敦賀屋六兵衛 (福慶町五丁目)
出願 天明六年七月
許可 天明六年七月二十五日

あきはぎ帖 一冊

筆者 小野道風
板元 敦賀屋六兵衛 (福慶町五丁目)
出願 天明六年八月
許可 天明六年八月二十一日

老婆禪 一冊

撰者 松木龍水 (陸 奥)
板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目)
出願 天明六年八月

衆方規矩方解補 二冊

許可 天明六年八月二十一日
作者 加藤玄順 (三河吉田)
板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)
出願 天明六年八月
許可 天明六年八月二十一日

字典年中重寶選 一冊

以前「字典」と題せしものと「節用年中行事」と題せしものとを合本にし此度改題發行申出
板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之町)
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明六年八月

論語訓 二冊

以前「東岳先生筆稿」と題せしもの、内一部分を此度改題發行申出
板元 依屋太郎吉 (南本町三丁目)
申出年月 天明六年十月

孟子訓 二冊

以前「東岳先生筆稿」と題せしもの、内一部分を此度改題發行申出
板元 依屋太郎吉 (南本町三丁目)
申出年月 天明六年十月

以前「東岳先生筆稿」と題せしもの、内一部分を此度改題發行申出
板元 依屋太郎吉 (南本町三丁目)
申出年月 天明六年十月

素人評判記 三冊

新板發行申出
板元 袴屋久左衛門
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明六年十月

續續大疑録 一冊

作者 新崎國林 (阿 州)
板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

醫一古 一冊

作者 新崎國林 (阿 州)
板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

假名附消息 一冊

筆者 長友松 (高麗橋三丁目)
板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

造物趣向種 二冊

畫工 山村屋元作 (天満橋屋町)
板元 井筒屋傳兵衛 (板 木町)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

五十番狂哥合 一冊

作者 高松要介 (天満舟大工町)
板元 井筒屋傳兵衛 (板 木町)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

援山消息集 一冊

筆者 森川曹吾 (南本町二丁目)
板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)
出願 天明六年十月十八日

援山かな文章 一冊

許可 天明六年十二月廿四日
筆者 森川曹吾 (南本町二丁目)
板元 奈良屋長兵衛 (本町二丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

孝經司馬光指解 一冊

校合者 尾藤良佐 (伊豫國川之江)
板元 増田屋源兵衛 (鹽町二丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

正學指掌 二冊

作者 尾藤良佐 (伊豫國川之江)
板元 増田屋源兵衛 (鹽町二丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

都の家土産 一冊

筆者 内田耕玉 (堂島濱一丁目)

井筒屋次介 (堂島舟大工町)

板元 井筒屋次介 (堂島舟大工町)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

子昂歸田賦附蜀道難 一冊

筆者 元、趙子昂 (福慶町五丁目)
板元 吉文字屋文藏 (福慶町五丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

觀音經墨本 一冊

筆者 牟岐隆陽 (筋 屋町)
板元 河内屋嘉市 (筋 屋町)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

女教百人一首操種 女要小倉文臺

増補 佛像圖彙 五冊
校合畫工 土佐將曹 (南平野町村)
板元 秋田屋市兵衛 (安堂寺町五丁目)
出願 天明六年十月十八日
許可 天明六年十二月廿四日

以前「操百人一首」と題せしを此度改題發行申出
板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目)
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明六年十月

八木虎の巻 一冊

再板發行申出
板元 柏原屋佐兵衛
右板元よりの申出でを本屋行司にて開届け板行
申出年月 天明六年十一月

古文孝經解 一冊

作者 仲 道 齋 (淡州志氣)
板元 龜屋安兵衛 (心 齋町)
出願 天明六年十一月十六日
許可 天明六年十二月十五日

古今和哥集打聽 十四冊

七之卷より二十之卷まで
校正者 上田 秋 成 (淡路町切丁)
板元 柏原屋與左衛門 (福慶町五丁目)
出願 天明六年十一月十六日

<p>雲井のかり 一冊 作者 宮南 耕齋 板元 藤屋彌兵衛 出願 天明七年八月</p> <p>温疫發微 一冊 調點者 猪下修敬 板元 本屋又兵衛 出願 天明七年八月</p> <p>濟勝具 三冊 校閱者 細合半齋 板元 本屋又兵衛 出願 天明七年十月</p> <p>左傳名數國字解 一冊 作者 西村遠里 板元 大和屋忠三 出願 天明七年十月</p> <p>論孟名數解 一冊 作者 西村遠里 板元 大和屋忠三 出願 天明七年十月</p> <p>掌中以呂波韻 折本一冊 輯者 半井莊二</p>	<p>板元 敦賀屋九兵衛 出願 天明七年十月</p> <p>詩歌詠併集七言部 二冊 筆者 浦井郷藏 板元 河内屋八兵衛 出願 天明七年十月</p> <p>尊圖親王御筆戴霜帖 折本一冊 摸者 森田永吾 板元 河内屋嘉市 出願 天明七年十一月</p> <p>長雄流出世文章 一冊 筆者 小嶋屋藤右衛門 板元 阿波屋清次 出願 天明七年十一月</p> <p>和漢名家書繪 五冊 書者 月岡雪鼎 板元 富田屋藤七 出願 天明七年十一月</p> <p>白鹿洞書院揭示講義 一冊 作者 淺見重次郎</p>	<p>板元 河内屋八兵衛 出願 天明七年十一月</p> <p>入繪おしえ草 二冊 作者 後選夷曲集抄 板元 依屋太郎吉 出願 天明七年十一月</p> <p>再二十四孝繪抄 一冊 書工 岡田玉山 板元 依屋奈良吉 出願 天明七年十一月</p> <p>狂歌鳩の杖 二冊 作者 銅屋貞柳 板元 柏原屋佐兵衛 出願 天明七年十一月</p> <p>天馬賦 一冊 作者 池野秋平 板元 河内屋八兵衛 出願 天明八年二月</p> <p>白隱和尚施行歌繪抄 一冊 作者 玉川雲起 板元 播磨屋九兵衛</p>	<p>出願 天明八年二月</p> <p>佛說父母恩難報經 一冊 作者 東嶺和尙 板元 增田屋源兵衛 出願 天明八年二月</p> <p>佛說大藏正教孟蘭盆經 一冊 作者 東嶺和尙 板元 增田屋源兵衛 出願 天明八年二月</p> <p>正徹物語 二冊 作者 正徹 板元 增田屋源兵衛 出願 天明八年二月</p> <p>醫事客難 一冊 作者 五嶋逸玄 板元 增田屋源兵衛 出願 天明八年三月</p> <p>新歌曲之流 一冊 作者 高安庄次郎 板元 柏原屋與左衛門 出願 天明八年三月</p> <p>錦囊智術全書 四冊 作者 吉文字屋市兵衛</p>
---	---	--	--

<p>板元 同人 出願 天明八年五月</p> <p>四書白文 四冊 校合者 吉文字屋市兵衛 板元 同人 出願 天明八年五月</p> <p>千代もと艸 一冊 作者 惺高(故人) 板元 河内屋八兵衛 出願 天明八年五月</p> <p>般若心經兩點付 一冊 校合者 大道寺釋慈宗 板元 藤屋清助 出願 天明八年五月</p> <p>四書 十冊 再板發行願出 校正者 澁川孝德 板元 尼屋定次郎 出願 天明八年五月</p> <p>蘭亭記 一冊 筆者 僧一山 出願 天明八年五月</p> <p>陰符經摘玄 一冊 作者 寺尾東海 出願 天明八年五月</p>	<p>板元 藤屋彌兵衛 出願 天明八年八月</p> <p>相場直指寶 兩面一枚摺 作者 片岡宜親 板元 播磨屋九兵衛 出願 天明八年八月</p> <p>聖諭廣訓 二冊 校正者 曾谷忠介 板元 播磨屋九兵衛 出願 天明八年八月</p> <p>吳子國字解 三冊 作者 宇野耕齋 板元 河内屋八兵衛 出願 天明八年八月</p> <p>甘藷百珍 一冊 作者 鹿島素雪 板元 鹽屋忠兵衛 出願 天明八年八月</p> <p>裁衣便覽 兩面摺一枚 作者 高嶋以寧 板元 鹽屋忠兵衛 出願 天明八年八月</p>	<p>出願 天明八年八月</p> <p>繪子新選染上難形 一冊 作者 岩井金平 板元 鹽屋忠兵衛 出願 天明八年八月</p> <p>易學餘考 一冊 作者 井田龜學 板元 藤屋彌兵衛 出願 天明八年十一月</p> <p>會約續編 折本一冊 筆者 頼彌太郎 板元 和泉屋文助 出願 天明八年十一月</p> <p>繪本名馬揃 三冊 書工 寺澤昌次 板元 藤屋善七 出願 天明八年十一月</p> <p>狂歌つのみ草 一冊 作者 如東亭栗洞 板元 播磨屋九兵衛 出願 天明八年十一月</p>	<p>作者 加藤玄順 板元 吉文字屋市兵衛 出願 天明八年十一月</p> <p>藥方規矩 一冊</p> <p>大學或問 二冊 作者 熊澤蕃山 板元 小野御殿 出願 天明八年十一月</p> <p>藤樹先生書簡 一冊 作者 中江與右衛門(故人) 板元 增田屋源兵衛 出願 天明九年二月</p> <p>似雲和歌集類題 一冊 作者 似雲法師(故人) 板元 增田屋源兵衛 出願 天明九年二月</p> <p>熊澤了介傳 一冊 作者 菱川右門 板元 播磨屋新兵衛 出願 天明九年二月</p>
---	--	---	---

<p>奇掌百圖 一冊 作者 羽積 (博勢町) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 天明九年二月</p> <p>再攝州大坂地圖 折本 板元 曾谷忠助 (高麗橋一丁目) 出願 天明九年二月</p> <p>再大坂書圖 一枚摺 校正者 曾谷忠助 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 天明九年二月</p> <p>再兩面大坂圖 一枚摺 校正者 曾谷忠助 板元 播磨屋九兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 天明九年二月</p> <p>攝州四天王寺圖 一冊 名所古跡略緣起入 畫工 竹原春朝齊 (四郎兵衛町)</p>	<p>板元 藤屋彌兵衛 (高麗橋一丁目) 出願 寛政元年四月</p> <p>ととずがたり 一冊 作者 中井伸藏 (故人) 板元 敦賀屋六兵衛 (順慶町五丁目) 出願 寛政元年四月</p> <p>操大金玉文庫 一冊 畫工 藤月 (北濱一丁目) 板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛政元年四月</p> <p>胡子知言 一冊 作者 宋、胡、宏 板元 河内屋八兵衛 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛政元年四月</p> <p>小學筆記 二冊 校合者 芥宜藏 (播州) 板元 柏原屋清右衛門 (順慶町五丁目) 出願 寛政元年四月</p> <p>史記論文 廿四冊 作者 清、吳、齊、賢 板元 奈良屋長兵衛</p>	<p>出願 寛政元年五月 (本町三丁目)</p> <p>史記評林 論文人 三十冊 作者 漢、司馬遷 板元 奈良屋長兵衛 出願 寛政元年五月</p> <p>孝經講義 一冊 校合者 芥宜藏 (播州) 板元 増田屋源兵衛 (鹽町三丁目) 出願 寛政元年五月</p> <p>安土問答諺注 二冊 作者 岡本重碩 (故人) 板元 増田屋源兵衛 出願 寛政元年五月</p> <p>百福基本勸善錄 一冊 作者 小川屋清右衛門 (鹽町三丁目) 板元 小川屋六藏 (右同町) 出願 寛政元年五月</p> <p>新撰御稜川 五冊 集者 馬宿 (南久太郎町三丁目) 板元 河内屋喜兵衛 出願 寛政元年五月</p>	<p>出願 寛政元年五月</p> <p>通祭小記 二冊 作者 淺見安正 (故人) 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政元年五月</p> <p>大學精翼 二冊 作者 森悅軒 (京郡) 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政元年五月</p> <p>大學精義 一冊 作者 市川多門 (道空町) 板元 河内屋八兵衛 出願 寛政元年六月</p> <p>初學作文圖抄 折本一冊 作者 川合文平 (和歌山) 板元 本屋又兵衛 出願 寛政元年六月</p> <p>學半臨書帖 一冊 筆者 細合半齋 板元 藤屋彌兵衛 出願 寛政元年六月</p> <p>童蒙須知解 一冊 作者 原澤 (播州船場)</p>
---	--	---	--

<p>板元 千草屋平兵衛 (江戸堀三丁目) 出願 寛政元年六月</p> <p>女有職艶文箱 一冊 畫工 岡田玉山 (北濱邊町) 板元 平野屋半右衛門 (天満又次郎町) 出願 寛政元年六月</p> <p>微瘡口訣 一冊 作者 獨嘯庵 (長洲赤田町) 板元 播磨屋新兵衛 (上難波町) 出願 寛政元年八月</p> <p>衛生總微方 一冊 作者 横山正誼 (播州赤穂) 板元 播磨屋新兵衛 (上難波町) 出願 寛政元年八月</p> <p>琴曲音羽山 一冊 輯者 高橋隨柳 (南久寶寺町五丁目) 板元 鹽屋平助 (南久寶寺町五丁目) 出願 寛政元年八月</p>	<p>和漢軍書早合點 一冊 作者 吉田一保 (故人) 板元 吉文字屋市兵衛 (木挽町中之丁) 出願 寛政元年十月</p> <p>錦囊日用良方 二冊 作者 吉文字屋市兵衛 板元 右同 出願 寛政元年十月</p> <p>武勇大功記 三冊 作者 寺澤昌次 (木挽町中之丁) 板元 和泉屋彦兵衛 (備後町四丁目) 出願 寛政元年十月</p> <p>蘭洲茗話 三冊 作者 五井藤九郎 (故人) 板元 敦賀屋六兵衛 (順慶町五丁目) 出願 寛政元年十月</p> <p>史記評林 點付 五十冊 作者 漢、司馬遷 板元 奈良屋長兵衛 出願 寛政元年十一月</p> <p>肥後孝子傳後篇 三冊</p>	<p>作者 中村忠亭 (肥後熊本) 板元 柏原屋與左衛門 (順慶町五丁目) 出願 寛政元年十二月</p> <p>孝經賤の枝折 一冊 作者 中村忠亭 板元 柏原屋與左衛門 出願 寛政元年十二月</p> <p>和らへ歌 一冊 作者 杉浦千祐 (本天満町) 板元 増田屋源兵衛 (鹽町三丁目) 出願 寛政元年十二月</p> <p>忠孝類説 一冊 作者 向井健次郎 (天満十丁目) 板元 増田屋源兵衛 (順慶町五丁目) 出願 寛政元年十二月</p> <p>新三玉和歌集類題 一冊 作者 有賀長取 (折屋町) 板元 奈良屋長兵衛 出願 寛政元年十二月</p> <p>筆道稽古早學問 四冊</p>	<p>右は「筆道入木抄」奥口へ「筆道往來之内廿丁」本朝法帖之内十九丁「四縣千字文之内廿六丁」を差加へ外題相改め發行申出</p> <p>板元 吉文字屋市兵衛 出願 寛政二年正月</p> <p>大阪之内南問屋町孝女傳 一冊 作者 依屋太良吉 (難波町) 板元 井筒屋傳兵衛 (櫻木町) 出願 寛政二年正月</p> <p>萬葉古狀捕 一冊 筆者 下河邊拾水 (京郡) 板元 鹽屋喜介 (南久太郎町六丁目) 出願 寛政二年二月</p> <p>繪本満濂 三冊 畫工 流光齋 (北堀江四丁目) 板元 鹽屋喜介 出願 寛政二年二月</p> <p>男女準則帖 一冊</p>
--	---	---	--

